



千葉大学  
子どものこころの  
発達教育研究センター

Research Center for Child Mental Development  
Chiba University

平成 26～30 年度

外部評価報告書



CHIBA UNIVERSITY



## 目 次

はじめに	1
1.センターの概要	2
1-1. 設立の背景	2
1-2. 千葉センターの教育研究事業	2
1-3. 認知行動療法とは	3
1-4. 期待される効果	3
1-5. センターの組織	3
センター事業内容	4
2. 研究活動	4
2-1. 認知行動療法学部門	4
2-2. 行動医科学部門	5
2-3. Age2 企画室	6
2-4. こころの地域ネットワーク支援室	7
2-5. こころの発達支援教育部門	8
2-6. 認知情報技術部門	9
3. 連合小児発達学研究科千葉校	10
3-1. 研究科の構成図	10
3-2. 教育内容	11
3-2-1. 教員構成と学生の所属状況	11
3-2-2. 設置講座の概要	13
3-2-3. 教育環境	14
3-2-4. 入学者の職種	14
3-2-5. 学位取得率	14
3-2-6. 修了者の進路	15
3-2-7. 授業アンケート集計結果	15
4. 社会貢献	24
5. 管理運営・財務の現況	26
5-1. 委員会・担当教員一覧	26
5-2. 外部資金の獲得状況	27
6. 業績	28
7. 外部評価委員会スケジュール	112
7-1. 評価	113

はじめに

認知行動療法は、うつ病や不安症、強迫症等の治療の第一選択とされる精神療法で、薬物療法に勝るとも劣らぬ効果を有することが医学的根拠（エビデンス）として示されてきております。英国をモデルにした認知行動療法を提供できる人材養成の本格的システムを、千葉大学では日本で初めて、2010年4月から千葉認知行動療法士トレーニングコースとして開始しました。2011年4月に、千葉大学大学院医学研究院に新設された「子どものこころの発達研究センター」は、成人だけではなく、児童思春期のうつ・不安・強迫・摂食障害や発達の問題を持つお子さん方のこころの問題に取り組むことができる高度な専門職業人としての子どものための「認知行動療法士（師）」を養成するシステムづくりを研究しております。同時に、子どもの発達・成長とともに、体の病気の予防だけでなく、心の病気の予防に関しても、学校現場で認知行動療法を用いて、早期介入していく体制づくりの研究も推進しています。2012年4月から、大阪大学、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学、福井大学大学院連合小児発達学研究所の中に、こころの認知行動科学講座（認知行動療法学・メンタルヘルス支援学・認知行動脳科学の3研究領域）を開講させ、そこで、学校現場や臨床現場で活躍する専門家・社会人のための3年制博士課程大学院として、最高学府の教育研究を開始しています。2015年4月から、千葉大学子どものこころの発達教育研究センターと名称に「教育」を加え、全学組織に改組されました。総合大学である千葉大学の利点を生かし、医学、教育学、心理学、工学、情報科学、脳科学などの領域横断的な連携によって、子どものこころの研究を加速させています。また、2016年10月には千葉大学医学部附属病院に認知行動療法センターを開設し、多職種連携によるエビデンスに基づく認知行動療法の提供を開始していきます。2018年度から、千葉大学学内リーディング研究育成プログラムの1つとして、当センターを中心に、「心理学・精神科学の文理横断橋渡し研究拠点（心理精神科学）」プログラムが採択され、活動を開始いたしました。千葉大学の人文、教育、医学などの中堅・若手研究者のグループが核となって、心理学と精神医学に関する研究の先鋭化を目指し、4年目以降は、他の部局をも含めて、全学的な推進のもとでの心理精神科学の世界的レベルの研究拠点化を目指していきます。2018年秋から、文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム（精神関連領域）」に、『メンタル・サポート医療人とプロの連携養成』プログラムが採択され、従来推進してきた高強度の認知行動療法に加えて、一般日常診療の場で遭遇する軽症の不眠、不安、うつ、認知症、依存症等を持つ患者および家族が医師、歯科医師、看護師、薬剤師、コメディカル等がセルフヘルプをガイドする簡易の（低強度）認知行動療法的アプローチによる相談支援を行うメンタルサポート医療人養成をオンライン授業やネット教材を活用して行う人材養成プログラムを立ち上げています。今後とも当センターの教育研究および臨床実践にご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 1. センター概要

### 【1-1. 設立の背景】

少子化時代を迎えたわが国の社会が直面する最大の課題は、「子どものこころを健やかに育てる」ことです。しかしながら、子どものこころはきわめて深刻な危機にさらされ、子どものこころのひずみが問題となっています。たとえば、虐待の問題、青少年の犯罪、「いじめ」を苦にした自殺、広汎性発達障害や注意欠如・多動性障害等の発達障害を持つ子どもの増加などが挙げられます。とりわけ、子どものうつ病、不安障害（パニック障害、強迫性障害、社交不安障害、心的外傷後ストレスなど）、摂食障害の低年齢化が進み、子どものこころのひずみへの介入に対して社会的な要請が高まっています。

一方で、子どものこころを扱う専門家は数が不足しており、さらにその多くは心理学、保健学、看護学、教育学などをそれぞれに修めた専門家であり、各専門領域と経験に基づいて子どものこころを扱っているため、定式化されたものではなく、科学的な視点も不足しているのが現状です。これらの問題を克服するためには、それらの専門家に対して、脳科学、心理学、教育学の統合的観点に立ち、系統だった教育研究を行うのが最も現実的です。子どものこころの問題は複雑であり、またその問題を扱う専門分野は多様であるため、既存の単独の教育機関においては十分な成果を挙げるのが困難になっています。

このような状況の中、2006年4月から文部科学省の支援のもとに、『子どものこころの発達研究センター』における教育研究事業」がスタートし、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学の連携により教育研究の基盤が整備されました。千葉大学大学院医学研究院には、2011年4月1日に「子どものこころの発達研究センター（千葉センター）」が新設されました。2012年4月からは連合大学院小児発達学研究所に千葉大学と福井大学も参加し、それぞれの特色を生かした5大学連携による教育研究基盤体制へと一層の充実が図られました。また、2015年4月からは学内共同教育研究施設として「子どものこころの発達教育研究センター」と改称し、医学、教育学、心理学、専門法務、看護学、工学・融合科学・情報科学などの部局の垣根を超えた教育研究体制を構築して研究を行っています。

### 【1-2. 千葉センターの教育研究事業】

千葉大学には、大学院医学研究院精神医学と認知行動生理学との連携により、成人の不安障害、摂食障害、うつ病に対する認知行動療法の実践と脳科学的研究および教育研究基盤を構築した実績があります。たとえば、千葉大学医学部附属病院精神神経科・子どものこころ診療部において、不安障害や摂食障害の認知行動療法専門外来を開設し、高度に熟練した医療用セラピストを養成する Chiba-IAPT (Improving Access to Psychological Therapy) プロジェクトを立ち上げてきました。

こうしたこれまでの実績を背景に、千葉センターでは「子どもへの認知行動療法に関する教育研究事業」をスタートさせました。ここでは、医師や心理士、看護師・保健師、精神保健福祉士などの資格を有しながら現場で活躍する専門職社会人を、ハイレベルで科学的な子どもへの認知行動療法を実践できる高度専門家や指導者に養成することを目指します。

2016年10月1日には、千葉大学医学部附属病院に認知行動療法センターを設置し、千葉センタースタッフの医師・臨床心理士・看護師等の連携による個人認知行動療法の提供を開始しました。

### 【1-3. 認知行動療法とは】

認知行動療法（Cognitive Behavioral Therapy: CBT）とは、従来の精神療法（カウンセリングなど）の傾聴、受容、共感などの良さをそのままに、さらに、物の考え方（認知）や行動、感情の因子から、症状を維持する悪循環のパターンを同定し、それらを修正する手法を主とした精神療法・心理学的介入のことです。科学的根拠（エビデンス）に基づいた顕著な治療効果を有しつつ、不安症、摂食障害など、多くの精神疾患の治療ガイドラインで第一選択となっています。

### 【1-4. 期待される効果】

#### 1) 学問的波及効果

日本独自の観点から、子どもに対する認知行動療法を開発し、大規模な臨床試験と医科学研究により、明確なエビデンスを世界に示し、日本のみならず世界への普及を目指します。

#### 2) 社会的波及効果

開発された子どもの認知行動療法を実際に臨床現場での治療に用い、また学校現場での予防にも用いて、「子どものこころを健やかに育てる」ことにより、活力ある日本社会の形成に貢献します。

### 【1-5. センターの組織】

子どものこころの発達教育研究センターは以下の6つの部門で構成されています。

- 1) 認知行動療法学部門
- 2) 行動医科学部門
- 3) Age2 企画室
- 4) こころの地域ネットワーク支援室
- 5) こころの発達支援教育部門
- 6) 認知情報技術部門

## 【2. 研究活動】

### 2-1. 認知行動療法学部門

児童思春期の不安、抑うつに対して、欧米でファーストラインの治療法として推奨されているのは認知行動療法であるが、千葉校では、開設以来、その普及に取り組んできた。まず、我が国の問題である専門の治療者の絶対的不足を補うべく、国立大学としては無二の認知行動療法研修コースを設け、世界的なレベルでの治療を提供できる認知行動療法の普及を目指し、毎年多職種からなる研修生を受け入れている。研修生は2年間にわたり、毎週の講義、ワークショップ、グループスーパービジョンに参加し、担当症例の治療効果は常にモニターされ、個人スーパービジョンに活用されている。平成26年度から平成30年度までに心理士、医師、精神保健福祉士等36名の研修生が本コースを修了した。修了生は地域で認知行動療法を実践しており、また、平成28年10月からは千葉大学医学部附属病院に認知行動療法センターが開設され、スタッフとして活躍している。

認知行動療法の治療者の養成と並行して、当部門ではこれまで様々な精神疾患に対する認知行動療法の効果研究において、通常診療単独群を対照群よりも有意に症状を改善させることを実証する研究を進めていたが、平成26年度から30年度にかけて、その成果を論文に発表をおこなった。児童にもよくみられる社交不安症では、抗うつ薬に改善を認めなかった患者を対象に、わが国ではほとんどおこなわれていない、ランダム化比較試験を行い、認知行動療法群は通常診療単独群に比べて有意な症状の改善をしめした (Yoshinaga, 2016)。

同様に、パニック症でもシングルアームでの高い治療効果の確認を経て (Seki, 2016)、現在、ランダム化比較試験の終了間近となっている。また、当部門では、現在の認知行動療法のプログラムの効果をさらに高めるための研究もおこなっており、技法の開発においては、社交不安症、およびパニック症で“初期記憶の書き換え“の効果を検討している。また、患者の認知特性に合わせた治療法の開発として、認知機能改善療法 (CRT) が英国で開発されたが、これをわが国でも認知行動療法の枠組みの中で用いた際の有効性を自閉スペクトラム症で検証した (Okuda, 2017)。現在、神経性やせ症、強迫症でも検証中である。

精神疾患においては、併存症の治療効果に対する影響の要因を同定し、その特徴を検討し、より有効な治療のためのプログラム作りに役立てることも重要であるが、強迫症では、自閉スペクトラム症を併存する患者は、そうでない患者に比し治療予後が不良であると報告されており、当センターの成人の症例でも同様の結果が得られ (Tsuchiyagaito, 2017)、このグループに対応するより有効な治療方針を検討している。

認知行動療法専門の治療者の絶対的な不足が、我が国の課題と述べたが、これを解決するための取り組みも始めている。平成28年度から、強迫症、社交不安症、パニック症を対象に、テレビ会議システムを用いた遠隔認知行動療法の有用性を実証した (Matsumoto, 2018)。また、平成29年度より児童の強迫症に対する遠隔認知行動療法のランダム化比較試験も開始しており、遠方や医療機関の受診が困難な子ども達への早期介入が期待できる。

## 2-2.行動医科学部門

不安症をはじめとした精神疾患の発症には、疾患脆弱性や治療反応性の個人差が強い—「行動医科学部門」では、その個人差をもたらす原因を様々な角度から究明することを目指します。

### ①発達期脳 DNA メチル化再編成をもたらす精神疾患発症脆弱性

近年、外部からのストレスに応じて脳内神経細胞の DNA メチル化がダイナミックに変動する可能性があることが示唆されたことにより、精神疾患の発症脆弱性や回復の背景にそのような変化が関わっている可能性が探られてきています。出生後の DNA メチル化の変化は海馬依存的な恐怖記憶の固定に障害が見られるなど行動上の変化をもたらし、その背景に GABA 受容体の発現低下やグルタミン酸受容体の発現低下などがあることを報告しました(Ishii et al.,2014; Tomizawa et al., 2015)。さらにそうした親世代の行動発現形質の変化が子世代の行動にも影響し得ることを検討しました(Sahara et al.,2019)。

### ②恐怖の獲得と消去、再燃に対する発達と性差の影響

パニック症、社交不安症、外傷後ストレス症 (PTSD) などの不安症疾患は、思春期青年期の若年での発症が多く、さらに女性での有病率が高いといった性差も報告されています。発症脆弱性や治療反応性における発達段階や性の影響の評価は、治療選択における個人への適応に対して精度の良い予測が立ちうる可能性があります。恐怖記憶の固定や消去後の再燃に性差が強く関わっていることを示しました(Matsuda et al.,2015, Matsuda et al.,2018)。

### ③経頭蓋電流刺激法 (t-DCS) による脳可塑性の誘導の認知機能への影響

人の神経系の発達には可塑性が関わっています。近年、頭皮上から電気刺激 (経頭蓋直流電気刺激:tDCS) を与えることが同部位の神経可塑性を誘導することが示されてきました。我々はこのような手法を大脳の左背外側前頭前野に応用することで同部位の反応性を変化させ得ることを脳波で検証し(Terada et al., 2015)、さらに健常者でワーキングメモリが向上することを示しました(Naka et al, 2018)。

### ④神経性やせ症と発達障害への認知機能改善療法 (CRT) の取り組み

神経性やせ症は、思春期の女子生徒に有病率が高く、既に非常に痩せているにも関わらず、まだ太っているという自己認識 (ボディ・イメージ) の障害もあり、治療への抵抗性につながっています。認知機能改善療法 (Cognitive Remediation Therapy : CRT) は、簡単な認知課題を通じて、「思考の柔軟性」と「ものの見方 (捉え方)」に必要な脳機能を改善させていく神経心理学的治療法です。10 週間にわたるセッションを通じて認知機能の改善が結果的に神経性やせ症の治療に有用となることを検証しています。また思考の柔軟性に欠けることの多い自閉スペクトラム (ASD) への応用を検証しました(Okuda et al.2017)。

## 2-3. Age 2 企画室

本企画室では、新生児～幼児を対象として、磁気共鳴分光法（MRS: magnetic resonance spectroscopy）の研究を進めてきた。NMR 現象により得られたプロトン（水や脂肪中の水素原子）信号に含まれる共鳴周波数の情報を分析する方法であり、脳内における代謝産物由来の信号（例：乳酸、N-アセチルアスパラギン酸（NAA）、クレアチンなど）の測定が可能である。本部門では、脳内の代謝産物を測定し、脳内乳酸濃度値と発達との関係、脳内  $\gamma$ -アミノ酪酸（GABA）レベルの測定、および新生児の低酸素性虚血性脳症時における脳内代謝物濃度変化についての検討を進めてきた。

### ①新生児脳内乳酸濃度値についての検討

新生児脳では、疾患などがみられない場合でも、MRS 法において明瞭な乳酸ピークが観測されることが報告されている。本研究は、臨床用 3T MR 装置を用いた in vivo  $^1\text{H}$  MRS 法により新生児期における乳酸の絶対濃度を得て、脳の発達との関連性を調べることを目的とした。新生児 48 名（受胎後 30-43 週）、乳児 9 名（1-12 月）、児童 20 名（4-15 歳）を対象として基底核および半卵円中心を測定した。その結果、新生児期の脳内乳酸濃度の有意に高い定量的な値が得られ、年齢と共に有意に減少することを報告し、脳の発達および機能変化などとの関連性の指標となり得ることが示唆された（Tomiyasu et al., Magn Reson Imaging 2016）。

### ②新生児脳内 $\gamma$ -アミノ酪酸（GABA）レベルについての検討

$\gamma$ -アミノ酪酸（GABA）は脳において主要な抑制性神経伝達である。近年、 $^1\text{H}$ -MRS でのスペクトル差分法（edited-MRS）を用いた in vivo ヒト脳内 GABA レベル測定が行われているが、新生児脳内 GABA の報告はなされていない。本研究は、臨床用 3T MR 装置を用い、新生児脳内 GABA レベルを調べることを目的とした。新生児 38 名、健常対象者 12 名を対象に、基底核と小脳の GABA+（高分子などの寄与含む）およびクレアチン（Cr）濃度を測定した。その結果、新生児群では、両部位において有意に低い GABA+レベルを示した。一方、新生児小脳では Cr 濃度が低いため、GABA+/Cr 比は有意に高かった。本研究により GABA+/Cr の評価は Cr 濃度に注意する必要があることが示唆された（Tomiyasu et al., NMR Biomed 2017）。

### ③新生児の低酸素性虚血性脳症時における脳内代謝物濃度変化についての検討

新生児の低酸素性虚血性脳症（HIE）時における脳内代謝物濃度を調べ、代謝物濃度が予後予測の指標となり得るかを調べることを目的とした。新生児 HIE 68 名（在胎 35-41 週）を対象に、生後 18-96 時間および 7-14 日に脳内代謝物の濃度データを測定した。その結果、予後不良群の生後 18-96 時間での N-アセチルアスパラギン酸（NAA）および Cr 濃度低値、および 7-14 日時でのこれら濃度のさらなる減少は、新生児の予後不良（修正年齢 18-22 ヶ月における死亡もしくは発達と神経発達障害と非常に高い相関があったことから、生後間もない時期における NAA と Cr 濃度は、新生児の予後を予測できることを報告した（Shibasaki et al., Radiology 2018）。

## 2-4. こころの地域ネットワーク支援室

子ども達のこころを取り巻く問題：子どものこころを取り巻く現状には様々な問題がある。例えば、性暴力や避妊をしない/できなかった子どもの予期せぬ妊娠から、子どもの虐待、身体・知的・精神・発達障害、いじめ、非行、自殺、さらには保護者のDVや高齢者虐待、教員間のいじめや大人たちのハラスメント、事故や災害など、子ども達のこころに大きな影響を与える様々な問題にさらされている。各問題が起こる背景には、ストレスや病気、遺伝など単純な問題で片付けられない生物-心理-社会の複雑な問題が横たわっている。これまで、各現場が独立して、それぞれの経験やノウハウに基づく対応をしていたが、主観的な対応や「○○先生だから対応できた」というヒューリスティックなアプローチ、さらにシステム化できない再現性のない個別的アプローチなどでなんとかしのいできた。私たちは過去5年間に、現場に必要な問題点を明確化し、現場と優先順位の合意を取りながら、解決にむけた“How”、即ち実践的で活用しやすいソリューションを構築してきた。誰もが活用しやすいとは、客観的で再現性があり、かつ効果が確認されている科学的な手法だ。現場のノウハウに科学的な手法を組み合わせることで、より子ども達のこころにとって安全と安心を感じられる世界を作って行きたい。

### 研究実績

こころの地域ネットワーク支援室部門では、以下のように実務に基づく応用研究から、研究基盤整備のためのネットワーク作りなど様々な研究実績を過去5年間に創出した。

1. 子どもの地域社会（学校や保育、医療）における認知行動療法を用いた予防的アプローチの効果研究
2. 子ども虐待における医療－福祉－司法－教育機関の多機関連携の研究
3. 摂食障害の早期発見と支援体制の明確化のための調査研究
4. 地（知）の拠点整備事業－「若年者に対するデートDVおよび性暴力の相談ニーズと啓発方法の実態調査」
5. いじめ、発達障害、虐待に関するAI活用を目的としたデータ収集基盤の研究開発（産総研、千葉大附属小・中学校・幼稚園と共同に向けて検討中）

## 2-5.こころの発達支援教育部門

学校や地域社会において、不登校、ひきこもり、いじめなど、子どものメンタルヘルスに関する問題が山積しており、その背景には、発達障害や不安症などの精神疾患がある可能性が指摘されている。そのため精神疾患の予防や早期発見・早期介入の体制を充実させる必要がある。子どもの精神疾患に対し、認知行動療法の治療効果が立証されているが、近年は予防や早期介入にも認知行動療法の有効性が示されている。本部門は、学校や教育委員会等と連携し、子どもの精神疾患の予防や早期発見・介入を行うための研究に取り組んでいる。

### ①認知行動療法に基づく、子どものメンタルヘルスの問題の予防・早期介入のためのプログラム開発と効果検証

平成26年より、子どもの不安症の予防・早期介入のため、小学校高学年児童を対象とする、認知行動療法に基づく予防教育プログラム(CBT)の効果検証研究に取り組んできた。当初は、すでにエビデンスが示されている FRIENDS プログラムの効果研究に取り組んでいたが、プログラムの効果が限定的であった(Matsumoto et al., 2016; Kato et al., 2017)ことから、日本の子どもの社会文化的背景を踏まえた CBT プログラム「勇者の旅」を、平成27年度に開発した。「勇者の旅」プログラムへの参加を希望した地域の子供達(n=29)を対象に実施した予備的研究で、プログラムの実施可能性を確認し(Urao et al., 2016)、県内の小学校5年生(n=72)を対象とした効果研究で、プログラム実施学級児童の不安スコアが非実施学級に比べ有意に低減することを確認した(Urao et al., 2018)。以上の研究成果をもとに、平成28年度以降、文部科学省委託事業「子どもみんなプロジェクト」を通じて広く実践校を募集し、千葉県、千葉市、鳥取県、福岡県八女市、埼玉県吉川市の各教育委員会等と連携しつつ、プログラムの普及と大規模な効果検証研究に取り組んでいる(Urao et al., in preparation)。また、同じく平成28年度より、各地域にて小中学校の教員を対象に「勇者の旅」指導者養成研修会を定期開催し、3年間で延べ650名の指導者を養成した。

### ②児童思春期の高機能自閉スペクトラム症者および家族に対する認知行動療法を用いた心理教育プログラム

自閉スペクトラム症(ASD)の診断には、ASDの知識のみならず、その人が持つASDにはどのような特性があるのかということを理解し、個別性に基づくASDの特性に沿った対処方略や配慮を実施していく必要がある。本センターでは、ASD児/者および保護者に対する、ASDの特性をもちつつも、その特性に対し機能的な対処スキルを育てることでの社会適応の向上を目的とした、CBTを用いた心理教育プログラム「ASDに気づいてケアするプログラム(ACAT)」を開発した。ACATは、当事者とその家族に対し、ASDの検査やセリフモニタリングなどを用いてASDの特性の理解を促し、対処および配慮の支援計画の立案と実行を目的とした全6回のCBTプログラムである。現在、千葉大学を中心に多施設無作為化比較試験を行っている。

## 2-6. 認知情報技術部門

本部門は、精神疾患の病態解明、および認知行動療法の作用機序の解明のために、形態学的 MRI、拡散テンソル画像 (DTI)、機能的 MRI (fMRI)、脳波、注視点検出装置、および認知機能検査などの子どもでも使用可能な非侵襲的な手法を用いて、精神疾患においてみられる脳機能の変化と、脳神経回路における認知行動療法の影響を検討してきた。

### ①強迫症の脳画像研究

強迫症や自閉スペクトラム症 (ASD) は生涯有病率の高い神経発達障害であり、子どもで発症し成人に達しても症状が持続することが多い。また、強迫症は ASD を併発しやすい疾患であるが、併存例では認知行動療法が奏効しづらいことが報告されている。そこで、治療抵抗性を予測する脳部位を探索した。強迫症患者 37 名を寛解群と非寛解群に分け、寛解群と非寛解群の治療前の灰白質体積を、年齢、初発年齢、性別、治療前の Y-BOCS 得点、自閉症スペクトラム指数、うつ、不安得点を共変量として影響を除外して比較した結果、非寛解群で左背外側前頭前皮質の灰白質体積が小さいことがわかった。背外側前頭前皮質は実行機能を担う部位であることから、ASD 傾向とは関係なく、実行機能の低下が CBT に対する治療抵抗性に関与している可能性が示された (Tsuchiyagaito et al., *Front Psychiatry* 2017)。また、拡散テンソル画像 (DTI) から得られた主要な白質神経線維束の性状と自閉スペクトラム傾向との関係を調べた。その結果、ASD を併存する OCD における社会情動発達の影響が鉤状束における白質神経線維束の性状に反映している可能性を報告した (Kuno et al., *Front Psychiatry* 2018)。さらに、認知再構成課題による認知柔軟性 (Sutoh et al., *Scientific Rep* 2015)、自閉スペクトラム傾向と脳形態 (Kobayashi et al., *Magn Reson Med Sci* 2015)、症状ディメンジョンと脳形態 (Hirose et al., *Brain Imaging Behav* 2017) および神経線維性状との関連 (Yagi et al., *Acta Neuropsychiatr* 2017) を報告している。また、国際的な多施設共同研究により、小児期の強迫症における線条体・視床部の側性を探索した。

### ②摂食障害の脳機能画像研究および血清タンパク研究

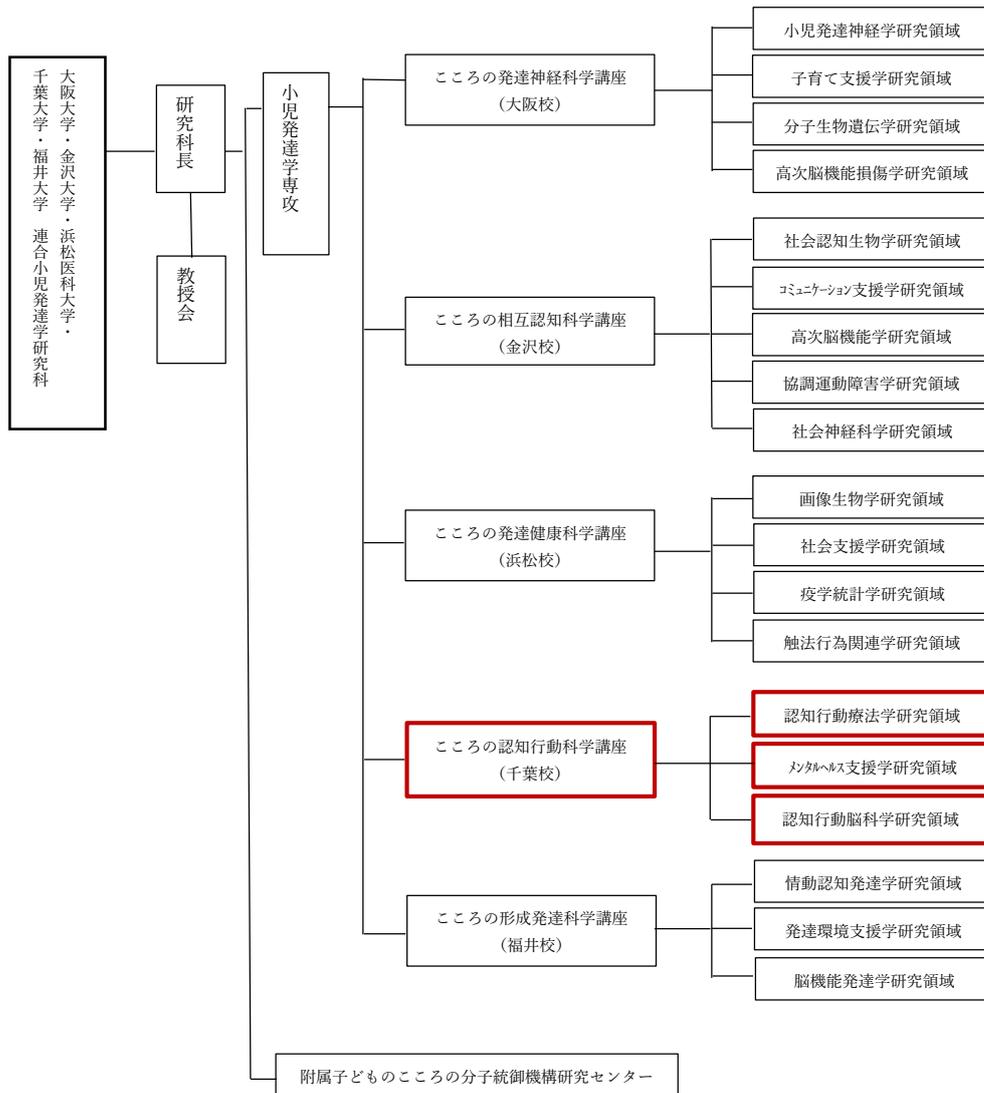
思春期に好発する神経性過食症の研究をすすめてきた。fMRI によるうま味課題により、神経性過食症患者の右島皮質前部の活動上昇と、心地よさとの負の相関があることを報告した (Setsu et al., *Front Psychiatry* 2017)。また、NIRS による数唱課題を用いた脳機能画像研究 (Numata et al., *Eat Weight Disord*, in press) や MMP-9 と意思決定との関連を報告した (Matsumoto et al., *Psychiatry Clin Neurosci* 2017)。

### ③認知機能検査や視点検出技術を利用した脳機能研究

心的回転、中枢性統合、認知柔軟性等の認知機能や、社会的情報への視覚的注意の関連を摂食障害、ASD 児などを対象に研究を進めており、摂食障害の重症度と意思決定の機能低下 (Matsumoto et al., *J Eat Disord* 2015)、女性におけるうつ症状と心的回転の機能低下の関連 (Oshiyama et al., *J Affect Disord* 2018) を報告した。

### 3. 連合小児発達学研究所千葉校 (小児発達学専攻 こころの認知行動科学講座)

#### 【3-1.研究科の構成図】



### 【3-2.活動内容】

#### a) 教育

##### 【3-2-1.教員構成と学生の所属状況】

各研究領域に特任の専任教員が配置され、入れ替わりがあったが、教員数は微増している。また、全ての研究領域に学生が所属し、教員一人当たりの学生数は平成26年度の2名から平成30年度の1.4名と減少し、学生への教育体制は手厚くなっている。平成30年度より任期なし教員が配属された。

連合小児発達学研究科千葉校（小児発達学専攻こころの認知行動科学講座）年度別データ  
平成26年度

研究領域	教授	准教授	講師	助教	合計	学生数
計	2		2	2	6	12
認知行動療法学	1			1	2	8
メンタルヘルス支援学	1		1		2	3
認知行動脳科学			1	1	2	1

平成27年度

研究領域	教授	准教授	講師	助教	合計	学生数
計	2		2	2	6	13
認知行動療法学	1			1	2	5
メンタルヘルス支援学	1		1		2	6
認知行動脳科学			1	1	2	2

平成28年度

研究領域	教授	准教授	講師	助教	合計	学生数
計	2		1	3	6	12
認知行動療法学	1			1	2	3
メンタルヘルス支援学	1			2	3	7
認知行動脳科学			1		1	2

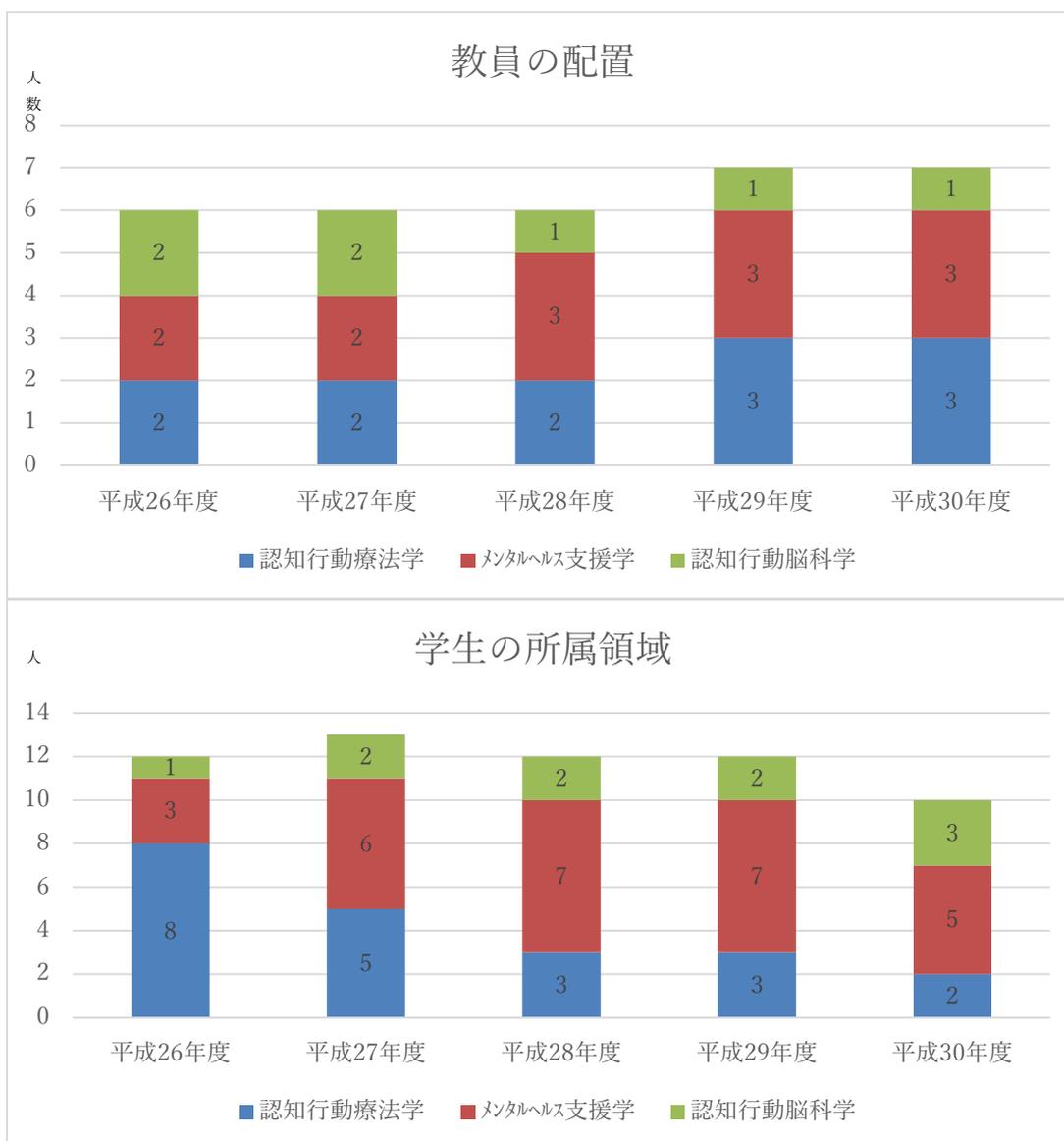
平成29年度

研究領域	教授	准教授	講師	助教	合計	学生数
計	1	2		4	7	12
認知行動療法学	1			2	3	3
メンタルヘルス支援学		1		2	3	7
認知行動脳科学		1			1	2

平成 30 年度

研究領域	教授	准教授	講師	助教	合計	学生数
計	2	1	1	3	7	10
認知行動療法学	1*			2	3	2
メンタルヘルス支援学		1	1	1	3	5
認知行動脳科学	1*				1	3

\*任期無し教員



教員一人当たりの学生数：平成 26 年度～平成 28 年度、2 名。平成 29 年度 1.7 名。平成 30 年度 1.4 名。平均 1.7 名。

【3-2-2.設置講座の概要】

連合小児発達学研究所

講座名(設置大学):こころの認知行動科学(千葉大学)

【事前面談申込先】 千葉大学医学部大学院学務係

TEL:043-226-2009 FAX:043-226-2005

E-mail:sah5234@office.chiba-u.jp

<p>研究領域名: 認知行動療法学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】                  子どものこころの発達教育研究センター(中川彰子 教授)                  TEL:043-226-2975 FAX:043-226-8588                  E-mail:akikon@chiba-u.jp</p>
<p>担当教員名: 中川彰子 教授、伊藤絵美 准教授(兼)、沼田法子 助教、関 陽一 助教</p> <p>(研究内容)                  子どもの不安、抑うつ問題は慢性化して、青年期、成人期まで遷延することが知られている。不安症(パニック症、社交不安症など)、強迫症、PTSD、うつ病、神経性過食症、拒食症、自閉スペクトラム症などの心の病気に対する効果が国際的に実証されている心理療法である認知行動療法の専門家数は我が国においては絶対的に不足している。本講座では認知行動療法を実践できる人材の育成、およびその有効性をさらに高めるための研究を行う。</p>	
<p>研究領域名: メンタルヘルス支援学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】                  子どものこころの発達教育研究センター(大溪俊幸 准教授)                  TEL:043-226-2975 FAX:043-226-8588                  E-mail:otanit@chiba-u.jp</p>
<p>担当教員名: 清水栄司 教授(兼)、杉田克生 教授(兼)、花澤 寿 教授(兼)、大溪俊幸 准教授、大島郁葉 講師、浦尾悠子 助教</p> <p>(研究内容)                  児童思春期には各発達段階においてそれぞれ特徴的な心の発達課題が存在すると考えられている。不安や抑うつ、摂食障がい、発達障がいなどのメンタルヘルス(心の健康)の問題について発達課題に応じた特性を理解し、早期発見、早期介入の観点から、個人あるいは集団に対する認知行動療法も含めて、どのような支援を現場で行うことができるか研究する。</p>	
<p>研究領域名: 認知行動脳科学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】                  子どものこころの発達教育研究センター(平野好幸 教授)                  TEL:043-226-2975 FAX:043-226-8588                  E-mail:hirano@chiba-u.jp</p>
<p>担当教員名: 平野好幸 教授、小島隆行 客員教授、松澤大輔 講師(兼)、久能 勝 助教(兼)、高橋純平 助教(兼)</p> <p>(研究内容)                  自閉スペクトラム症、不安症(パニック症、社交不安症、心的外傷後ストレス障がいなど)、うつ病、強迫症、摂食障がい(神経性やせ症、神経性過食症、過食性障がい)などの精神疾患における認知、行動、注意、感情などの高次脳機能の歪み(バイアス)に関して、非侵襲的脳機能検査や認知機能検査を用いた研究を行う。</p>	

### 【3-2-3.教育環境】

社会人学生が多いことから、講義時間は夕方(16:20~17:50 か 18:00~19:30 のいずれか)に設定され、参加できない学生に対しては、全講義を大阪大学 CLE 授業支援システムにて受講し、レポートを提出することで出席とみなしている。

また、センターには、共用の机が常時3台以上、ノート PC4台、デスクトップ PC1台を備え、商用統計ソフト SPSS、STATA の利用が可能であることに加え、千葉大学図書館亥鼻分館に至近であり学習環境は整備されている。英文校正、論文投稿、研修参加、学会発表に必要な経費を支出している。

### 【3-2-4.入学者の職種】

平成 24 年度

大学教員、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、薬剤師

平成 25 年度

大学教員、看護師、臨床心理士、スクールカウンセラー

平成 26 年度

産業カウンセラー、臨床心理士

平成 27 年度

スクールカウンセラー、音楽療法士、社会保険事務所、元小学校教諭

平成 28 年度

臨床心理士

平成 29 年度

言語聴覚士、薬剤師

平成 30 年度

臨床心理士、リハビリテーションカウンセラー、教育委員会、臨床発達心理士

### 【3-2-5.学位取得率】

入学年度	入学者数 (名)	学位取得者数 (名) 最低修業年限	学位取得率 (%) 最低修業年限	学位取得者数 (名)	学位取得率 (%)	退学者数
平成 24	6	0	0	6	100	0
平成 25	4	2	50	4	100	0
平成 26	2	0	0	2	100	0
平成 27	5	3	60	5	100	0
平成 28*	2	1	50	1	50	0
平成 29	2	-	-	-	-	0
平成 30	4	-	-	-	-	0

\*1名休学中。

### 【3-2-6.修了者の進路】

大学教員・特任研究員・非常勤講師、海外学振特別研究員、研究所研究員、病院・クリニック臨床心理士・精神保健福祉士、自治体・大学心理相談員、スクールカウンセラー、NPO法人理事、グループホーム経営、薬局経営等

### 【3-2-7.授業アンケート集計結果】

(導入科目：認知行動療法学)

#### 1. 授業はシラバスの趣旨と内容に沿って展開されていましたか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
されていた	(4) 80%	(5) 45%	(6) 67%	(11) 100%	(14) 100%	80%
概ねされていた	(1) 20%	(6) 55%	(3) 33%			20%
どちらともいえない						
あまりされていなかった						
されていなかった						

#### 2. 教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
されていた	(2) 40%	(4) 36%	(3) 33%	(9) 92%	(13) 93%	62%
概ねされていた	(3) 60%	(7) 64%	(6) 67%	(2) 18%		36%
どちらともいえない					(1) 7%	2%
あまりされていなかった						
されていなかった						

#### 3. 授業方法や資料は、十分に工夫・準備がされていましたか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
されていた	(3) 60%	(6) 55%	(5) 56%	(9) 82%	(10) 71%	66%
概ねされていた	(2) 40%	(5) 45%	(4) 44%	(2) 18%	(4) 29%	34%
どちらともいえない						
あまりされていなかった						
されていなかった						

#### 4. 教員は受講者との意思疎通を積極的にはかっていたか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
そう思う	(3) 60%	(4) 36%	(7) 78%	(10) 91%	(10) 71%	68%
概ねそう思う	(2) 40%	(7) 64%	(2) 22%	(1) 9%	(3) 21%	30%
どちらともいえない					(1) 7%	2%
あまりそう思わない						
そう思わない						

5. 遠隔講義システムでの受講の際、教員の声は聞き取りやすかったですか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
聞き取りやすい	(3) 60%	(4) 36%	(2) 22%	(9) 82%	(10) 72%	56%
概ね聞き取りやすい	(2) 40%	(3) 27%	(3) 33%	(1) 9%		18%
どちらともいえない		(1) 10%			(1) 7%	4%
やや聞き取りにくい						
聞き取りにくい						
遠隔講義での受講はしたことがない		(3) 27%	(4) 44%	(1) 9%	(3) 21%	22%

6. E-Learning での受講の際、教員の声は聞き取りやすかったですか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
聞き取りやすい	(2) 40%	(1) 10%	(2) 22%	(7) 64%	(5) 36%	34%
概ね聞き取りやすい	(1) 20%	(4) 36%		(2) 18%		14%
どちらともいえない		(1) 10%	(1) 11%			4%
やや聞き取りにくい	(1) 20%		(2) 22%			6%
聞き取りにくい						
E-Learning での受講はしたことがない	(1) 20%	(5) 45%	(4) 44%	(2) 18%	(9) 64%	42%

7. E-Learning 教材は、リアルタイムの受講と遜色ないレベルで提供されていましたか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
問題なかった	(2) 40%	(1) 10%	(2) 22%	(8) 73%	(5) 36%	36%
概ね問題なかった	(2) 40%	(4) 36%	(1) 11%			14%
どちらともいえない		(1) 10%	(1) 11%	(1) 13%		6%
少し問題があった						
問題があった			(1) 11%			2%
E-Learning での受講はしたことがない	(1) 20%	(5) 45%	(4) 44%	(2) 18%	(9) 64%	42%

8. オムニバス講義において、教員間の連携は取れていましたか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
取れていた	(2) 40%	(3) 27%	(3) 33%	(8) 73%	(7) 50%	46%
概ね取れていた	(2) 40%	(7) 64%	(3) 33%	(2) 18%	(6) 43%	40%
どちらともいえない	(1) 20%	(1) 9%	(3) 33%	(1) 9%	(1) 7%	14%
あまり取れていなかった						
取れていなかった						

9. 授業全体を通して授業の難易度は適切でしたか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
非常に難しい				(1) 9%		2%
難しい			(1) 11%			2%
適切	(5) 100%	(11) 100%	(8) 89%	(10) 91%	(14) 100%	96%
簡単						
簡単すぎる						

10. 授業を受講して、この分野に対する新しい知識や考え方を得る上で  
プラスになりましたか？

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	全体
プラスになった	(4) 80%	(8) 73%	(8) 89%	(10) 91%	(14) 100%	88%
少しプラスになった	(1) 20%	(3) 27%	(1) 11%	(1) 9%		12%
どちらともいえない						
あまりプラスにならなかった						
プラスにならなかった						

11. あなたはこの科目に意欲的に取り組みましたか？

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	全体
とても意欲的に取り組んだ	(4) 80%	(6) 55%	(5) 56%	(7) 64%	(10) 71%	64%
意欲的に取り組んだ	(1) 20%	(5) 45%	(3) 33%	(4) 36%	(3) 21%	32%
どちらともいえない			(1) 11%		(1) 7%	4%
あまり意欲的ではなかった						
意欲的ではなかった						

(認知行動療法学演習)

1. 授業はシラバスの趣旨と内容に沿って展開されていましたか？

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	全体
されていた	(3) 75%	(4) 80%	(9) 90%	(5) 72%	(4) 57%	76%
概ねされていた	(1) 25%	(1) 20%	(1) 10%	(1) 14%	(2) 29%	18%
どちらともいえない				(1) 14%	(1) 14%	6%
あまりされていなかった						
されていなかった						

2. 教員の演習実施にかかる事前準備や連絡は、十分にされていましたか？

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	全体
されていた	(2) 50%	(4) 80%	(9) 90%	(6) 86%	(6) 86%	82%
概ねされていた	(2) 50%	(1) 20%	(1) 10%	(1) 14%	(1) 14%	18%
どちらともいえない						
あまりされていなかった						
されていなかった						

3. 授業方法や資料は、十分に工夫・準備がされていきましたか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
されていた	(3) 75%	(3) 60%	(6) 60%	(5) 72%	(4) 57%	64%
概ねされていた	(1) 25%	(2) 40%	(4) 40%	(2) 28%	(3) 43%	36%
どちらともいえない						
あまりされていなかった						
されていなかった						

4. 実験・実習の方法についての説明は、十分にされていきましたか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
されていた	(2) 50%	(4) 80%	(6) 60%	(5) 72%	(4) 57%	64%
概ねされていた	(1) 25%	(1) 20%	(4) 40%		(3) 43%	27%
どちらともいえない	(1) 25%			(1) 14%		6%
あまりされていなかった				(1) 14%		3%
されていなかった						

5. 学生の理解度を反映した授業の進め方がとられましたか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
そう思う	(4) 100%	(4) 80%	(8) 80%	(3) 43%	(6) 86%	76%
概ねそう思う		(1) 20%	(2) 20%	(3) 43%	(1) 14%	21%
どちらともいえない				(1) 14%		3%
あまりそう思わない						
そう思わない						

6. 教員は受講者との意思疎通を積極的にはかっていましたか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
そう思う	(4) 100%	(5) 100%	(7) 70%	(7) 100%	(7) 100%	91%
概ねそう思う			(3) 30%			9%
どちらともいえない						
あまりそう思わない						
そう思わない						

7. 授業全体を通して授業の難易度は適切でしたか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
非常に難しい						
難しい			(1) 10%			3%
適切	(3) 75%	(5) 100%	(9) 90%	(7) 100%	(7) 100%	94%
簡単	(1) 25%					3%
簡単すぎる						

8. 授業を受講して、この分野に対する新しい知識や考え方を得る上でプラスになりましたか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
プラスになった	(4) 100%	(5) 100%	(10) 100%	(7) 100%	(7) 100%	100%
少しプラスになった						
どちらともいえない						
あまりプラスにならなかった						
プラスにならなかった						

## 9. あなたはこの科目に意欲的に取り組みましたか？

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	全体
とても意欲的に取り組んだ	(3) 75%	(4) 80%	(4) 40%	(6) 86%	(5) 71%	67%
意欲的に取り組んだ	(1) 25%	(1) 20%	(6) 60%	(1) 14%	(2) 29%	33%
どちらともいえない						
あまり意欲的ではなかった						
意欲的ではなかった						

## 10. 演習の運営（実施時期、期間、場所、スケジュール等）について、

ご意見をお聞かせ下さい。

### 平成 26 年度

- ・様々な面で先生方に細やかに気づかいいただき、楽しく問題なく参加させていただきました。ありがとうございました。
- ・授業を受ければ受けるほど、学びたいことが増えて、もっと長時間受けたいと思いました。私がシラバスや授業計画書をよく読んでいなかったことが原因だと思いますが、1日目の富士見保育園での演習に関して、午前中に説明を受けて、すぐその日の午後に現場に出向いて実演するというスピードに少し驚きました。実質1時間弱の打ち合わせだけで子どもたちの前に立って質問したり、回答を受けたり、絵本の読み聞かせをさせていただいたりして「ほんとにあれで良かったのか。保育園にご迷惑をおかけしたのではないか。」と、私自身としては反省しきりでしたが、個人的には非常にいい経験をさせていただいたと思っております。
- ・授業開始が10時であったので、毎日とても余裕をもって授業に臨めて良かったです。もう少しハードでも良いかと思いました。

### 平成 27 年度

- ・受講生側が2人しかいない演習にも関わらず、症例検討会という熱心なディスカッションへの参加の機会をいただきありがとうございました。スピードについていけず、
- ・自分の意見が即却下された事も含めてよい経験になりました。
- ・受講者に合わせて適切に無理のないスケジュールが組まれていた。

#### 平成 28 年度

- ・すべてとてもスムーズに過ごせてよかったです。(特に朝の始まりが10時で通学しやすく助かりました。)
- ・いろいろな種類のセラピーを学ぶことができて大変ありがたかったです。
- ・つめこみすぎず、やや時間に余裕のあるスケジュールだったので参加しやすかったと思います。
- ・朝10時からというのがとてもありがたかったです。
- ・特に不自由なくできた。
- ・演習の場所に移動が少なかったため、体力的負担が少なかったです。いろいろとご配慮いただきありがとうございます。
- ・演習の運営は時期、期間、場所、スケジュール共に適切であった。
- ・セミナー室が寒かったです。10時スタートがありがたかったです。ワークが多く、技法/療法の実践がわかりやすかったです。
- ・10時始まりが無理なく有難かったです。

#### 平成 29 年度

- ・診察の陪席、症例検討などの臨床の実践と講義からプログラムが構成されており、体系的に学ぶことができた。
- ・夏のこの時期でとても取りやすかった。
- ・2日目の小学校での実習の内容は素晴らしいと思いましたが、事前に何をやるかの情報がなかったため、少し不安でした。
- ・臨地での実習(小学校・病院)についての具体的な内容はアナウンスされない部分もありましたが、事前に予測できない要素もあると思われるのではないかとかもしれません。
- ・開始時間に少し余裕があっても落ち着いてスタートできたのが良かった。4日間、CBTの様々なアプローチを学び、その場で体験してみる演習の内容も、期間も丁度良かった。
- ・交通の便も大変良かった。
- ・少人数で充実した講義、演習を受けさせていただきありがとうございました。認知行動療法、スキーマ療法、症例検討等多方面から学習させていただき、無理のないスケジュールで進めていただきました。先生方の今現在の研究と結びついたお話もお聞きすることができ、多くの刺激をいただきました。ありがとうございました。

#### 平成 30 年度

- ・私にとっては夏休み期間で、有難いと感じた。どうもありがとうございました。
- ・8月、2-3月に実施されると出席しやすいです。先生方には申し訳ないですが休日に開催されるとありがたいです。

- ・一日の内容に余裕があるように思いました。職場を開けることを考えると初日を午後からとか前泊なしで中の日でもっと遅くまでやってくださっても良いと思いました。

1 1. その他、授業や成績評価に対する要望や提案、感想など、ご自由にご記入下さい。

#### 平成 26 年度

- ・演習・講義の内容が多様であり、かつ具体的で实际的でした。講義で枠組みを教示いただき、さらに、実際のケース検討や診療の場面での学びもあり、大変充実した内容でした。ありがとうございました。
- ・何度か「疲れてないか」という主旨のお尋ねをいただきましたが、全般的に余裕のあるスケジュールだったので、特に疲れを感じることはありませんでした。内容的にも、実習、講義、事例検討会の聴講、診察の陪席という盛りだくさんな中身だった上に、資料も沢山いただきましたので、認知行動療法について幅広く学習することができたと感謝いたしております。
- ・とても有意義な演習でした。これまで自分が働いている職場しか知らなかったため、他大学病院の治療を見せて頂くことは非常に有益な経験となりました。2人だけの参加にもかかわらず、先生方が忙しい合間に本当に手厚く面倒を見てくださり、むしろ申し訳ない気持ちにさえなるくらいでした。少ない人数の参加であったことはむしろ幸運で、たくさん質問をさせて頂く機会が得られ、さらに満足度が上がりました。今回の経験は、学位研究にとどまらず、今後の臨床にも大きな糧となりそうです。本当にありがとうございました。

#### 平成 27 年度

- とても丁寧に教えてくださって、よかった。 実践に近い話や、臨床にあたるものとしての心構えのような話も聞けて、実際に臨床をやっていないと聞けないような話が多く聞けてよかった。
- ・いろいろなお心配りありがとうございました。懇親会で、初めて懇意に話すことができた先生もいらっちゃって嬉しい限りでした。その時の、おいしい千葉のお魚の味とともに大事な思い出にし、今後の勉学の励みにさせていただきます。
  - ・認知行動療法という共通のフレームを基に、強迫性障害を中心とした治療を体験的に知ることができて、とても有意義でした。カンファレンスやSVのスタイルも非常に参考になりました。カンファレンス等で様々な質問紙等のアセスメントツールが出てきましたが、それらが何を測定しているかについてのリストなどがあれば、さらにわかりやすくなるように思いました。

## 平成 28 年度

- ・ 認知行動療法の効果を実感しながらも学ぶ機会をもてなかったので、今回の演習は楽しみにしていました。どの先生の講義も興味深くこれからもっと学びたいという思いで演習を終えることができたこととても嬉しく思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。
- ・ 症例報告を聞いて、数人で話し合いをして、グループごとに発表する授業は、とても参考になりました。しかし、症例報告が長すぎて話し合いの時間が短かったことが大変残念でした。事前に発表時間を20分と決めて、それにそってパソコン資料をまとめ、足りないところは、資料として参加者に配って読んでもらうという方法にすれば短縮できて話し合いの時間も十分に取れると思いました。その点以外は色々なCBTの手法を間近で学ばせていただいて、大変ありがたかったです。ありがとうございました。
- ・ 講義の中にも体験や実際の症例検討もあり、受け身的になりすぎずに参加できる内容がとてもよかったですと思いました。すぐに実際の現場で使えるように教えてください、とても有意義でした。帰ったら早速実践してみようと思います。先生たちとても優しく良い雰囲気を作ってください助かりました。ありがとうございました。
- ・ 授業でも学んだのですがやはりじっくり時間を取って演習をしてみると「わかったつもり」になっていたことがわかりました。また、症例検討会にあまり出たことがなかったのでこれをもとに自分の所でもやってみたいと思いました。
- ・ 可能であればより実践的なものも経験してみたい。
- ・ たくさんの講師の先生に色々な種類の認知行動療法を教えていただけたので、大変勉強になりました。初歩的な質問にも丁寧に答えていただき、本当にありがとうございました。
- ・ 今までトレーニングコースを受けた上での演習参加でしたが、新たな学びも多くいただき、大変ありがたかったです。ありがとうございました。
- ・ 講義形式の授業ではレジュメをいただけると復習等の際に便利だと思いました。(ある授業もありましたが。)
- ・ CB1 入門者にもわかりやすく解説していただき、興味を持って取り組むことができました。ありがとうございました。

## 平成 29 年度

- ・ 症例検討、アセスメントの具体例、診察の陪席等を通して認知行動療法の実践にふれることができ、貴重な学びをいただきました。普段の講義では学ぶことが難しい体験的なワークにも参加することができ、とても勉強になりました。
- ・ 昨年度の授業内容から、今回の演習への展開、そして4日間の内容、順序がとてもよく計画されていて学び多かったです。少なくとも2週間ぐらいいたいと思います。
- ・ CBTと言ってもその中でいろんな技法があり、治療や心理教育など使われる場面も様々で目からうろこの4日間でした。2週間ぐらいいみっちり実習を受けたかったのが本音

です。

- ・フリーディスカッションの時間がたっぷりあったので、なかなか経験できないような演習になりました。そこは強みですね。
- ・先生方の丁寧なレクチャーを楽しく学べて良かった。症例検討会等に参加し、もっと学びを深めたいと思った。
- ・CBTの中でも様々な両方を教えていただくことができて良かった。スキーマ療法や、CFTについてもたくさんの情報を得ることができた。
- ・認知行動療法その他、多くのスキルを学ばせていただき、充実した時間となり、ありがとうございました。臨床と理論背景も知ることができ、今はまだ具体的ではありませんが、今後の学びに結び付けたいと思っています。ありがとうございました。

#### 平成 30 年度

- ・先生方の丁寧なレクチャーを楽しく学べて良かった。症例検討会等に参加し、もっと学びを深めたいと思った。
- ・CBTの中でも様々な両方を教えていただくことができて良かった。スキーマ療法や、CFTについてもたくさんの情報を得ることができた。
- ・認知行動療法その他、多くのスキルを学ばせていただき、充実した時間となり、ありがとうございました。臨床と理論背景も知ることができ、今はまだ具体的ではありませんが、今後の学びに結び付けたいと思っています。ありがとうございました。
- ・とても興味深く学ばせていただきました。ありがとうございました。

#### 【4. 社会貢献】

##### ①自殺予防対策について

・千葉県柏市より自殺予防ゲートキーパー養成研修等事業委託を受け、ひきこもりや社交不安（対人恐怖）の子どもを持つ親，メンタルヘルス対策に関心のある方，教員，スクールカウンセラー等教育関係者，保健福祉医療職の方，ゲートキーパーの基礎知識を有する方などを対象として，認知行動療法を活用して，引きこもりや社交不安などの問題への対処をはじめとした家庭，学校，地域でのメンタルヘルスプロモーションを実施する人材の養成を行った。

・千葉県教育委員会が主催する，小中学校の管理職を対象とした平成 27 年度児童生徒の自殺対策研修会にて，「認知行動療法を活用した子どもの心の健康づくりと自殺対策」と題した講演会の講師を務めた他，夷隅健康福祉センター主催の平成 27 年度自殺対策講演会にて，子どもの心の健康と自殺対策についての研修を派遣した。

##### ②認知行動療法プログラムの実施

・東京都の児童相談センターにおいて，幼児を対象とする認知行動療法プログラムを実施した。

・平成 26 年度は，千葉大学において研修を受けた児童相談所職員が指導に当たり，4・5 歳児が養育者の職員とともに遊びを取り入れたプログラム活動に参加した。

・覚せい剤事犯で仮釈放，もしくは保護観察付の執行猶予となった女性に対して，保護観察終了後の社会復帰後も継続できる，再犯予防を目的とした中期～長期的な援助を行うために，認知行動療法を用いた中～長期的治療プロトコルを開発し，渋谷区にある更生保護施設において，認知行動療法を平成 24 年 9 月から実施した（平成 30 年 3 月までに 45 ケースが終了）。

##### ③講演会・研修会

医師，臨床心理士，産業カウンセラー，教員，一般企業職員，一般市民を対象として，平成 26 年度 54 件，平成 27 年度 40 件，平成 28 年度 37 件，平成 29 年度 43 件の講演会，研修会等を実施し，不安，うつ，強迫や不眠への対処法，ストレスコーピング，学校現場における子どものメンタルヘルスの問題の予防と早期介入のための教員養成，自閉スペクトラム症に対する診断アセスメントスキルの向上，自閉スペクトラム症に気づいてケアするプログラム，スキーマ療法を始めとした認知行動療法を実施する治療者の養成などを行った。千葉県内の教職員を対象とした研修会としては，千葉県立市原特別支援学校の平成 28 年度不祥事防止研修会で校内の教職員に対し「ストレスとうまくつき合うコツを知ろう」と題した研修，千葉県立長生高等学校の平成 28 年度生徒指導・教育相談研修会では「認知行動療法を学校現場で活用するために」と題した研修，平成 29 年度第 10 回市原市精神保健福祉フェスタにて，一般市民を対象に「心の健康を保つ認知行動療法のエッセンス」と題した講演を行った。千葉県外でも，鳥取県教育委員会いじめ不登校総合対策センターにおける平成 28 年度スクラム教育研修会（鳥取県内小中学校教員対象），鳥取大学主催の第 2 回子どもみんなプロジェクト in 鳥取（教育・医療関係者，一般市民対象），日本学校心理士会東京支部

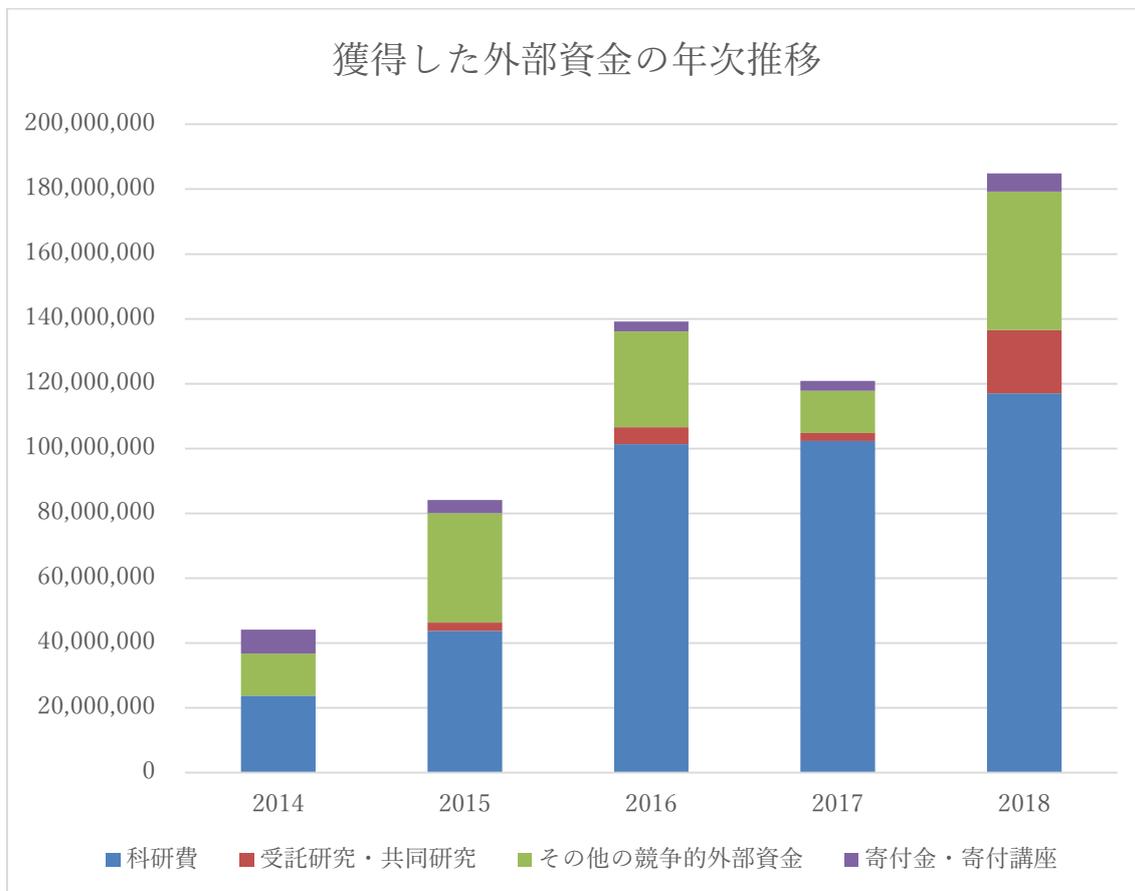
における平成 29 年度第 1 回研修会（会員対象）、青森県教育委員会における平成 29 年度不登校関係機関連絡協議会（学校管理職対象）、鳥取市気高中学校区小中一貫教育連絡協議会における平成 29 年度第 2 回気高中学校区小中合同研修会（鳥取県内小中学校プログラム実践教員対象）、金沢大学主催の子どもみんなシンポジウム 2017 in 金沢（教育・医療関係者、一般市民対象）、鳥取県岩美町立岩美中学校における平成 29 年度校内研修会（校内教職員対象）、鳥取県教育委員会いじめ不登校総合対策センターによる平成 29 年度第 2 回「安心・安全な学校づくりプロジェクト事業」連絡協議会（県内小中学校プログラム実践教員対象）に講師を派遣した。

【5. 管理運営・財務の現況】

【5-1. 委員会・担当教員一覧】

連合小児発達学研究所					
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
副研究科長	中川 彰子 教授	中川 彰子 教授	中川 彰子 教授	中川 彰子 教授	平野 好幸 教授
コンプライアンス推進副責任者	副研究科長 医学部事務長・ 渡邊 栄人	副研究科長 医学部事務長・ 渡邊 栄人	副研究科長 医学部事務長・ 渡邊 栄人	副研究科長 医学部事務長・ 野田 和宏	副研究科長 医学部事務長・ 中山 善将
講座代表者	中里 道子 教授	中里 道子 教授	中里 道子 教授	中川 彰子 教授	中川 彰子 教授
子どものこころのセンター長	清水 栄司 教授	清水 栄司 教授	清水 栄司 教授	清水 栄司 教授	清水 栄司 教授
教務担当	中里 道子 教授 松本 有貴 講師 浅野 憲一 助教	中里 道子 教授 松本 有貴 講師 浅野 憲一 助教	中里 道子 教授 浦尾 悠子 助教	中川 彰子 教授 浦尾 悠子 助教	大島 郁葉 講師 浦尾 悠子 助教
遠隔講義システム担当	倉山 太一 助教	倉山 太一 助教	平野 好幸 講師	平野 好幸 准教授	平野 好幸 教授
入試担当	中里 道子 教授 浅野 憲一 助教	中里 道子 教授 浅野 憲一 助教	中里 道子 教授 浅野 憲一 助教	平野 好幸 准教授 浅野 憲一 助教	平野 好幸 教授
FD 担当	松本 有貴 講師	松本 有貴 講師	大島 郁葉 助教	大島 郁葉 助教 沼田 法子 助教	大島 郁葉 講師
将来構想ワーキング	清水 栄司 教授 中川 彰子 教授 中里 道子 教授	清水 栄司 教授 中川 彰子 教授 中里 道子 教授	清水 栄司 教授 中川 彰子 教授 中里 道子 教授	清水 栄司 教授 中川 彰子 教授	清水 栄司 教授 中川 彰子 教授 平野 好幸 教授
評価担当	中川 彰子 教授	中川 彰子 教授	中川 彰子 教授	中川 彰子 教授	中川 彰子 教授
データベース担当	平野 好幸 講師 倉山 太一 助教	平野 好幸 講師 倉山 太一 助教	平野 好幸 講師 浅野 憲一 助教	平野 好幸 准教授 大浜 俊幸 准教授	平野 好幸 教授 関 陽一 助教
広報担当	中川 彰子 教授 平野 好幸 講師	中川 彰子 教授 平野 好幸 講師	中川 彰子 教授 平野 好幸 講師	中川 彰子 教授 平野 好幸 准教授	中川 彰子 教授 沼田 法子 助教
機関誌編集委員	中里 道子 教授	中里 道子 教授	中里 道子 教授 平野 好幸 講師	平野 好幸 准教授 大浜 俊幸 准教授	平野 好幸 教授 大浜 俊幸 准教授
ハラスメント防止対策委員会(兼ハラスメント相談員)	中川 彰子 教授 松本 有貴 講師	中川 彰子 教授 松本 有貴 講師	中川 彰子 教授 大島 郁葉 助教	平野 好幸 准教授 浦尾 悠子 助教	平野 好幸 教授 浦尾 悠子 助教
子どものこころの発達教育研究センター					
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
省エネ推進員	—	平野 好幸 講師	平野 好幸 講師	平野 好幸 准教授	平野 好幸 教授
部局情報システム管理者・部局情報保護管理者		平野 好幸 講師	平野 好幸 講師	平野 好幸 准教授	平野 好幸 教授
亥鼻事業場代議員	中里 道子 教授	中里 道子 教授	平野 好幸 講師	平野 好幸 准教授	平野 好幸 教授

【5-2. 外部資金の獲得状況】



	2014	2015	2016	2017	2018
科研費	23,730,000	43,746,087	101,400,000	102,318,396	117,050,000
受託研究・共同研究	0	2,600,000	5,135,000	2,500,000	19,500,000
その他の競争的外部資金	13,050,000	33,719,780	29,567,659	12,939,429	42,706,132
寄付金・寄付講座	7,360,000	4,100,000	3,100,000	3,100,000	5,616,200
計	44,140,000	84,165,867	139,202,659	120,857,825	184,872,332

## 平成26年度業績

### 英語文献

#### 原著論文

1. Mataix-Cols D, Turner C, Monzani B, Isomura K, Murphy C, Krebs G, Heyman I. Cognitive-behavioural therapy with post-session D-cycloserine augmentation for paediatric obsessive-compulsive disorder: pilot randomised controlled trial. *Br J Psychiatry*. 2014;204:77-8
2. Kuroiwa D, Obata T, Kawaguchi H, Autio J, Hirano M, Aoki I, Kanno I, Kershaw J. Signal contributions to heavily diffusion-weighted functional magnetic resonance imaging investigated with multi-SE-EPI acquisitions. *Neuroimage* 2014;98:258-65
3. Isomura K, Boman M, Rück C, Serlachius E, Larsson H, Lichtenstein P, Mataix-Cols D. Population-based, multi-generational family clustering study of social anxiety disorder and avoidant personality disorder. *Psychol Med*. 2014;12:1-9
4. Nishimura Y, Takahashi K, Ohtani T, Ikeda-Sugita R, Kasai K, Okazaki Y. Dorsolateral prefrontal hemodynamic responses during a verbal fluency task in hypomanic bipolar disorder. *Bipolar Disord*. 2014 Sep 4
5. Ohtani T, Levitt J, Nestor P, Kawashima T, Asami T, Shenton M, Niznikiewicz M, McCarley R. Prefrontal cortex volume deficit in schizophrenia: a new look using 3T MRI with manual parcellation. *Schizophr Res*. 2014;152:184-90
6. Ohtani T, Bouix S, Hosokawa T, Saito Y, Eckbo R, Ballinger T, Rausch A, Melonakos E, Kubicki M. Abnormalities in white matter connections between orbitofrontal cortex and anterior cingulate cortex and their associations with negative symptoms in schizophrenia: a DTI study. *Schizophr Res*. 2014;157:190-7
7. Kimura H, Kanahara N, Komatsu N, Ishige M, Muneoka K, Yoshimura M, Yamanaka H, Suzuki T, Komatsu H, Sasaki T, Hashimoto T, Hasegawa T, Shiina A, Ishikawa M, Sekine Y, Shiraishi T, Watanabe H, Shimizu E, Hashimoto K, Iyo M. A prospective comparative study of risperidone long-acting injectable for treatment-resistant schizophrenia with dopamine supersensitivity psychosis. *Schizophr Res*. 2014;155:52-8
8. Matsuzawa D, Shirayama Y, Niitsu T, Hashimoto K, Iyo M. A new perspective of deficits in emotion based decision making in schizophrenia. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry*. in press
9. Ohtani T, Nestor P, Bouix S, Hosokawa T, Saito Y, Kubicki M. Medial Frontal White and Gray Matter Contributions to General Intelligence. *PLoS ONE*. 2014 Dec 31;9(12):e112691
10. Ishii D, Matsuzawa D, Matsuda S, Tomizawa H, Sutoh C, Shimizu E. Methyl donor-deficient diet during development can affect fear and anxiety in adulthood in C57BL/6J mice. *PLoS One*. 2014;9:e105750

11. Kawaguchi H, Obata T, Takano H, Nogami T, Suhara T, Ito H. Relation between Dopamine Synthesis Capacity and Cell-Level Structure in Human Striatum: A Multi-Modal Study with Positron Emission Tomography and Diffusion Tensor Imaging. PLoS ONE 2014;9:e87886
12. Niitsu T, Ishima T, Yoshida T, Hashimoto T, Matsuzawa D, Shirayama Y, Nakazato M, Shimizu E, Hashimoto K, Iyo M. A positive correlation between serum levels of mature brain-derived neurotrophic factor and negative symptoms in schizophrenia. Psychiatry Res. 2014;215:268-73
13. Omatsu M, Obata T, Minowa K, Yokosawa K, Inagaki E, Ishizaka K, Shibayama K, Yamamoto T. Magnetic displacement force and torque on dental keepers in the static magnetic field of an MR scanner. J Magn Reson Imaging. 2014;40:1481-6
14. Matsuki K, Watanabe A, Ochiai S, Kenmoku T, Ochiai N, Obata T, Toyone T, Wada Y, Okubo T. Quantitative evaluation of fatty degeneration of the supraspinatus and infraspinatus muscles using T2 mapping. J Shoulder Elbow Surg. 2014;23:636-41
15. Kawaguchi H, Hirano Y, Yoshida E, Kershaw J, Shiraishi T, Suga M, Ikoma Y, Obata T, Ito H, Yamaya T. A proposal for PET/MRI attenuation correction with  $\mu$ -values measured using a fixed-position radiation source and MRI segmentation. Nucl Instrum Methods Phys Res A. 2014;734:156-61
16. Sasaki T, Hashimoto K, Tachibana M, Kurata T, Kimura H, Komatsu H, Ishikawa M, Hasegawa T, Shiina A, Hashimoto T, Kanahara N, Shiraishi T, Iyo M. Tipepidine in adolescent patients with depression: a 4 week, open-label, preliminary study. Neuropsychiatr Dis Treat. 2014;10:719-22
17. Sasaki T, Hashimoto K, Tachibana M, Kurata T, Okawada K, Ishikawa M, Kimura H, Komatsu H, Ishikawa M, Hasegawa T, Shiina A, Hashimoto T, Kanahara N, Shiraishi T, Iyo M. Tipepidine in children with attention deficit/hyperactivity disorder: a 4-week, open-label, preliminary study. Neuropsychiatr Dis Treat. 2014;10:147-51
18. Niitsu T, Shirayama Y, Matsuzawa D, Shimizu E, Hashimoto K, Iyo M. Association between serum levels of glial cell-line derived neurotrophic factor and attention deficits in schizophrenia. Neurosci Lett. 2014;575:37-41
19. Matsuda S, Matsuzawa D, Ishii D, Tomizawa H, Shimizu E. Effects of memory age and interval of fear extinction sessions on contextual fear extinction. Neurosci Lett. 2014;578:139-42
20. Kobori O, Sawamiya Y, Iyo M, Shimizu E. A comparison of manifestations and impact of reassurance seeking among Japanese individuals with OCD and depression. Behav Cogn Psychother 2014 Jun 3:1-12
21. Nishikido F, Obata T, Shimizu K, Suga M, Inadama N, Tachibana A, Yoshida E, Ito H, Yamaya T. Feasibility of a brain-dedicated PET-MRI system using four-layer DOI detectors integrated with an RF head coil. Nucl Instrum Methods Phys Res A. 2014;756:6-13
22. Ishikawa R, Kobori O, Komuro H, Shimizu E. Comparing the roles of washing and non-washing behaviour in the reduction of mental contamination. J Obsessive Compuls Relat Disord. 2014,3,60-4

23. Sato T, Muroya K, Hanakawa J, Asakura Y, Aida N, Tomiyasu M, Tajima G, Hasegawa T, Adachi M. Neonatal case of classic maple syrup urine disease: usefulness of (1) H-MRS in early diagnosis. *Pediatr Int*. 2014;56:112-5
24. Kobori O, Nakazato M, Yoshinaga N, Shiraishi T, Takaoka K, Nakagawa A, Iyo M, Shimizu E. Transporting Cognitive Behavioral Therapy (CBT) and the Improving Access to Psychological Therapies (IAPT) project to Japan: preliminary observations and service evaluation in Chiba. *Journal of Mental Health Training, Education and Practice*. 2014;9:155-66
25. Niitsu T, Takaoka K, Uemura S, Kono A, Saito A, Kawakami N, Nakazato M, Shimizu E. The psychological impact of a dual-disaster caused by earthquakes and radioactive contamination in Ichinoseki after the Great East Japan Earthquake. *BMC Res Notes*. 2014;7:307
26. Ishikawa R, Kobori O, Shimizu E. Development and validation of the Japanese version of the obsessive-compulsive inventory. *BMC Res Notes* 2014;7:306
27. Ishikawa R, Kobori O, Shimizu E. Developing a Japanese version of the Mental Pollution Questionnaire and examining the cognitions that contribute to mental contamination. *Asia Pac J Couns Psychother* 2014;5:179-92
28. Yoshinaga N, Shimizu E. Social skills training encourages a patient with social anxiety disorder to undertake challenging behavioral experiments. *Br J Med Med Res* 2014;4:905-13
29. Oshima F, Nishinaka H, Iwasa K, Ito E, Shimizu E. Autism spectrum traits in adults affect mental health status via early maladaptive schemas. *Psychology Research*. 2014;4:336-344
30. Yoshinaga N, Hayashi Y, Yamazaki Y, Moriuchi K, Doi M, Zhou M, Asano K, Shimada M, Nakagawa A, Iyo M, Yamamoto M. Development of nursing guidelines for inpatients with obsessive-compulsive disorder in line with the progress of cognitive behavioral therapy: a practical report. *J Depress Anxiety* 2014;3:1000153

## 日本語文献

### 原著論文

1. 中里道子, 木村大, 金原信久, 伊豫雅臣. 摂食障害に対する反復性経頭蓋磁気刺激法の効果 —難治例への適応について— *総合病院精神医学*. 26 巻第 2 号 145-153
2. 岡田加奈子, 花澤寿, 他 専門力を基盤とした「連携・コーディネート力の向上」を目指す養護教諭研修プログラムとその評価 *千葉大学教育学部研究紀要* 62, 329-33
3. 今関文夫, 潤間励子, 齋藤佳子, 藤本浩司, 吉田智子, 生稲直美, 齊川郁子, 今井千恵, 鍋田満代, 千勝浩美, 土屋美香, 岩倉かおり, 大溪俊幸. 特定健診受診者におけるメタボリック症候群への進行予測因子の検討; *CAMPUS HEALTH*. 51:421-422

4. 松田真悟, 佐二木順子. ビスフェノール A 曝露マウスの不安様行動ならびに脳内モノアミン濃度について—実験結果からみた精神障害のリスクとしてのビスフェノール A— ちば県民保健予防財団調査研究ジャーナル 3 : 9-18
5. 鎌田浩志, 武田湖太郎, 橋爪善光, 倉山 太一, 末長宏康, 近藤国嗣, 西井淳, 大須理英子, 大高洋平. 歩行解析のための新しい足底接地センサ (STANS) の開発. 総合リハビリテーション 42, 67-71

## 総説

1. 清水栄司. DSM-5 を理解するための基礎知識 身体症状症および関連症群 精神神経学雑誌 116 巻 10 号 880-884
2. 清水栄司, 最上多美子, 守口善也, 今井正司, 須藤千尋. ニューロサイエンスと認知行動療法の統合. 認知療法研究, 第 7 巻 2 号, 144-153
3. 中里道子, 中川彰子, 清水栄司. 英国の留学事情-モーズレイ病院, 精神医学研究所における研修を経て-特集 II 海外に留学する研究者からみた, その国の留学事情-わが国との研究, 医療状況などにおける比較- 精神科 25: 167-172
4. 中里道子. 摂食障害の認知行動療法-導入までの道しるべ- 日本森田療法学会雑誌 25: 53-59
5. 中里道子, 中川彰子, 清水栄司. 英国の留学事情-モーズレイ病院, 精神医学研究所における研修を経て-特集 II 海外に留学する研究者からみた, その国の留学事情-わが国との研究, 医療状況などにおける比較- 精神科 25(2): 167-172, 2014.
6. 薛陸景, 平野 好幸, 中里 道子. 摂食障害とうま味について -脳神経基盤との関連から- 総説特集 情動と食:適切な食育へ向けて-6. 日本味と匂学会誌 vol.21. No.2. pp.149-158
7. 大川玲子. 性機能についての比較検討. 日本性科学会雑誌.32 (Supple) 2012 年.中高年セクシュアリティ調査特集号:47-56
8. 大川玲子. 特集. がん患者の性・妊娠・出産.女性の性反応と性機能障害. がん看護.19:274-276
9. 伊藤絵美. 認知行動療法の新しい流れ: 診断横断的アプローチやスキーマ療法など 精神療法第 40 巻第 1 号 金剛出版 特集: 精神療法の未来

10. 伊藤絵美. 解決志向ブリーフセラピー:事例へのコメント 津川秀夫・大野浩史(編著) 認知行動療法とブリーフセラピーの接点, pp.145-149. 日本評論社 黒沢幸子先生の事例へのコメント
11. 大溪俊幸, 高橋克昌, 西村幸香, 池田伶奈, 岡田直大, 岡崎祐士. 【そこが知りたかった!-生理機能検査 最新の動向-】 脳神経 光トポグラフィー 光トポグラフィー検査による精神疾患の鑑別診断補助 臨床病理レビュー. 151号 Page95-102
12. 松澤大輔, 中川彰子【自閉症の分子基盤】強迫と自閉 分子精神医学. 14巻2号 Page104-111
13. 平野好幸, 中川彰子, 須藤千尋, 松澤大輔, 小島隆行, 中里道子, 清水栄司. 認知行動療法と脳画像. 子どものこころと脳の発達 5巻1号 45-50
14. 平野好幸, 小野塚實. 日常生活の脳科学3 嘔むことと認知機能. Brain and Nerve 66巻1号 25-32
15. 三重県児童相談所, 高岡昂太. 児童相談所リスクアセスメント職員向けガイドライン (未公開資料)
16. 内川英紀. 「特大号/保護者への説明マニュアル 脳炎脳症」, 小児科診療, 診断と治療社, 77巻, 11号, p1633-1637
17. 高岡昂太. 子ども虐待への新たなマインドセットへ, 心と社会, 45, 2, 133-138
18. 高岡昂太. 子どものトラウマに対するアウトリーチと多機関連携, 友田明美編, 子どものPTSD:診断と治療.診断と治療社, 178-183
19. 高岡昂太. 子どもの性虐待に対する司法面接, 友田明美編, 子どものPTSD:診断と治療.診断と治療社,184-189
20. 高岡昂太. 子どものトラウマに対する認知行動療法について:虐待との関連から, 友田明美編, 子どものPTSD:診断と治療.診断と治療社, 269-274
21. 高岡昂太.隠れた性虐待の評価と包括的支援,精神科治療学, 29, 5, 621-625
22. 高岡昂太. 子ども虐待におけるアウトリーチ,精神療法, 40, 223-226

23. 関陽一, 清水栄司. 不安症 (パニック症) の認知行動療法. 総合リハビリテーション, 42 卷 10 号, 975-981
24. 大島郁葉, 清水栄司【分担執筆】. 成人の ASD: 連合大学院小児発達学研究所・森則夫・杉山登志郎【編】DSM5 対応・神経発達障害のすべて. 心の科学特別号
25. 松木悟志, 薛陸景, 清水栄司, 伊豫雅臣. 大学病院で認知行動療法を学ぶということ: 千葉大学の場合 認知療法研究 7; 18-28

## 報告書

1. 松本有貴. 2013 年度柏市自殺対策緊急強化事業教育部門フレンズ実施報告書
2. 平野好幸, 小島隆行, 中川彰子, 吉永尚紀, 須藤千尋, 松澤大輔, シュゲシナ チャクラボルティ, 伊藤浩, 辻比呂志, 清水栄司. 社交不安障害の神経基盤と認知行動療法の作用メカニズムの解明 (第 2 報). メンタルヘルス岡本記念財団研究助成報告集 26 巻 印刷中
3. 大溪俊幸, 高橋克昌, 西村幸香, 中北真由美, 岡田直大, 岡崎祐士. 感情障害の診断、治療経過における状態評価、治療転帰の予測における近赤外線スペクトロスコピー (NIRS) の有用性についての検討 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター精神・神経疾患研究開発費 23-10 精神疾患の鑑別診断および転帰の予測における近赤外線スペクトロスコピー (NIRS) の有用性に関する研究 (主任研究者野田隆政) 総括研究報告書平成 23~25 年度
4. 大溪俊幸. 厚生労働科学研究費補助金 (障害者対策総合研究事業 (精神障害分野)) 分担研究報告書 NIRS を用いた精神疾患の早期診断についての実用化研究 [分担研究課題]NIRS 検査の臨床応用の可能性についての研究 NIRS を用いた精神疾患の早期診断についての実用化研究 (課題番号 H23-精神-一般-002) (主任研究者福田正人) 平成 25 年度総括・分担報告書: 82-87
5. 和田一郎, 高岡昂太, 伊角彩. そだれんの効果測定に関する調査・研究 報告書 平成 26 年 3 月 社会福祉法人恩寵財団母子愛育会 日本子ども家庭総合研究所
6. 浦尾悠子. 児童・思春期の子どもに対する集団認知行動プログラムの開発 平成 24 年度豊かな高齢社会の探求 調査研究報告書 ユニバーサル財団

7. 横山麻衣. 「フェミニストカウンセリングと男女共同参画センター——相談者をエンパワーするとはどういうことか」〈男女共同参画センターが行なう相談事業の現状と課題〉研究会『男女共同参画センターの相談事業の実態と課題——全国調査結果・報告書』. 2014
8. 横山麻衣. 「デート DV に詳しい相談員がいると, 責任者の相談室に対する自己評価は上がるのか——相談室の自己評価を規定する要因の包括的分析」, NPO 法人女性のスペース「結」『東京・埼玉の大学学生相談室におけるデート DV 対応に関する調査報告書』2014

### 単行書

1. 大川玲子. セックスレス、中高年の豊かな性生活. Human+女と男のディクショナリー. 日本産科婦人科学会
2. 大川玲子. セクシュアル・ヘルス、性別、性機能. 日本家族協会編. 受胎調節指導用テキスト. p20-31. 日本家族計画協会
3. 大川玲子. 性の発達と性の健康障害. ワギニズムス. 性の健康医学財団編. 性の健康と相談のためのガイドブック. 中央法規出版
4. 大川玲子. 女性の性反応と性機能障害. 性の健康医学財団編. 性の健康と相談のためのガイドブック. 中央法規出版
5. 花澤寿. 瀧澤利行編新版 基礎から学ぶ学校保健 (分担執筆) 建帛社
6. 中里道子, 友竹正人 (翻訳) ジャネット・トレジャー、ウルリケ・シュミット, パム・マクドナルド著. モーズレイ摂食障害支援マニュアル 当事者と家族をささえるコラボレーション・ケア. The Clinician's Guide to Collaborative Caring in Eating Disorders: The New Maudsley Method. 金剛出版
7. 松本有貴. 自然災害を体験した子どもの学校における支援方法とプログラム 友田明美, 杉山登志郎, 谷池正子 (編) 子どもの PTSD 診断と治療
8. 神村栄一 (編) 清水栄司, 伊吹英恵 (分担執筆). 認知行動療法実践レッスン エキスパートに学ぶ 12 の極意 金剛出版
9. 浅野憲一. 心の健康 心理学の基礎 八千代出版 2014

10. 神村栄一（編）伊吹英恵、清水栄司（分担執筆） 認知行動療法 実践レッスン エキスパートに学ぶ 12 の極意 金剛出版 81-99 2014

#### 国際学会

1. Hirano Y, Nakazato M, Setsu R, Koga Y, Matsumoto K, Ando H, Sutoh C, Numata N, Matsumoto J, Masuda Y, Matsuzawa D, Obata T, Iyo M, Shimizu E. BOLD response during the processing of emotional faces in patients with bulimia nervosa. 20th Annual Meeting of the Eating Disorders Research Society, San Diego 2014/10/9-11
2. Nakazato M, Matsumoto J, Numata N, Setsu R, Hirano Y, Sutoh C, Matsuzawa D, Iyo M, Yokote K, Hashimoto K, Shimizu E. Neurocognitive functioning and serum levels of precursor BDNF in people suffering from eating disorders. 20th Annual Meeting of the Eating Disorders Research Society, San Diego 2014/10/9-11
3. Setsu R, Hirano Y, Tokunaga M, Takahashi T, Matsumoto K, Ando H, Numata N, Masuda Y, Iyo M, Nakazato M, Shimizu E. Altered brain activation by umami taste in patients with bulimia nervosa. 20th Annual Meeting of the Eating Disorders Research Society, San Diego 2014/10/9-11
4. Hirose M, Hirano Y, Nakagawa A, Sutoh C, Miyata H, Matsumoto J, Nemoto K, Nakazato M, Asano K, Shimizu E. Relationship between Regional Gray Matter Volume and Symptom Dimension in Obsessive Compulsive Disorder (OCD). 44th European Association for Behavioural and Cognitive Therapies Congress, The Hague, 2014/9/10-9/13
5. Nakagawa A, Hirano Y, Kobayashi T, Miyata H, Matsumoto J, Asano K, Matsumoto K, Nemoto K, Masuda Y, Nakazato M, Shimizu E. Correlation between regional gray matter volume and autistic traits in obsessive-compulsive disorder (OCD). 44th European Association for Behavioural and Cognitive Therapies Congress. The Hague. 2014/9/10-9/13
6. Suzuki T. Workshop: Are Our Eyes Wide Shut?: Identifying and Working Through Our Blindspots, Pennsylvania Psychological Association: 2014 Annual convention. Harrisburg, PA 2014/6/21-22
7. Suzuki T. Workshop: Treating Refugees & Asylum Seekers: Challenges & Shared Learning Opportunities, Pennsylvania Psychological Association: 2014 Annual convention. Harrisburg, PA 2014/6/21-22
8. Suzuki T. Symposium: Challenges and Opportunities in Therapy with Refugees and Asylum-seekers, Philadelphia Society of Clinical Psychologists: Plymouth Meeting, PA 2014/5/9

9. Ohkawa R. Experience from Founding a Sexual Assault Service Center in Japan. 13th Asia Oceania Conference for Sexology. Brisbane, 2014/10/22-26
10. Takaoka K., Yamada F. Discussion about building a first CAC in Japan and barrier factors of Multi-Disciplinary Team. National Children Advocacy Centre annual conference, Huntsville, AL
11. Takaoka K, Yamada F, Mizoguchi F.(2014) What block factors make MDT difficult to deal with child abuse and neglect cases? ; Between child welfare - medical - police and education. International Society of Prevention for Child Abuse and Neglect, Nagoya
12. Hirano Y, Nakazato M, Setsu R, Koga Y, Matsumoto K, Ando H, Sutoh C, Numata N, Matsumoto J, Masuda Y, Matsuzawa D, Obata T, Iyo M, Shimizu E. BOLD response during the processing of emotional faces in patients with bulimia nervosa. 20th Annual Meeting of the Eating Disorders Research Society, San Diego 2014/10/9-11
13. Nakazato M, Matsumoto J, Numata N, Setsu R, Hirano Y, Sutoh C, Matsuzawa D, Iyo M, Yokote K, Hashimoto K, Shimizu E. Neurocognitive functioning and serum levels of precursor BDNF in people suffering from eating disorders. Eating Disorders Research Society 20th Annual Meeting, San Diego 2014/10/9-11
14. Matsumoto Y. Examination of FRIENDS, a Cognitive Behavioral Therapy program for children, as a school-based universal prevention program in Japanese primary schools. Open Paper. European Association of Behavioral and Cognitive Therapies 2014, The Hague, 2014/9/10-9/13
15. Setsu R, Hirano Y, Tokunaga M, Takahashi T, Matsumoto K, Ando H, Numata N, Masuda Y, Iyo M, Nakazato M, Shimizu E. Altered brain activation induced by umami stimuli in patients with bulimia nervosa. Eating Disorders Research Society 20th Annual Meeting, San Diego 2014/10/9
16. Sutoh C, Matsuzawa D, Hirano Y, Yamada M, Nagaoka S, Ishii D, Matsuda S, Tomizawa H, Ito H, Tsuji H, Obata T, Shimizu E. Functional and structural brain representation of cognitive restructuring. 44th European Association for Behavioural and Cognitive Therapies Congress, The Hague, 2014/9/10-9/13
17. Matsumoto J, Nakazato M, Hirano Y, Murano S, Yokote K, Shimizu E. Neuropsychological function in eating disorders: focus on response inhibition and decision-making ability. 44th European Association for Behavioural and Cognitive Therapies Congress, The Hague, 2014/9/10-9/13
18. Hirano Y, Obata T, Sutoh C, Matsuzawa D, Yoshinaga N, Liu Z, Ito H, Tsuji H, Shimizu E. Functional and structural alterations induced by cognitive behavioral therapy in social anxiety disorder. Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB 2014 2014/5/10-16
19. Yoshinaga N, Nosaki A, Unozawa K, Hayashi Y, Shimizu E. A Systematic Review of Cognitive Behavioral Therapy in Nursing Field in Japan. 16th Pacific Rim College of Psychiatrists (PRCP) Scientific Meeting. Vancouver 2014/10/6

20. Takashi R, Yoshinaga N, Shimizu E. Exploration of the Nature of Recurrent Images and Early Memories in Japanese Social Anxiety Disorder. 44th Annual Congress of The European Association for Behavioural and Cognitive Therapies. The Hague 2014/9/10-13
21. Tanaka Y, Masuzawa D, Shimizu E. The Reliability and Validity of the Japanese Version of Spontaneous Use of Imagery Scale (SUIS). 44th Annual Congress of The European Association for Behavioural and Cognitive Therapies. The Hague 2014/9/10-13
22. Nagaoka S, Asano K, Shimizu E. The effect of metaphors in psychoeducation for depression: About the relationship with the autistic traits. 44th Annual Congress of The European Association for Behavioural and Cognitive Therapies. The Hague 2014/9/10-13
23. Yoshinaga N, Hirano Y, Shimizu E. Effectiveness of Cognitive Therapy and Neuronal Alterations in Medication-Resistant Social Anxiety Disorder. 8th International Congress of Cognitive Psychotherapy. Hong Kong 2014/6/26
24. 相田典子, 野澤久美子, 藤公彦, 草切孝貴, 村本安武, 鈴木悠一, 小島隆行, et.al Quiet SWI Versus Conventional SWI: Radiological Evaluation in Pediatric Patients. Joint Annual Meeting of ISMRM 2014 ESMRMB 2014, ISMRM, Milan, 2014/05/13
25. 相田典子, 野澤久美子, 佐藤公彦, 草切孝貴, 村本安武, 鈴木悠一, 小島隆行, et.al Radiological Evaluation of Quiet T1-Weighted PETRA in Comparison with Routine Brain MPRAGE in Pediatric Patients. Joint Annual Meeting of ISMRM 2014 ESMRMB 2014, ISMRM, Milan, 2014/05/13
26. 菅幹生, 岸本理和, 小山敦久, 小島隆行, 辻比呂志, et.al Cross-Validation of Magnetic Resonance Elastography by Continuous Acoustic Vibration and Ultrasound Elastography by Acoustic Radiation Force Impulse: a Phantom Study. Joint Annual Meeting of ISMRM 2014 ESMRMB 2014, ISMRM, Milan, 2014/05/12
27. 立花泰彦, 小島隆行, 井上登美夫, 青木茂樹, et.al Analysis of normal appearing white matter of multiple sclerosis by tensor-based two-compartment model of water diffusion. Joint Annual Meeting of ISMRM 2014 ESMRMB 2014, ISMRM, Milan, 2014/05/14
28. 佐野ひろみ, 小島隆行, 川口拓之, 青天目州晶, 小原哲, Kershaw Jeffrey, 赤羽恵一, 島田義也, 伊藤浩. The influence of temperature on polymer gel radiation dosimetry with MRI. Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB, ISMRM, ESMRMB, Milan, 2014/05/12
29. 菅幹生, 小島隆行, 清水浩大, 錦戸文彦, 橘篤志, 山谷泰賀, et.al Quantitative evaluation of the short-lived eddy currents in shield boxes of the novel MRI head coil integrated with PET detectors. Joint Annual Meeting of ISMRM 2014 ESMRMB 2014, ISMRM, Milan, 2014/05/12
30. 橘篤志, 小島隆行, 立花泰彦, 川口拓之, Kershaw Jeffrey, 青木伊知男, 伊藤浩, 辻比呂志. Development of a hindered-diffusion-dominant DTI phantom made of polyethylene fibers:

Comparison with a restricted-diffusion phantom. Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB 2014, ISMRM, Milan, 2014/05/14

31. 川口拓之, 平野祥之, 吉田英治, Kershaw Jeffrey, 菅幹生, 白石貴博, 小島隆行, 伊藤浩, 山谷泰賀. Optimization of transmission-scan time for the FixER method: a MR-based PET attenuation correction with a weak fixed-position external radiation source 3rd Conference on PET/MR and SPECT/MR (PSMR2014), The PSMR2014 Committee, Greece, 2014/05/19

## 国内学会

1. 廣瀬素久、平野好幸、浅野憲一、松本淳子、宮田はる子、須藤千尋、中里道子、根本清貴、清水栄司、中川彰子. 強迫性障害における症状ディメンジョンと脳の形態との関連. 第 41 回日本脳科学学会大会. 福井. 2014/11/22-23
2. 小林智子、平野好幸、根本清貴、須藤千尋、宮田はる子、松本淳子、浅野憲一、中里道子、清水栄司、中川彰子. 強迫性障害における自閉傾向と脳の形態との関連. 第 41 回日本脳科学学会大会. 福井. 2014/11/22-23
3. 松本淳子、中里道子、平野好幸、中川彰子、村野俊一、横手幸太郎、清水栄司. 摂食障害患者における認知機能の特徴 — 反応抑制と意思決定能力に焦点を当てて —. 第 41 回日本脳科学学会大会. 福井. 2014/11/22-23
4. 伊藤絵美. スキーマ療法入門：生きづらさに対応する統合的認知行動療法入門 日本家族研究・家族療法学会第 31 回神戸大会 2014/7/21
5. 伊藤絵美（企画／司会／話題提供）. スキーマ療法について考える（その 1） 日本心理臨床学会第 33 回秋季大会 2014/8/23
6. 伊藤絵美（指定討論）. 初学者セラピストが感じた認知行動療法の構造化を困難にする要因 日本心理臨床学会第 33 回秋季大会 2014/8/24
7. 伊藤絵美 津高京子、森本雅理、小林仁美. スキーマ療法実践報告（その 1）— その適用範囲と導入の実際 第 14 回日本認知療法学会第 18 回日本摂食障害学会学術集会合同学会 2014/9/12
8. 伊藤絵美（コーディネーター・司会）. 認知行動療法における「認知」のさらなる活用について（その 2） 第 14 回日本認知療法学会第 18 回日本摂食障害学会学術集会合同学会 2014/9/13

9. 伊藤絵美（話題提供）. 司法機関における依存症対応の実態と今後の動向 第 36 回日本アルコール関連問題学会横浜大会 2014/10/3
10. 奥田朋子, 中里道子. 広汎性発達障害を持つ男性に認知機能改善療法 (CRT) を実施した事例－認知機能、日常生活上の効果－(ポスター発表) 第 14 回日本認知療法学会 2014/9/12-9/14
11. 山本誠, 重村知徳, 鈴木豊, 高井幸一, 富安もよこ, 小島隆行, 坂本昭雄. 股関節慢性疼痛患者における DTI 指標変化:MRS との比較研究 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 一般社団法人日本磁気共鳴医学会, 2014/09/18
12. 牧聡, 國府田正雄, 及川泰宏, 古矢丈雄, 稲田大悟, 神谷光史郎, 大田光俊, 榊田喜正, 松本浩史, 小島正歳, 小島隆行. 1H MR スペクトロスコピー (MRS) の脊髄への応用 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 一般社団法人日本磁気共鳴医学会, 2014/09/18
13. 牧聡, 國府田正雄, 及川泰宏, 古矢丈雄, 稲田大悟, 神谷光史郎, 大田光俊, 榊田喜正, 松本浩史, 小島正歳, 小島隆行. 局所励起を用いた高分解能の Diffusion Tensor Imaging による頸椎圧迫性脊髄症の評価 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 一般社団法人日本磁気共鳴医学会, 2014/09/18
14. 岸本理和, 小山敦久, 小島隆行, 尾松徳彦, 菅幹生, 辻比呂志, 鎌田正. VTQ 法と VTIQ 法による剪断弾性波伝搬速度の比較:ファントムを用いた検討 日本超音波医学会第 87 回学術集会, 日本超音波医学会, 2014/05/09
15. 立花泰彦, 小島隆行, 橘篤志, 青木茂樹, 青木伊知男, 井上登美夫, et.al A novel method to practically estimate Axial and Radial Diffusional Kurtosis : a phantom study 異方性を考慮した拡散尖度画像を実用的に推定する試み:ファントムによる検討 第 73 回日本医学放射線学会総会, 日本医学放射線学会, 2014/04/12
16. 相田典子, 富安もよこ, 小島隆行. 先天性小児神経疾患代謝疾患の診断、経過観察における 1H-MRS の有用性 (ポスター発表) 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 一般社団法人日本磁気共鳴医学会, 2014/09/19
17. 立花泰彦, 村田勝俊, 小島隆行, 土屋洋貴, 尾松徳彦, 岸本理和, 堀正明, 青木茂樹, 辻比呂志. Multiple shell 間で MPG エンコード方向が異なる場合の拡散尖度テンソル評価に

- ついでにの検討 (ポスター発表) 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 一般社団法人日本磁気共鳴医学会, 2014/09/19
18. 立花泰彦, 小島隆行, 土屋洋貴, 尾松徳彦, 岸本理和, 錦織瞭, 堀正明, 横山和正, 服部信孝, 青木茂樹, 辻比呂志. 異方性を考慮した拡散尖度画像を推定する手法(eDKI)の応用に向けての検討 (ポスター発表) 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 一般社団法人日本磁気共鳴医学会, 2014/09/18
  19. 岸本理和, 菊地克彦, 尾松徳彦, 小島隆行, 小橋元, 神立進. Shear wave velocity measurement and its reproducibility of US elastography using acoustic radiation force impulse imaging: A volunteer study (ポスター発表) 第 73 回日本医学放射線学会総会, 日本医学放射線学会, 2014/04/12
  20. 小島隆行. 細胞膜水透過性の拡散強調 MRI に対する影響: アクアポリン発現細胞から得られる知見 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 一般社団法人日本磁気共鳴医学会, 2014/09/19
  21. 生駒洋子, 小島隆行, 立花泰彦, 尾松徳彦, 岸本理和, 野宮琢磨, 伊藤浩, 辻比呂志. ダイナミック造影 MRI を用いた前立腺腫瘍における循環動態の定量評価法の検討 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 日本磁気共鳴医学会, 2014/09/18
  22. 川口拓之, 平野祥之, Kershaw Jeffrey, 吉田英治, 白石貴博, 菅幹生, 小島隆行, 伊藤浩, 山谷泰賀. 定位固定外部放射線源を用いた PET/MRI 減弱補正法 (FixER 法): 線源位置の影響の解析 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 日本磁気共鳴医学会, 2014/09/18
  23. 佐野ひろみ, 青天目州晶, 小島隆行, 川口拓之, 小原哲, 赤羽恵一, 伊藤浩, 島田義也. Temperature dependency of polymer gel on radiation dosimetry using MRI 第 107 回日本医学物理学会学術大会, 日本医学物理学会, 2014/04/12
  24. Jeffrey Kershaw, 柴田さやか, 青木伊知男, 小島隆行, 伊藤浩. High resolution OGSE DTI of cerebellar white matter in ex vivo mouse brain. 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 日本磁気共鳴医学会, 2014/09/18
  25. 森昂也, 菅幹生, 黒川孝幸, 阿部貴之, 築根まり子, 森直宜, 小林洋, 藤江正克, 岸本理和, 伊藤浩, 小島隆行, 辻比呂志. 生体組織の緩和時間と粘弾性を模擬した MRE 用ファ

- ントムの開発 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 一般社団法人日本磁気共鳴医学会, 2014/09/18
26. 佐野ひろみ, 川口拓之, 菅幹生, 清水浩大, 錦戸文彦, 山谷泰賀, 小島隆行. PET-MRI 一体型検出器の開発: シールドボックスの発熱評価. 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 一般社団法人日本磁気共鳴医学会, 2014/09/19
27. 橋篤志, 小島隆行, 佐野ひろみ, 立花泰彦, 川口拓之, 福土政広. Diffusion Tensor Imaging のための性能評価ファントムの開発 -経時的安定性と複数個作成時の画一性の評価- 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 一般社団法人日本磁気共鳴医学会, 2014/09/20
28. 佐野ひろみ, 川口拓之, 菅幹生, 清水浩大, 錦戸文彦, 山谷泰賀, 小島隆行. MRI 撮像時における光ファイバー温度計を用いた非磁性導体の発熱評価. Advanced CT・MR 2014, Advanced CT・MR 研究会, 2014/06/14
29. 錦戸文彦, 清水浩大, 稲玉直子, 吉田英治, 田島英朗, 菅幹生, 小島隆行, 山谷泰賀. コイル一体型 PET/MRI 装置のフルリング試作機の開発: 同時撮像における性能評価 第 75 回応用物理学会秋季学術講演会 参加・発表, 応用物理学会, 2014/09/18
30. 山谷泰賀, 錦戸文彦, 田島英朗, 吉田英治, 菅幹生, 羽石秀昭, 清水啓司, 高橋浩之, 井上登美夫, 小島隆行. A Concept Proposal of a Head Coil with DOI PET Detectors to Upgrade Existing MRI to PET/MRI World Molecular Imaging Congress 2014 参加発表, World Molecular Imaging Congress, 2014/09/20
31. 中里道子. ライブ症例検討 2. 第 18 回日本摂食障害学会学術集会, 大阪, 2014/9/14
32. 平野潤, 松澤大輔, 山中義崇, 村田淳, 清水栄司. 小脳に対する経頭蓋直流電気刺激が時間知覚に与える影響 第 16 回世界作業療法士連盟大会・第 48 回日本作業療法学会, 横浜 2014/6/18-21
33. 花澤寿. 第 18 回日本摂食障害学会ライブ症例検討スーパーバイザー 2014/9/14
34. 三尾眞由美, 松本有貴. 本邦の中学生向きに再構成したセルフヘルプフォームの有効性 日本人生哲学感情心理学会 第 18 回大会 千葉 2014/6/14
35. 内川英紀, 小牧宏文, 高木敦子, 水落弘美, 須山麻衣子, 藤井克則. 中心核ミオパチーの 4 歳男児例における中心被蓋路病変 日本小児神経学会総会 2014/5/29

36. 内川英紀, 高木敦子, 池原甫, 八角高裕, 藤田真祐子, 水落弘美, 須山麻衣子, 塩浜直, 井上祐三朗, 藤井克則, 下条直樹. 発達停止・けいれん重積にて発症した家族性血球貪食症候群 3 型の 1 例 小児神経学会関東地方会 2014/9/20
37. 内川英紀. 形態形成に関わる遺伝子の研究 日本小児科学会千葉地方会 2014/6/22
38. 大川玲子.性暴力 この健康被害からすべての人を守る. 代 55 回日本母性衛生学会.市民公開講座 2014/9/13, 9/14, 9/20 千葉
39. 高岡昂太, 松岡典子, 鈴木聡, 牧戸貞, 川村真奈美. 虐待リスクをめぐる多機関連携の新しいアイデアを探す ?連携をめぐる不安や困難事例に焦点をあてて, 日本子ども虐待防止学会分科会 2014/9/14 名古屋
40. 伊藤徳馬, 野口啓示, 稲葉史恵, 渡邊直, 笹川寛, 和田一郎, 高岡昂太, 伊角彩. 児童虐待予防の視点からみた CSP の多面的評価, 日本子ども虐待防止学会分科会 2014/9/14 名古屋
41. 先光毅士, 高岡昂太, 伊角彩, 小倉加奈子, 福永宏隆. Twitter は子ども虐待対応を啓発できるか? ?拡散されるツイートから当事者に届く情報の違いを探る? 日本子ども虐待防止学会.
42. 高岡昂太, 清水栄司, 中里道子, 白石哲也, 伊豫雅臣. 保護者は支援機関のアウトリーチと一時保護をどのように経験するか? 拒否的態度に導く認知と行動に注目して, 日本子ども虐待防止学会.
43. 大神那智子, 南谷則子, 田中麻里, 清水栄司. 不妊症患者に対する認知行動療法の一例 第 14 回日本認知療法学会, 大阪国際会議場 2014/9/12-9/14
44. 富安もよこ, 相田典子, 野澤久美子, 佐藤公彦, 草切孝貴, 村本安武, 鈴木悠一, 立花泰彦, 松澤大輔, 辻比呂志, 清水栄司, 小島隆行. 小児自閉スペクトラム症における in vivo 脳内代謝物濃度. 第 43 回日本磁気共鳴医学会大会 京都 2014/9/19
45. 佐々木剛, 薛陸景, 中里道子. 過食症に対する外来認知行動療法の効果について-若年への適応の可能性-. シンポジウム 5, 第 55 回日本児童青年精神医学会総会, 浜松, 2014/10/12

46. 浦尾悠子. Child and Adolescent Mindfulness Measure (CAMM)日本語版作成の試み 第 14 回日本認知療法学会学術集会 大阪国際会議場 2014/09/13
47. 平野好幸. 社交不安症（社交不安障害）と脳画像研究. 第 14 回日本認知療法学会、第 18 回日本摂食障害学会学術集会合同大会大会企画シンポジウム「脳画像研究によるうつ、不安、心身症の病態解明」大阪. 2014/9/12-9/14
48. 徳永美希, 畔野佳央理, 丹羽政美, 久保金哉, 平野好幸, 小野塚実, 高橋徹. 煮干しだし揮発性成分水溶液とイノシン酸水溶液によって起こるうま味認知に塩分濃度が与える影響. 第 68 回日本栄養・食糧学会大会. 札幌. 2014/5/30-6/1
49. 松本淳子, 村野俊一, 鯉沼佳子, 徳山宏丈, 北原綾, 服部暁子, 野本尚子, 中里道子, 平野好幸, 横手幸太郎. 減量に認知行動療法は奏功するか? -高度肥満症患者の 1 例-第 32 回日本肥満症治療学会学術集会. 大津. 2014/7/4-7/5
50. 沼田法子, 薛陸景, 田中麻里, 伊吹英恵, 浅野憲一, 須藤千尋, 平野好幸, 中里道子, 清水栄司. 神経性大食症患者における認知行動療法の治療反応性に関する考察. 第 14 回日本認知療法学会、第 18 回日本摂食障害学会学術集会合同大会. 大阪. 2014/9/12-9/14
51. 富澤はるな, 松澤大輔, 石井大典, 松田真悟, 河合琴美, 須藤千尋, 清水栄司. 発達期のメチルドナー欠乏は記憶と AMPA 受容体遺伝子の発現に影響する 第 37 回日本神経科学大会 横浜 2014/9/11-13
52. 松田真悟, 松澤大輔, 石井大典, 富澤はるな, 清水栄司. 恐怖消去学習における N-メチル-D-アスパラギン酸(NMDA)受容体のメス特異的な役割 第 21 回脳機能とリハビリテーション研究会学術大会 千葉 2014/04/20
53. 荒木謙太郎, 松澤大輔, 石井大典, 清水栄司. 言語障害スクリーニングテスト (STAD) の開発 第 21 回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会 千葉 2014/4/20
54. 吉永尚紀, 平野好幸, 清水栄司. 治療抵抗性社交不安障害に対する認知行動療法の効果と機能的 MRI を用いた作用機序の解明 第 6 回日本不安障害学会 東京 2014/2/1
55. 清水栄司. 社交不安症の個人認知行動療法（ワークショップ）日本認知・行動療法学会 第 40 回大会 2014/11/1-11/3

56. 清水栄司. Schizo-obsessive disorder という概念～強迫症(強迫性障害)と減弱精神病症候群の鑑別と早期介入 (シンポジウム 2 精神疾患の早期介入と”減弱した”精神病症状：早期段階での病態の鑑別と治療) 第 110 回日本精神神経学会学術総会  
2014/6/26
57. 松永寿人, 清水栄司. 強迫性障害の病態生理と神経伝達物質：新たな病態理解と治療法を目指して (シンポジウム) 第 36 回日本生物学的精神医学会 第 57 回日本神経化学会大会 2014/9/29-10/1
58. 村神瑠美, 倉山太一, 後藤悠人. 極めて遅い歩行速度における歩行筋活動パターンの解析 第 49 回日本理学療法学術大会 (横浜) 2014/5/30-6/1
59. 倉山太一. 二重課題歩行がミスマッチ陰性電位に与える影響－脳波計測を用いた歩行中の脳機能解析 第 49 回日本理学療法学術大会 (横浜) 2014/5/30-6/1
60. 今度知夏, 倉山太一, 飯沼理紗, 村神瑠美, 近藤国嗣, 大高洋平. 歩行速度に依存した各種歩行パラメータの再現性についての検討 第 49 回日本理学療法学術大会 (横浜)  
2014/5/30-6/1
61. 今度知夏, 倉山太一, 田所祐介, 大須理英子, 松澤大輔, 清水栄司, 大高洋平. 健常者における上肢内外転運動を利用した APA(Anticipatory Postural Adjustment)の検討 第 44 回日本臨床神経生理学会 (福岡) 2014 年 11 月
62. 田所祐介, 倉山太一, 今度知夏, 松澤大輔, 大高洋平, 大須理英子, 清水栄司. 二重課題歩行が Mismatch Negativity (MMN)に与える影響 第 44 回日本臨床神経生理学会 (福岡) 2014 年 11 月
63. 北原綾, 徳山宏丈, 松本淳子, 野本尚子, 服部暁子, 竹本稔, 横手幸太郎. 肥満症患者における心理的特徴の検討 第 35 回日本肥満学会学術集会, 宮崎, 2014/10/24-25
64. 徳山宏丈, 北原綾, 野本尚子, 松本淳子, 服部暁子, 大原恵美, 林愛子, 熊谷仁, 竹本稔, 林秀樹, 松原久裕, 横手幸太郎. シンポジウム「Metabolic Surgery 手術療法の諸問

題、コンセンサスをめざして」手術適応基準を考える?内科的観点から?第32回日本肥満症治療学会学術集会. 大津, 2014/7/4-5

65. 北原綾, 徳山宏丈, 松本淳子, 野本尚子, 服部暁子, 竹本稔, 横手幸太郎. 肥満症患者における心理的特徴の検討 第32回日本肥満症治療学会学術集会. 大津. 2014/7/4-5
66. 横山麻衣. 「男女共同参画センター現状と課題(2)——女性をエンパワーしない構造に着目して」第87回日本社会学会大会, 2014/11/22-11/23, 神戸大学.
67. 横山麻衣. 「デートDV対応に関する東京・埼玉の学生相談室調査の報告(3)——相談室の自己評価や体制を規定する要因の包括的分析」第62回関東社会学会大会, 2014/6/21-6/22, 日本女子大学.
68. 永岡紗和子, 中川彰子, 清水栄司. 「汚れると母親で拭いてしまう男性高校生に対する認知行動療法」日本認知・行動療法学会第40回大会. 日本認知・行動療法学会 2014年11月
69. 中川彰子, 中谷江利子, 大島郁葉, 永岡紗和子. ワークショップ3「強迫性障害の認知行動療法-経験の浅い治療者の治療経過から学ぶ-」日本認知・行動療法学会第40回大会, 日本認知・行動療法学会 2014年11月
70. 中川彰子. 日本における認知行動療法 モーズレー病院 / ロンドン大学 児童青年精神医学専門研修九州大学病院セミナー2014、福岡 2014/11/23
71. 中川彰子. 強迫性障害の認知行動療法-経験の浅い治療者の治療経過から学ぶ 日本認知・行動療法学会第40回大会ワークショップ、富山、2014/11/1

## 社会活動

1. 清水栄司. 職場でのメンタルスクリーニングからインターネット認知行動療法への連携 千葉産業保健総合支援センター 2014/6/19
2. 清水栄司. 特集「認知行動療法を学ぶ」けんこう Chiba 2014 春号(寄稿) 公益財団法人ちば県民保健予防財団

3. 清水栄司. 認知行動療法・リワークセミナー～患者さんの職場復帰を考える 毎日使える認知行動療法 朝日病院 2014/5/30
4. 清水栄司. 認知行動療法からみた、DSM-5 における不安症(不安障害)と類縁疾患 第7回京都不安・抑うつ精神科ネットワーク(KYPNDA)学術講演会 京都 2014/4/19
5. 伊藤絵美. 認知行動療法 横浜保護観察所 2014/4/11
6. 伊藤絵美. ストレスマネジメントに活かす認知行動療法 東京認知行動療法アカデミー 2014/4/20
7. 伊藤絵美. 認知行動療法 横浜保護観察所 2014/5/9
8. 伊藤絵美. 認知療法・認知行動療法初級ワークショップ 日本心理臨床学会第33回春季大会 2014/5/24
9. 伊藤絵美. 認知行動療法 横浜保護観察所 2014/6/27
10. 伊藤絵美. 認知行動療法 横浜保護観察所 2014/7/18
11. 伊藤絵美. 職場のメンタルヘルス NHK 研修センター主催 2014/7/31
12. 伊藤絵美. 認知行動療法 横浜保護観察所 2014/8/12
13. 伊藤絵美. 管理職員対象メンタルヘルスケア研修 NHK 放送研修センター 2014/8/24-8/25
14. 伊藤絵美. 認知行動療法事例検討会 目白ジュンクリニック 2014/8/31
15. 伊藤絵美. セルフストレスマネジメント 長野看護専門学校 2014/9/9
16. 伊藤絵美. 認知行動療法 横浜保護観察所 2014/9/19

17. 伊藤絵美. 認知行動療法 横浜保護観察所 2014/9/24
18. 花澤寿. NPO 子どもセンター帆希 研修会講演「思春期をどうとらえ、どうかかわるか 『損なわれた家』との関係から考える」 2014/6/22
19. 花澤寿. 市原市立千種中学校 こころの健康教室講演 「中学生に伝えたいこと 精神科医からのメッセージ」 2014/7/14
20. 花澤寿. 千葉市中央保健福祉センター母子講演会 「子どものこころと食事を考える」 2014/7/22, 10/3
21. 内川英紀. けいれん性疾患に対する対応 千葉市小児科医会 2014/6/20
22. 内川英紀. 小児のけいれん 山武郡市医師会 2014/7/24
23. 大川玲子. 健康度を上昇させるためのアップデート. 思春期と更年期を中心課題として. 生涯のセクシュアルヘルスを守るために. 日本助産師会企画 東京 2014/6/13
24. 清水栄司, 大川玲子, 岡本かおり, 他2名 心の健康と自殺予防を考えるメンタルシンポジウム『性暴力を絶対！許さない』地域社会～サバイバーの権利擁護のための支援者養成の必要性～ 千葉大学柏の葉キャンパスシーズホール 柏市・NPO 法人認知行動療法推進協会・千葉大学主催
25. 岡本かおり 千葉県弁護士会犯罪被害者に関する研修会「犯罪被害者への心理的支援～二次被害防止のために～」千葉県弁護士会館 2014/4/22
26. 岡本かおり 千葉県警察本部平成 26 年度春季支援係研修会「犯罪被害者への心理的支援」2014/5/14
27. 岡本かおり 司法修習生を対象とする犯罪被害者支援研修「犯罪被害者への心理的支援、二次被害の防止」千葉県弁護士会館 2014/10/10
28. 岡本かおり 犯罪被害者等支援のための県・市町村相談関係機関職員研修「犯罪被害者への心理教育」ユニビル（千葉市）2014/7/2

29. 岡本かおり 公益社団法人千葉犯罪被害者支援センター平成 26 年度支援員養成研修  
「被害者の受ける二次被害・支援員のメンタルヘルス」ユニビル（千葉市）2014/10/2
30. 岡本かおり 千葉地方検察庁職員研修「被害者に関わる心理教育～二次被害を防ぐ関わり～」2014/10/17
31. 岡本かおり 医学研究院認知行動生理学教室 クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学 サテライトキャンパス美浜 オープニングイベント ポスター展示（2点）「いじめ・DV・性暴力の防止と早期支援－e-ラーニング教材の紹介－」
32. 岡本かおり・千葉性暴力被害支援センターちさと Chissat 「知っておくと安心！被害に遭った時に受けられる支援」2014/10/4
33. 岡本かおり サテライトキャンパス美浜「オープン・コミュニティ・アワー」プログラム『ありのママとパパ』（2014/10/15, 2014/11/19, 2014/12/17）
34. 岡本かおり サテライトキャンパス美浜「オープン・コミュニティ・アワー」プログラム『対人援助研究会』毎月末金曜開催（2014 年 10 月～）
35. 岡本かおり サテライトキャンパス美浜「オープン・コミュニティ・アワー」プログラム『自分らしさ研究』（2014/12/12）
36. 浅野憲一. パニック障害の理解と対処法 千葉市こころの健康センター2014/12/4
37. 高岡昂太. 三重県ニーズアセスメント事業 検討会 2014/4/27 5/26 6/23 7/23 8/27  
9/17-9/19 10/30
38. 高岡昂太. 東京都七生福祉園 性暴力被害を受けた子供に対する職員ガイドライン 検討会 2014/9/11-9/12
39. Takaoka K. Guest speaker, “How to respond to clients’ anger”. Course CNPS 362-Basic Interview Skills at the University of British Columbia, Vancouver Campus. 2014, April 1

40. Takaoka K. Guest speaker, “Child abuse and neglect in nurseries and primary schools”. Course CNPS 578C-Individual and Family Counselling at the University of British Columbia, Okanagan Campus. 2014, Oct. 18
41. Takaoka K. Guest speaker, “ICT based decision making support for child abuse and neglect cases”. Special class for Morita therapy at the University of British Columbia, Vancouver campus. 2014, Oct. 26
42. Suzuki T. Teacher Training: Problem Solving Skills, Shinchu High School: Fukushima, Japan 2014/7/29
43. Suzuki T. Lecture: Motivational Interviewing: Part II, Nagomi Mental Health Clinic: Fukushima, Japan 2014/7/31
44. 松本有貴. エコチルママの会 千葉市緑区あすみが丘プラザ エコチル調査千葉ユニットセンター主催 2014/4/9
45. Matsumoto Y. Symposium (presenter) and Speech Contest 'Your Happiness' (judge) CCCA Hall Caloundra Australia 2014/8/9
46. 中里道子. 発達障害－子どものこころへのアプローチ. 平成 26 年度サマーセミナー財団法人ちば県民保健予防財団. 京葉銀行文化プラザ, 2014/8/5
47. 中里 道子, 薛陸景, 平野 好幸. 摂食障害とうま味について -脳神経基盤との関連から- うま味研究会公開シンポジウム 「情動と食 - 適切な食育へ向けて -」 コクヨホール品川 2014/6/13
48. 中里道子. 平成 26 年度千葉県教育支援委員会 委員
49. 大島郁葉. 発達障害（自閉スペクトラム症）のケアに認知行動療法をどう生かすか. NPO メンタルコミュニケーションリサーチ総会（東京）2014.

50. Kurayama T. Posture and gait analysis for stroke rehabilitation at the Tokyo Bay Rehabilitation Hospital Centre for Interdisciplinary Research in Rehabilitation of Montreal (CRIR) , Scientific conference. 2014 年 10 月 Montreal, Canada

### 受賞

1. 松本淳子, 村野俊一, 鯉沼佳子, 徳山宏丈, 北原綾, 服部暁子, 野本尚子, 中里道子, 平野好幸, 横手幸太郎. 第 32 回日本肥満症治療学会学術集会ポスター演題優秀賞 (症例報告部門) 減量に認知行動療法は奏功するか? - 高度肥満症患者の 1 例 -. 大津. 2014/7/4-5

### メディア

#### テレビ

1. 千葉大学子どものこころの発達研究センター. 2014 年 10 月 6 日、NHK 総合テレビの首都圏ネットワークで「廃校にサテライトキャンパス地域との人と研究を」にて～地（知）の拠点整備事業－クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大－の取り組みとしてサテライトキャンパス美浜のオープニングまでの様子およびイベント当日の様子が放映
2. 清水栄司. 2014 年 6 月 24 日、NHK 教育テレビのきょうの健康「不安症どんな病気？」が放映
3. 清水栄司. 2014 年 7 月 27 日、テレビ東京の話題の医学で「認知行動療法による精神障害の治療」が放映
4. 千葉大学子どものこころの発達研究センター. 2014 年 10 月 6 日、チバテレビの千葉ニュースで「廃校を活用 サテライトキャンパス」～地（知）の拠点整備事業－クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大－の取り組みとしてサテライトキャンパス美浜のオープニングまでの様子およびイベント当日の様子が放送

### 雑誌、新聞

1. 千葉大学子どものこころの発達研究センター. 2014 年 8 月 7 日付けの日経新聞の特集、変わる大学、知の明日を築く欄に記事「心の問題、治療法探る。千葉大学子どものこころの発達研究センター」が掲載

2. 清水栄司. 2014年8月7日付けの日経新聞Web版の特集、変わる大学、知の明日を築く欄に記事「心の問題、早期発見で改善。千葉大学子どもこころの発達研究センターの清水栄司センター長」が掲載
3. 千葉性暴力被害支援センターちさと. 2014年10月30日付けの朝日新聞にて記事「性暴力被害者支援を1か所で」が掲載
4. 高岡昂太. 2014年9月15日付け朝日新聞にて「虐待防止へ地域の連携議論」名古屋市で行われたシンポジウムについて記事が掲載
5. 高岡昂太. 2014年10月8日付け朝日新聞にて「性虐待の悩み、相談して 子どもたちに動画メッセージ」
6. 高岡昂太. 2014年10月8日付け朝日新聞中日版にて「虐待対応における多機関連携」が掲載
7. 大川玲子. 2014年10月付け稲毛新聞にて、「千葉性暴力被害者支援センターを開設」にて千葉性暴力被害支援センターちさとについて記事が掲載

## 平成27年度業績

### 英語文献

#### 原著論文

1. Hayashi A, Takemoto M, Shoji M, Hattori A, Sugita K, Yokote Pioglitazone improves fat tissue distribution and hyperglycemia in a case of cockayne syndrome with diabetes. *K. Diabetes Care.* 2015;38:e76
2. Sutoh C, Matsuzawa D, Hirano Y, Yamada M, Nagaoka S, Chakraborty S, Ishii D, Matsuda S, Tomizawa H, Ito H, Tsuji H, Obata T, Shimizu E. Transient contribution of left posterior parietal cortex to cognitive restructuring. *Sci Rep.* 2015;5:9199
3. Ohtani T, Bouix S, Lyall AE, Hosokawa T, Saito Y, Melonakos E, Westin CF, Seidman LJ, Goldstein J, Meshulam-Gately R, Petryshen T, Wojcik J, Kubicki M. Abnormal white matter connections between medial frontal regions predict symptoms in patients with first episode schizophrenia. *Cortex.* 2015;71:264-76
4. Nishimura Y, Takahashi K, Ohtani T, Ikeda-Sugita R, Kasai K, Okazaki Y. Dorsolateral prefrontal hemodynamic responses during a verbal fluency task in hypomanic bipolar disorder. *Bipolar Disord.* 2015;17:172-83
5. Nestor PG, Ohtani T, Bouix S, Hosokawa T, Saito Y, Newell DT, Kubicki M. Dissociating prefrontal circuitry in intelligence and memory: neuropsychological correlates of magnetic resonance and diffusion tensor imaging. *Brain Imaging Behav.* 2015;9:839-47
6. Tachibana Y, Obata T, Yoshida M, Hori M, Kamagata K, Suzuki M, Fukunaga I, Kamiya K, Yokoyama K, Hattori N, Inoue T, Aoki S. Analysis of normal-appearing white matter of multiple sclerosis by tensor-based two-compartment model of water diffusion. *Eur Radiol.* 2015;25:1701-7
7. Matsuzawa D, Shirayama Y, Niitsu T, Hashimoto K, Iyo M. Deficits in emotion based decision-making in schizophrenia; a new insight based on the Iowa Gambling Task. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry.* 2015;57:52-9
8. Tomizawa H, Matsuzawa D, Ishii D, Matsuda S, Kawai K, Mashimo Y, Sutoh C, Shimizu E. Methyl-donor deficiency in adolescence affects memory and epigenetic status in the mouse hippocampus. *Genes Brain Behav.* 2015;14:301-9
9. Matsuda S, Matsuzawa D, Ishii D, Tomizawa H, Sutoh C, Shimizu E. Sex differences in fear extinction and involvements of extracellular signal-regulated kinase (ERK). *Neurobiol Learn Mem.* 2015;123:117-124
10. Kurihara K, Kawaguchi H, Obata T, Ito H, Okada E. Magnetic resonance imaging appropriate for construction of subject-specific head models for diffuse optical tomography. *Biomed Opt Express.* 2015;6:3197-209
11. Ohtani T, Nishimura Y, Takahashi K, Ikeda-Sugita R, Okada N, Okazaki Y. Association between longitudinal changes in prefrontal hemodynamic responses and social adaptation in patients with bipolar disorder and major depressive disorder. *J Affect Disord.* 2015;176:78-86

12. Ishii D, Matsuzawa D, Matsuda S, Tomizawa H, Sutoh C, Shimizu E. An isolated retrieval trial before extinction session does not prevent the return of fear. *Behav Brain Res.* 2015;287:139-45
13. Ujiie Y, Asai T, Wakabayashi A. The relationship between level of autistic traits and local bias in the context of the McGurk effect. *Front Psychol.* 2015;6:891
14. Nishimura Y, Takahashi K, Ohtani T, Ikeda-Sugita R, Okada N, Kasai K, Okazaki Y. Social Function and Frontopolar Activation during a Cognitive Task in Patients with Bipolar Disorder. *Neuropsychobiology.* 2015;72:81-90
15. Terada H, Kurayama T, Nakazawa K, Matsuzawa D, Shimizu E. Transcranial direct current stimulation (tDCS) on the dorsolateral prefrontal cortex alters P50 gating. *Neurosci Lett.* 2015;602:139-44
16. Kobayashi T, Hirano Y, Nemoto K, Sutoh C, Ishikawa K, Miyata H, Matsumoto J, Matsumoto K, Masuda Y, Nakazato M, Shimizu E, Nakagawa A. Correlation between morphologic changes and autism spectrum tendency in obsessive-compulsive disorder. *Magn Reson Med Sci.* 2015;14:329-35
17. Kubota M, Ohta S, Ando A, Koyama A, Terashima H, Kashii H, Hoshino H, Sugita K, Hayashi M. Nationwide survey of Cockayne syndrome in Japan: Incidence, clinical course and prognosis. *Pediatr Int.* 2015;57:339-47
18. Nishikido F, Tachibana A, Obata T, Inadama N, Yoshida E, Suga M, Murayama H, Yamaya T. Development of 1.45-mm resolution four-layer DOI-PET detector for simultaneous measurement in 3T MRI. *Radiol Phys Technol.* 2015;8:111-9
19. Ohtsuka H, Matsuzawa D, Ishii D, Shimizu E. Longitudinal Follow-Up of Mirror Movements after Stroke: A Case Study. *Case Rep Neurol Med.* 2015;2015:354134
20. Matsumoto J, Hirano Y, Numata N, Matsuzawa D, Murano S, Yokote K, Iyo M, Shimizu E, Nakazato M. Comparison in decision-making between bulimia nervosa, anorexia nervosa, and healthy women: influence of mood status and pathological eating concerns. *J Eat Disord.* 2015;3:14
21. Oshima F, Iwasa K, Nishinaka H, Shimizu E. Early Maladaptive Schemas and Autism Spectrum Disorder in Adults. *Journal of Evidence-Based Psychotherapies*,2015;XV
22. Tanaka Y, Kobori O, Nakazato M. Changes in picturing of 'self' in social anxiety disorder: a case report. *Cognitive Behaviour Therapist.* 2015;8,e1
23. Ujiie Y, Asai T, Tanaka A, Wakabayashi A. The McGurk effect and autistic traits; an analogue perspective. *Letters on Evolutionary Behavioral Science.* 2015;6:9-12
24. Ujiie Y, Wakabayashi A. Psychometric Properties and Overlap of the GSQ and AQ among Japanese University Students. *Int J Psychol Stud.* 2015;15:195-205

25. Isoda H, Asano K, Muramatsu K, Shimizu E. Web Based Screening for Depression in the Workplace. *British Journal of Medicine and Medical Research*. 2016;15: 25311
26. Asano K, Ishimura I, Abe H, Nakazato M, Nakagawa A, Shimizu E. Cognitive Behavioral Therapy as the Basis for Preventive Intervention in a Sleep Health Program: A Quasi-Experimental Study of E-Mail Newsletters to College Students. *Open J Med Psychol*. 2015;4:9-16
27. Nagaoka S, Asano K, Shimizu E. Use of Metaphors in Psychoeducation for Depression and Its Relationship With Autistic Traits. *Psychology Research*. 2015;5:624-33

#### 総説

1. Hirano Y, Onozuka M. Chewing and attention: a positive effect on sustained attention. *Biomed Res Int*. 2015;2015:e367026
2. Yoshinaga N, Nosaki A, Hayashi Y, Tanoue H, Shimizu E, Kunikata H, Okada Y, Shiraishi Y. Cognitive Behavioral Therapy in Psychiatric Nursing in Japan. *Nurs Res Pract*. 2015;2015:529107.

#### 日本語文献

##### 原著論文

1. 遠藤裕乃, 岡本かおり. 初任臨床心理職用リアリティ・ショック体験尺度の開発 兵庫教育大学 教育実践学論集 第 16 号 37-46
2. 谷康弘, 倉山太一, 田所祐介, 工藤宗克, 深瀬雅人, 太田進, 相本啓太, 近藤国嗣, 大高洋平. 脳卒中患者における膝関節屈曲アシスト装具を利用した反張膝抑制効果: 経過報告 理学療法学 42 巻 2 号 146-147
3. 芋川雄樹, 倉山太一, 荒木謙太郎, 金光寺康幸, 曾根祐介. 歩行と比較した長坐位いざり移動の運動特性 愛知県理学療法学会誌 27 巻 1 号 20-23
4. 井古田大介, 井古田希美, 奥野誠一, 沢宮容子. ホープとコーピングの柔軟性との関連 産業カウンセリング研究 16 巻 1 号 10-17

#### 総説

1. 伊藤絵美. 自傷をとりあえずしのぐための認知行動療法における「応急処置」, 精神看護第 18 巻 6 号 550-55. 特集: 自分を傷つける行為が止まらない人——医療者はどう捉え、かかわればいいのか
2. 中里道子. 摂食障害の子どものための認知行動療法. 精神療法, 41 巻 2 号 178-184, 2015
3. 中里道子. 摂食障害の精神療法. 脳 21 vol.18 no.2, 金芳堂, p.45-52. 2015
4. 中里道子. 発達障害の子どもへの支援について. 平成 26 年サマーセミナー, 紙上採録,

調査研究ジャーナル Chiba Survey Research Journal 公益財団法人ちば県民保健予防財団. Vol 4, No.1, p.39-43. 2015

5. 中里道子. イギリスでは、どのような治療が行われているか：南ロンドンの摂食障害支援のアウトリーチについて. 特集 明日からできる摂食障害の診療 I 精神科臨床サービス, 第 15 巻 3 号 382-388, 2015
6. 浦尾悠子, 清水栄司. 不安症状とうつ病に対する非薬物療法の治療とポイント, Medicament News 第 2195, 13-14. 2015
7. 中里道子. 海外摂食障害事情—イギリスでの取り組みから—特集 摂食障害とそだち I 摂食障害治療の現在からみた発達障害. そだちの科学, 日本評論社, no.25, p.46-52, 10, 2015
8. 五十嵐大輔, 野本尚子, 中里道子. 神経性過食症(診断基準、疫学、病態). 特集—知っておきたい摂食障害の基本. 臨床栄養, vol.127, no.7,p. 879-885. 2015, 12.
9. 大溪俊幸. 【PTSD の現在と治療】 PTSD と EMDR. 精神科 2015; 26(2): 117-119
10. 平野好幸. 社交不安症(社交不安障害)と脳画像研究. 認知療法研究 8 巻 2 号 147-157. 2015
11. 松永寿人, 中川彰子, 池淵恵美. 明日からできる強迫性障害の診療(座談会) 精神科臨床サービス, 15(1), 4-16. 2015
12. 横山麻衣. 「男女共同参画センターの相談事業の現状と課題——女性をエンパワーしない構造に着目して」東海ジェンダー研究所『ジェンダー研究』17: 120-42. 2015
13. 土屋垣内 晶, 黒宮健一, 五十嵐透子, 堀内 聡, 安藤孟梓, 鄧 科, 吉良晴子, 津田 彰, 坂野雄二. ためこみ傾向を有する日本の青年の臨床的特徴 不安症研究 6(2), 72-85, 2015.
14. 大島郁葉, 久保田裕, 杉山崇, 清水栄司. 複合的な心的外傷体験を主訴とする高機能自閉スペクトラム症の成人に対して認知行動療法およびスキーマ療法を導入した事例. 認知療法研究 (7), 2015.
15. 伊藤絵美. 地域における女性薬物依存症者支援の実践から見えてきたこと. 臨床心理学, 第 15 巻第 3 号, pp.412-8. 2015

16. 喜多和子、杉田克生. コケイン症候群患者由来細胞の酸化ストレス負荷後の致死感受性および損傷 DNA 修復能力低下 脳と発達 47(4), 298-303, 2015
17. 浅野 憲一, 清水 栄司. 集団認知行動療法の特徴と新しい展開. 臨床精神医学 44 巻 8 号 1067-1073

### 報告書

1. 平野好幸、小島隆行、中川彰子、吉永尚紀、須藤千尋、松澤大輔、シュデシナ チャクラボルティ、伊藤浩、辻比呂志、清水栄司. 社交不安障害の神経基盤と認知行動療法の作用メカニズムの解明 (第 3 報). メンタルヘルス岡本記念財団研究助成報告集 2015;27 印刷中
2. 永岡紗和子、中川彰子、平野好幸、清水栄司. 子どもの強迫性障害に対する認知行動療法の有効性に関する研究. メンタルヘルス岡本記念財団研究助成報告集 2015;27 印刷中

### 単行書

1. 『認知行動療法を提供する』大島郁葉, 葉柴陽子, 須田聡美, 山本裕美子 (著), 伊藤絵美, 石垣琢磨 (監修). 金剛出版, 2015 年 7 月
2. 伊藤絵美 自分でできるスキーマ療法ワークブック: 生きづらさを理解し、こころの回復力を取り戻そう Book1. 星和書店. 2015 年 7 月
3. 伊藤絵美 自分でできるスキーマ療法ワークブック: 生きづらさを理解し、こころの回復力を取り戻そう Book2. 星和書店. 2015 年 7 月
4. 伊藤絵美 認知行動療法カウンセリング実践ワークショップ: CBT の効果的な始め方とケースフォーミュレーションの実際. 星和書店. 東京. 2015 年 7 月
5. 伊藤絵美 DVD 認知行動療法カウンセリング実践ワークショップ: CBT の効果的な始め方とケースフォーミュレーションの実際. 星和書店. 東京. 2015 年 7 月
6. 伊藤絵美・藤澤大介・神村栄一 (翻訳) ジュディス・S・ベック (著) 認知行動療法実践ガイド: 基礎から応用まで: ジュディス・ベックの認知行動療法テキスト第 2 版. 星和書店. 東京. 2015 年 7 月.
7. 浦尾悠子, 清水栄司 (分担執筆). 森則夫, 杉山登志郎, 和久田智靖編著. 浜松医大流エビデンスに基づく精神療法実践集, 第 5 章 社交不安症/社交不安障害, 2. 社交不安症の認知行動療法, 金芳堂, 2015 年 5 月

8. 伊藤絵美（監訳）・吉村由未（翻訳） アーノウド・アーンツ&ジッタ・ヤコブ（著）  
スキーマ療法実践ガイド：スキーマモード・アプローチ入門. 金剛出版. 東京. 2015  
年9月
9. 高梨利恵子, 清水栄司（分担執筆）日本行動医学会 編集 / 野村 忍 堤 明純 島津明  
人 中尾睦浩 吉内一浩 編著, 行動医学テキスト, II. 各論 3 行動の変容 不安  
症 , 中外医学社, 2015 年 10 月
10. 中里道子(分担執筆). 食行動障害および摂食障害群. 第3章 主な精神疾患/障害と治療  
法. 新体系 看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護. 岩崎弥生, 渡邊博  
幸 編集, メジカルフレンド社, p.115-122. 2015 年 12 月.
11. 清水栄司, 吉永尚紀（分担執筆）新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人  
の看護 第4版E 不安症群/不安障害群 2016 年 1 月
12. 中川彰子, 久能勝（分担執筆）新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の  
看護 第4版F 強迫症および関連症群/強迫性障害および関連障害群 2016 年 1 月
13. 横山麻衣 「相談員の労働環境：男女共同参画センター全国調査結果から」須藤八千  
代・土井良多江子編『相談の力：男女共同参画社会と相談員の仕事』明石書店, 2016  
年 1 月
14. 伊豫雅臣, 齋藤繁, 清水栄司(編集) 慢性疼痛の認知行動療法"消えない痛み"へのアプロ  
ーチ 日本医事新報社 2016 年 2 月
15. 永田忍（分担執筆）. 慢性疼痛の認知行動療法. 胃腸の不調に伴って発症した全身の痛  
み. 伊豫雅臣, 齋藤繁, 清水栄司編. 日本医事新報社, 67-77, 2016 年 2 月
16. 小野塚實、小島隆行、平野好幸（監修） 噛むことと学習. ロッテ「噛むこと研究  
室」. 小冊子発行（非売品）2016 年 3 月

#### 国際学会

1. Nakagawa A, Shimizu E, Setsu R, Oshima F. Assessment System for Adult Autism Spectrum Disorders with Secondary Psychiatric Disorders. The 5th Asian Cognitive Behavior Therapy Conference. Nanjin, May, 2015.

2. Nakazato M, Setsu R, Asano K, Numata N, Tanaka M, Ibuki H, Yamamoto T, Hirano Y, Iyo M, Shimizu E. Training and effectiveness of guided self-help CBT for bulimia nervosa: a preliminary study in Chiba improving access to psychological therapists (Chiba IAPT) project. International Conference on Eating disorders (ICED), Boston, Massachusetts, USA, 4/23-4/25, 2015
3. Nakazato M, Matsumoto J, Numata N, Okuda T, Asano K, Hirano Y, Iyo M, Shimizu E. Comparison in set-shifting, central coherence abilities in patients with eating disorders, autistic spectrum disorders and healthy subjects. Eating Disorders Research Society, 21th annual meeting, Taormina, Italy, 2015/9/17-19.
4. Oshima F. Schema Therapy for Autism Spectrum Disorder. Training CBT therapists and its treatment effect in Japan: Asian CBT conference, Oral Symposium. Nanjing, 2015/5
5. Numata N, Hirano Y, Sutoh C, Nakazato M, Shimizu E. Negative correlation between skin conductance response and the severity in patients with bulimia nervosa. The 13th World Congress of Biological Psychiatry. Athens, GR, 2015/6/15-18
6. Matsumoto J, Hirano Y, Numata N, Matsuzawa D, Murano S, Yokote K, Iyo M, Shimizu E, Nakazato M. Comparison in decision-making between bulimia nervosa, anorexia nervosa, and healthy women: influence of mood status and pathological eating concerns. 21st Annual Meeting of the Eating Disorders Research Society (EDRS), Taormina (2015.9.17-19)
7. Tsuchiyagaito A, Koike H, Shimizu E, Nakagawa A. The Japanese version of the Obsessive-Compulsive Inventory-Revised (OCI-R): Factor Structure, Reliability, and Validity in a Sample of OCD Patients. The 22nd annual OCD conference, Westin Boston Waterfront, Boston, MA, 2015/7/31-8/2.
8. Tsuchiyagaito A, Shimizu E, Nakagawa A. Psychometric Properties of the Clutter Image Rating among Japanese Adolescents. The 22nd annual OCD conference, Westin Boston Waterfront, Boston, MA, 2015/7/31-8/2.
9. Tsuchiyagaito A, Nakagawa A, Sakano Y. Do Saving Cognitions Heighten Negative Emotions during while Discarding Possessions? : An Experimental Investigation of Hoarding. The 49th Annual Convention of the Association for Behavioral and Cognitive Therapies, Chicago, 2015/11/12-15.
10. Hamada H, Hirano Y, Sutoh C, Matsuzawa D, Nagai R, Shimizu E. Influences of Joint perception task to motor related areas in healthy subjects: a functional magnetic resonance imaging study. Society for Neuroscience 45th Annual Meeting, Chicago, USA. 2015/10/18
11. Nomura J, Yamano Y, Oshima R, Baba S, Ashardianto S, Iizuka M, Kato T, Shimonagata S, Takai A, Beverly H, Yamashita S, Tsuiji K, Yamato M, Yoneda C, Sugita K, Itakura Y. Development of a novel method for creation of teaching material which is based on cutting-edge science, International Conference of East-Asia Association for Science Education. Beijing 2015/10/17

## 国内学会

1. 杉田克生、杉田記代子. "match-mismatch 法を用いた“語彙-概念リンク”の発達の検討  
その2. 第57回日本小児神経学会 帝国ホテル大阪 2015/5/29
2. 杉田克生、川崎靖奈、江畑亮太、星岡明、中島弘道、角南勝介. 小児科医師の放射線理解度の現状調査. 第201回日本小児科学会千葉地方会. 千葉大学医学部記念講堂 2015/6/21
3. 檜原翔, 青木雄介, 鈴木基正, 糸見和也、服部文子、杉田克生. 小児神経学会東海地方会. コケイン症候群と診断された難治性てんかんの一例 名古屋市立大学病院 2015/8/15
4. 吉田恭子, 野村純, 山野芳昭, 大嶋竜午, サプト・アシャディアント, 馬場智子, 山田響子, 飯塚正明, 板倉嘉哉, 加藤徹也, 木下龍, 下永田修二, 白川健, 杉田克生, 高木啓, 辻耕治, 鶴岡義彦, 林英子, 藤田剛志, ベヴァリー・ホーン, 山下修一, 大和政秀. 米田千恵科学教育活動をベースとした海外教員インターンシップが学生にもたらす影響の分析. 日本科学教育学会. 山形大学 (小白川キャンパス) 基盤教育1号館 2015/8/22
5. 薛陸景、平野好幸、中里道子. 過食症患者の味わい. シンポジウム5「摂食障害と脳画像」. 座長、小牧元、子玉直樹. 第19回日本摂食障害学会学術集会. 福岡. (2015.10.24-25)
6. 中里道子. 自閉スペクトラム症を対象とした認知機能改善療法の効果:パイロット研究. シンポジウム 発達障害の先端的研究—子どものこころのセンターの取り組み. 座長 谷池雅子、友田明美. 第57回日本小児神経学会学術集会. 大阪.5/28-5/30, 2015
7. 伊藤絵美. 自傷に対する「応急処置」的アプローチ:嗜癖/自傷の臨床—自己破壊的な嗜癖行動をどう捉え、どうかかわればよいか— 第111回日本精神神経学会学術総会 (大阪) 2015/6/5
8. 中里道子. 肥満症の治療—認知行動療法の効果について—. 市民公開講座 肥満は病気? 治療は必要なの? 座長 松原久裕、龍野一郎. 第33回日本肥満症治療学会学術集会 千葉市 2015/6/26-27
9. 松本淳子、村野俊一、鯉沼佳子、徳山宏丈、北原綾、服部暁子、野本尚子、中里道子、平野好幸、横手幸太郎. 認知行動的アプローチによる改善の効果:高度肥満症患者の一例. 第33回日本肥満症治療学会学術集会 千葉市 2015/6/26-27

10. 清家かおる, 中里道子. 学校における摂食障害の児童生徒支援に関する文献検討ー学校保健の支援体制づくりを目的とした実態調査をするための一考察ー第 47 回 中国四国学校保健学会学術大会 愛媛 2015/6/20-21
11. 杉元志帆, 倉山太一, 坂田祥子, 池永望, 平山咲夢, 松田裕子, 村神瑠美, 長尾美佳, 清水栄司. 谷津保健病院における手段的日常生活動作 (IADL) 評価表の作成ー妥当性と信頼性の検討ー 日本リハビリテーション医学学術集会 2015/5/29
12. 松澤大輔. 不安とエピソードネティクス シンポジウム 3 「ストレス調節のメカニズムとエピソードネティクス」 第 56 回日本心身医学会 東京 2015/6/26
13. 伊藤絵美 (企画/話題提供). CBT における「認知」の扱い方. 自主企画シンポジウム 2. 認知行動療法における「認知」のさらなる活用について (3): 「認知」を扱う際の流儀. 第 15 回日本認知療法学会 (東京) 2015/7/17
14. 伊藤絵美 (座長/話題提供). スキーマ療法ミニレクチャー. 自主企画シンポジウム 3. スキーマ療法実践報告 (2). 第 15 回日本認知療法学会 (東京) 2015/7/18
15. 伊藤絵美 (講師). スキーマ療法入門: 生きづらさの問題に対する統合的認知行動療法. 第 12 回日本うつ病学会・第 15 回日本認知療法学会合同ワークショップ (東京) 2015/7/19
16. 高梨利恵子. 「早期記憶への介入が効果的であった社交不安症に対する認知行動療法の一例」 日本認知療法学会 口頭発表 京王プラザホテル 新宿, 東京 2015/7/17
17. 南谷則子. 「自閉傾向のある強迫症の女性への認知行動療法の一例」 日本認知療法学会 京王プラザホテル 新宿, 東京 2015/7/17
18. 南谷則子. 「学校に役立つ認知行動療法 (C B T) ー児童・生徒、教員、保護者の支援に応用する C B T」 自主シンポジウム話題提供 日本教育心理学会 朱鷺メッセ, 新潟 2015/8/27
19. 清水 栄司, 吉田 理子, 浦尾 悠子. 小学校高学年の朝の短学活に行う不安の認知行動療法プログラムの有効性第 65 回日本小児神経学会関東地方会 千葉大清家かおる, 花澤寿, 大溪俊幸, 中里道子 「養護教諭を対象としたアンケート調査からー子どもの摂食障害の早期発見と支援体制づくりに向けてー」 第 23 回 千葉児童思春期精神医学研究会 2016/1/9

20. 薛陸景、清水栄司、平野好幸、中里道子 (2016) 摂食障害患者の味わい. 第 1333 回千葉医学会例会、第 33 回千葉精神科集談会. 千葉. (2016.1.30)
21. 浦尾悠子, 吉田理子, 小柴孝子, 浅岡裕子. 「不安と上手につき合うための教育実践」第 8 回日本不安症学会公開シンポジウム (子どもみんなプロジェクト in 千葉キックオフイベント). 2016/2/6
22. 伊藤絵美 (教育講演) 不安症治療に対するスキーマ療法の可能性 第 8 回日本不安症学会学術大会 (千葉) 2016/2/6
23. 土屋垣内晶、浅野憲一、大島郁葉、永岡紗和子、宮田はる子、松本淳子、大城恵子、永岡麻貴、久能勝、平野好幸、清水栄司、中川彰子. 強迫症患者における自閉スペクトラム症の併存と認知行動療法の効果. 第 8 回日本不安症学会学術大会. 千葉. (2016.2.6-7)
24. 小林智子、平野好幸、根本清貴、須藤千尋、宮田はる子、松本淳子、松本浩史、榊田喜正、中里道子、清水栄司、中川彰子. 強迫性障害における自閉傾向と脳の形態学的変化との関連. 第 8 回日本不安症学会学術大会. 千葉. (2016.2.6-7)
25. 廣瀬素久、平野好幸、浅野憲一、松本淳子、宮田はる子、須藤千尋、中里道子、根本清貴、清水栄司、中川彰子. 強迫症における症状ディメンジョンと脳灰白質体積との関連. 第 8 回日本不安症学会学術大会. 千葉. (2016.2.6-7)
26. 野田義和、清水栄司、浅野憲一、平野好幸. 災害救援者のストレスコーピングとソーシャルサポートが精神的健康に及ぼす影響日本不安症学会. 第 8 回日本不安症学会学術大会. 千葉. (2016.2.6-7)
27. 中里道子 摂食障害に対する神経調節治療(特別講演) 第 82 回日本心身医学会東北地方会 東北大学星陵キャンパス内星陵会館 仙台 2016/2/20
28. 清水栄司 子どもの不安に対する認知行動療法と心の発達 第 203 回日本小児科学会千葉地方会第 1335 回千葉医学会分科会 2016/2/21
29. 杉田克生, 星野郁佳, 粉川あずさ, ホーン・ベヴァリー, 浅野由美, 宮本清美, 杉田記代子, 松澤大輔. 発達性読字障害児への療育支援システムの検討第 203 回日本小児科学会千葉地方会 千葉大学医学部附属病院 3 階大講堂 2016/2/21

30. 田中康子, 吉永尚紀, 清水栄司. 「社交不安症患者に対する認知行動療法の一事例～電車内行動実験による認知変容過程に関する考察～」 京王プラザホテル 新宿, 東京 2015/7/17
31. 土屋垣内晶 (企画/司会), 中川彰子 (企画/司会/指定討論). ためこみ症 (Hoarding Disorder) に対する理解と認知行動療法の有効性. 第 41 回日本認知・行動療法学会 (仙台) 2015/10/2-10/4
32. 富安もよこ, 相田典子, 柴崎淳, 佐藤公彦, 草切孝貴, 鈴木悠一, 村本安武, 野澤久美子, 清水栄司, 小島隆行, 辻比呂志. 「In vivo 1H MRS による新生児脳内 GABA レベルの測定」 第 43 回日本磁気共鳴医学会大会 東京ドームホテル, 東京 2015/9/10
33. Sahara Y, Matsuzawa D, Watanabe S, Ishii D, Matsuda S, Sutoh C, Shimizu E. Transgenerational effects of methyl donors deficient diets in mice: paternal methyl donors deficient diets during development can affect fear susceptibility in male offspring mice 第 38 回日本神経科学大会 神戸国際会議場 2015/7/29
34. 植村太郎, 土井高德, 白川美也子, 伊藤絵美. 日本家族研究・家族療法学会第 32 回大会 (東京・日本女子大学) 2015/9/5
35. 伊藤絵美, 江島佐知子, 風岡公美子, 津高京子. スキーマ療法について考える (2): スキーマ療法を身につけるには. 日本心理臨床学会第 34 回秋季大会 (神戸) 自主企画 シンポジウム. 2015/9.18
36. 永岡紗和子, 久能勝, 大島郁葉, 中川彰子, 清水栄司. 「子どもの強迫性障害に対し認知行動療法を適用した 3 症例—児童思春期症例の病像と治療の工夫について—」 日本認知・行動療法学会第 41 回大会. 日本認知・行動療法学会, 仙台国際センター, 宮城 2015/10/4
37. 岡本かおり. 内部連携と外部連携～心理援助職に求められること～ (シンポジウム E-4 被害者支援センターにおける心理支援の現状と課題) 第 14 回日本トラウマテック・ストレス学会 (京都テルサ) 2015/6/21
38. 中里道子. 過食症に対する認知行動療法—ガイドセルフヘルプを用いた支援について— シンポジウム. 過食! その意味とその対応—職場ストレスとの関わりを含めて—. 第 31 回日本ストレス学会学術総会, 杏林大学, 三鷹市, 2015/11/7
39. 大島郁葉, 中川彰子, 大溪俊幸, 清水栄司. 強迫症を合併する成人の自閉スペクトラム症に対し認知行動療法およびスキーマ療法を行った事例 日本認知療法学会 口頭発表 京王プラザホテル 新宿, 東京 2015/7/17

40. 押山千秋、平野好幸、倉山太一、清水栄司. Go/No-go 課題を使った神経生理学的研究の動向. 日本心理学会第 79 回大会. 名古屋. (2015.9.22-24)

## 社会活動

1. 当センターのメンバー11 名が第 7 回世界自閉症啓発デーin ちばにボランティアとして参加しました。きぼーる (千葉市) 2015/4/4
2. 伊藤絵美. 東京認知行動療法アカデミー (早稲田大学国際会議場開催、第 38 回ワークショップ) にて 6 時間ワークショップ担当：ストレスマネジメントに活かす認知行動療法の理論と方法. 2015/4/19
3. 伊藤絵美. 認知行動療法をベースにした薬物事犯の治療 (指導) の実践上の課題と展望—「ローズカフェプロジェクト」実践報告— 平成 27 年度第 1 回刑事政策意見交換会 (東京、法曹会館). 2015/6/11
4. 横山麻衣. 「オリジナルコンテンツを用いたアプローチ」第 24 回ちば思春期研究会『子どもの性被害防止へのマルチアプローチ』 2015/5/17
5. 大島郁葉. 平成 27 年度 千葉県養護教諭回 夏季研修会 講師. 児童・思春期の自閉スペクトラム症について見極めと学内での援助方法. 2015 年 7 月.
6. 中里道子. 過食症の認知行動療法. 第 13 回 摂食障害治療研修, 国立精神・神経医療研究センター, 東京都小平市, 2015/8/27
7. 中里道子. 子どもの心の問題への支援について—気分障害と発達障害を中心に—印旛市郡医師会学術講演会, 佐倉市, 2015/6/11
8. 伊藤絵美. 日本産業カウンセラー協会中部支部主催研修会にて 6 時間ワークショップ担当：セルフケアから始める認知行動療法. 2015/8/2
9. 伊藤絵美. 精神分析的な心理臨床セミナー (旧慶應心理臨床セミナー) 主催特別セミナー：認知行動療法と精神分析の対話：伊藤絵美×藤山直樹の心理療法的クロストーク ※藤山直樹先生とのジョイントセミナー. 2015/8/23
10. 伊藤絵美. 富山県看護協会主催研修：今こそベテランナースの力を活かす時！ストレスを力に変えよう. 2015/8/27

11. 浦尾悠子. 千葉県教育委員会：平成 27 年度児童生徒の自殺対策研修会 「認知行動療法を活用した子どもの心の健康づくりと自殺対策」 さわやか県民プラザ 対象：東葛飾教育事務所管内公立小中学校管理職 (2015/8/28)
12. 伊藤絵美. NHK 放送研修センター主催 NHK 職員研修：管理職員対象メンタルヘルスケア研修. 2015/9/7～8.
13. 伊藤絵美. 横浜保護観察所 性犯罪特別処遇プログラム：グループスーパービジョン. 2015/10/16.
14. 伊藤絵美. 福岡市主催一般市民対象講演会 セルフケアのためのストレスコーピングと認知行動療法 2015/10/20.
15. 横山麻衣. 「男女共同参画支援施設の現状と課題——相談者と相談員をともにエンパワメントするための比較研究」東海ジェンダー研究所『男女共同参画センターを考える』(名古屋) 2015/9/12
16. 岡本かおり. サテライトキャンパス美浜「オープン・コミュニティ・アワー」プログラム『自分らしさ研究』毎木曜日開催、『対人援助研究会』毎月1回木曜日開催 2015/4～2015/8
17. 岡本かおり. 「自分も相手も大事にするコミュニケーションを学ぼう～心も身体も大事にする方法～」生徒向け講演会講師 千葉県立生浜高等学校 2015/5/20
18. 岡本かおり. 「犯罪被害者支援における、支援者の自己覚知」内部研修講師 公益社団法人被害者支援都民センター 2015/6/5
19. 岡本かおり. 「犯罪被害に遭った子どもと関わる際の留意点」講師 千葉スクールカウンセラー研修会 2015/6/7
20. 岡本かおり. 「被害者等に関わる心理」千葉地方検察庁職員研修講師 2015/6/10
21. 岡本かおり. 「被害者の心理と性暴力被害のワンストップ支援センター」講師 千葉東警察署管内犯罪被害者支援連絡協議会 2015/8/26
22. 岡本かおり. 「犯罪被害者支援員養成講座（初級編）①聴くということ（演習）」講師 2015/10/7

23. 岡本かおり. 「犯罪被害者支援員養成講座（初級編）②被害者支援における心理教育」  
講師 2015/10/21
24. 岡本かおり. 「ストレトに負けない心の育て方～健康な人間関係がデートDV・犯罪被害を予防する～」 教員研修講師 千葉県立柏南高等学校 2015/12/9
25. 岡本かおり. 「女性の安全な人間関係と地域での被害者支援」 講師 国際ソロプチミスト  
千葉 12 月定例会 2015/12/16
26. 伊藤絵美. 矯正協会主催 認知行動療法ワークショップ（4 回シリーズ） 2015/9/9, 9/15,  
10/6, 11/17.
27. 伊藤絵美. キャリアネットワーク主催 キャリアコンサルタント対象認知行動療法ワー  
クショップ. 2015/11/15.
28. 伊藤絵美. 横浜上大岡臨床心理センター主催 認知行動療法ワークショップ. 2015/10/15,  
10/29, 11/5.
29. 伊藤絵美. 上智大学大学院 特別講義 スキーマ療法 2015/11/16.
30. 伊藤絵美. 名古屋市精神保健センター 認知行動療法 2015/11/20.
31. 伊藤絵美. オフィスインテグラル主催 認知再構成法ワークショップ 2015/11/29.
32. 伊藤絵美. 法務省法務総合研究所主催 保護観察官特別研修 ストレスコーピング  
2015/11/30.
33. 伊藤絵美. 矯正協会主催 スキーマ療法ワークショップ（2 回シリーズ） 2015/12/1, 12/15.
34. 大溪俊幸. 「生活と健康科学」放送大学千葉学習センター 面接授業 「成人の精神疾患  
について 1」「成人の精神疾患について 2」 2015/5/20
35. 伊藤絵美 矯正協会 認知行動療法事例検討ワークショップ. 2016/1/16
36. 伊藤絵美. 日本産業カウンセラー協会中部支部主催 セルフケアから始める認知行動  
療法 2016/1/17
37. 清水栄司 不安の認知行動療法 Evidence Based Psychiatry 研究会 2016/1/21 名古屋国際  
ホテル

38. 伊藤絵美 更生保護協会：更生保護応用講座 認知行動療法を学ぼう. 2016/2/1
39. 横山麻衣. 「男女共同参画センター全国調査結果から」埼玉県男女共同参画推進センター第14回 With You さいたまフェスティバル『男女共同参画センターについて大いに語りましょう!』2016/2/7
40. 大溪俊幸. メンタルヘルス講習会「メンタルヘルスにおける不安、抑うつの問題」松戸キャンパス：2016/2/4, 西千葉キャンパス：2016/2/9
41. 伊藤絵美 青山心理臨床教育センター（APCEC） スキーマ療法入門. 2016/2/13
42. 伊藤絵美 法務総合研究所第51回保護観察官高等科研修 職場のストレスマネジメント. 2016/2/16
43. 中里道子. 「過食症に対する認知行動療法～ガイドセルフヘルプを用いた支援について」宮城県摂食障害治療センター市民公開講座「知ろう、治そう、摂食障害」東北大学星陵キャンパス内 星陵会館 仙台 2016/2/20
44. 浦尾悠子 平成27年度自殺対策講演会, 子どもの心の健康と自殺対策について, 管内教育関係者及び管内精神保健連絡会議関係機関, 夷隅健康福祉センター（夷隅保健所）2016/2/23
45. 伊藤絵美 アスク主催 援助者のためのスキーマ療法入門. 2016/2/28
46. 清水栄司 不安の認知行動療法 市川 不安とうつを考える会 2016/3/3 市川グランドホテル
47. 大島郁葉. 「科研費の申請・採択・その後の体験」特別研究員公募説明会 2016/3/10
48. 中川彰子 強迫性障害の認知行動療法. 朝倉地区うつ病関連疾患研究会, 朝倉市,福岡県, 2016/3/25

## 受賞

1. 第43回日本磁気共鳴医学会大会 優秀大会長賞 2015/9/11 富安もよこ, 相田典子, 柴崎淳, 佐藤公彦, 草切孝貴, 鈴木悠一, 村本安武, 野澤久美子, 清水栄司, 小島隆行, 辻比呂志. 「In vivo 1H MRS による新生児脳内 GABA レベルの測定」
2. 第8回日本不安症学会学術大会若手優秀演題賞. 土屋垣内晶, 浅野憲一, 大島郁葉, 永岡紗和子, 宮田はる子, 松本淳子, 大城恵子, 永岡麻貴, 久能勝, 平野好幸, 清水栄司, 中川彰子. 強迫症患者における自閉スペクトラム症の併存と認知行動療法の効果. 千葉. (2016.2.6-7)

## メディア

### テレビ

1. 清水栄司. NHK E テレ、ハートネット TV 「視線の恐怖」2016年2月3日放送、2016年2月10日再放送. 社交不安障害の症状である視線恐怖に対する回復方法が紹介されました。
2. 清水栄司、平野好幸. NHK 総合テレビ、あさイチ「侮れない！大人の人見知り」2016年3月2日放送. 社交不安障害の治療と脳機能画像が紹介されました。

### 新聞・雑誌

1. 中川彰子. 2015年11月19日付の毎日新聞夕刊の「どうすれば安全安心」欄に「生活に支障をきたす強迫症」が掲載

## 平成28年度業績

### 英語文献

#### 原著論文

1. Yoshinaga N, Matsuki S, Niitsu T, Sato Y, Tanaka M, Ibuki H, Takanashi R, Ohshiro K, Ohshima F, Asano K, Kobori O, Yoshimura K, Hirano Y, Sawaguchi K, Koshizaka M, Hanaoka H, Nakagawa A, Nakazato M, Iyo M, Shimizu E. Treating antidepressant-resistant social anxiety disorder with cognitive behavioral therapy: a randomized clinical trial. *Psychother Psychosom.* 2016;85:208-17
2. Wilson BT, Stark Z, Sutton RE, Danda S, Ekbote AV, Elsayed SM, Gibson L, Goodship JA, Jackson AP, Keng WT, King MD, McCann E, Motojima T, Murray JE, Omata T, Pilz D, Pope T, Sugita K, Susan M, White SM, Wilson IJ. The Cockayne Syndrome Natural History (CoSyNH) study: clinical findings in 102 individuals and recommendations for care. *Genet Med.* 2016;18:483-93
3. Okada N, Takahashi K, Nishimura Y, Koike S, Ishii-Takahashi A, Sakakibara E, Satomura Y, Kinoshita A, Takizawa R, Kawasaki S, Nakakita M, Ohtani T, Okazaki Y, Kasai K. Characterizing prefrontal cortical activity during inhibition task in methamphetamine-associated psychosis versus schizophrenia: a multi-channel near-infrared spectroscopy study. *Addict Biol.* 2016;21:489-503
4. Kimura H, Kanahara N, Sasaki T, Komatsu N, Ishige M, Muneoka K, Ino H, Yoshimura K, Yamanaka H, Suzuki T, Komatsu H, Watanabe H, Shimizu E, Iyo M. Risperidone long-acting injectable in the treatment of treatment-resistant schizophrenia with dopamine supersensitivity psychosis: Results of a 2-year prospective study, including an additional 1-year follow-up. *J Psychopharmacol.* 2016;30:795-802
5. Tachibana Y, Obata T, Tsuchiya H, Omatsu T, Kishimoto R, Kawaguchi H, Nishikori A, Kamagata K, Hori M, Aoki S, Tsuji H, Inoue T. Diffusion-tensor-based method for robust and practical estimation of axial and radial diffusional kurtosis. *Eur Radiol.* 2016 Aug;26:2559-66
6. Aida N, Niwa T, Fujii Y, Nozawa K, Enokizono M, Murata K, Obata T. Quiet t1-weighted pointwise encoding time reduction with radial acquisition for assessing myelination in the pediatric brain. *Am J Neuroradiol.* 2016;37:1528-34
7. Sutoh C, Koga Y, Kimura H, Kanahara N, Numata N, Hirano Y, Matsuzawa D, Iyo M, Nakazato M, Shimizu E. Repetitive transcranial magnetic stimulation changes cerebral oxygenation on the left dorsolateral prefrontal cortex in bulimia nervosa: a near-infrared spectroscopy pilot study. *Eur Eat Disord Rev.* 2016;24:83-8
8. Sasaki T, Hashimoto K, Oda Y, Ishima T, Yakita M, Kurata T, Kunou M, Takahashi J, Kamata Y, Kimura A, Niitsu T, Komatsu H, Hasegawa T, Shiina A, Hashimoto T, Kanahara N, Shimizu E, Iyo M. Increased Serum Levels of Oxytocin in 'Treatment Resistant Depression in Adolescents (TRDIA)' Group. *PLoS One.* 2016;11:e0160767
9. Maki S, Koda M, Saito J, Takahashi S, Inada T, Kamiya K, Ota M, Iijima Y, Masuda Y, Matsumoto K, Kojima M, Takahashi K, Obata T, Yamazaki M, Furuya T. Tract-Specific Diffusion Tensor Imaging Reveals Laterality of Neurological Symptoms in Patients with Cervical Compression Myelopathy. *World Neurosurg.* 2016;96:184-190
10. Kita K, Sugita K, Sato C, Sugaya S, Kaneda A. Extracellular release of annexin a2 is enhanced upon oxidative stress response via the p38 mapk pathway after low-dose x-ray radiation. *Radiat Res.* 2016;186:79-91

11. Tomiyasu M, Aida N, Shibasaki J, Tachibana Y, Endo M, Nozawa K, Shimizu E, Tsuji H, and Obata T. Normal lactate concentration range in the neonatal brain. *Magn Reson Imaging*. 2016;34:1269-1273
12. Hashimoto K, Yoshida T, Ishikawa M, Fujita Y, Niitsu T, Nakazato M, Watanabe H, Sasaki T, Shiina A, Hashimoto T, Kanahara N, Hasegawa T, Enohara M, Kimura A, Iyo M. Increased serum levels of serine enantiomers in patients with depression. *Acta Neuropsychiatrica*. 2016;28:173-8
13. Urao Y, Yoshinaga N, Asano K, Ishikawa R, Tano A, Sato Y, Shimizu E. Effectiveness of a cognitive behavioural therapy-based anxiety prevention programme for children: a preliminary quasi-experimental study in Japan. *Child Adolesc Psychiatry Ment Health*. 2016;10:4
14. Saga T, Inubushi M, Koizumi M, Yoshikawa K, Zhang MR, Obata T, Tanimoto K, Harada R, Uno T, Fujibayashi Y. Prognostic value of PET/CT with (18)F-fluoroazomycin arabinoside for patients with head and neck squamous cell carcinomas receiving chemoradiotherapy. *Ann Nucl Med*. 2016;30:217-24
15. Takaoka K, Mizoguchi F, Wada I, Nakazato M, Shiraishi T, Ando S, Iyo M, Shimizu E. How parents suspected of child maltreatment change their cognition and behavior: A process model of outreach and child protection, generated via grounded theory. *Child Youth Serv Rev*. 2016;71:257-65
16. Matsumoto Y, Shimizu E. The FRIENDS cognitive behavioral program in Japanese schools: an examination of the treatment effects. *Sch Psychol Int*. 2016;37:397-409
17. Seike K, Hanazawa H, Ohtani T, Takamiya S, Sakuta R, Nakazato M. A questionnaire survey of the type of support required by yogo teachers to effectively manage students suspected of having an eating disorder. *Biopsychosoc Med*. 2016;10:15
18. Seike K, Nakazato M, Hanazawa H, Ohtani T, Niitsu T, Ishikawa SI, Ayabe A, Otani R, Kawabe K, Horiuchi F, Takamiya S, Sakuta R. A questionnaire survey regarding the support needed by Yogo teachers to take care of students suspected of having eating disorders (second report). *Biopsychosoc Med*. 2016;10:28
19. Oshiro K, Nagaoka S, Shimizu E. Development and validation of the Japanese version of cognitive flexibility scale. *BMC Res Notes*. 2016;9:275
20. Seki Y, Nagata S, Shibuya T, Yoshinaga N, Yokoo M, Ibuki H, Minamitani N, Kusunoki M, Inada Y, Kawasoe N, Adachi S, Yoshimura K, Nakazato M, Iyo M, Nakagawa A, Shimizu E. A feasibility study of the clinical effectiveness and cost-effectiveness of individual cognitive behavioral therapy for panic disorder in a Japanese clinical setting: an uncontrolled pilot study. *BMC Res Notes*. 2016;9:458
21. Nakamura K, Kurihara K, Kawaguchi H, Obata T, Ito H, Okada E. Estimation of partial optical path length in the brain in subject-specific head models for near-infrared spectroscopy. *Opt Rev* 2016;23:316-22

## 日本語文献

### 原著論文

1. 鈴木千絵里、杉田克生、星野郁佳、杉田紀記子、下山一郎、折原俊一、横田梓、蓑原真美. 第一言語と第二言語における“語彙- 概念リンク”の発達 その6 千葉大学教

育学部研究紀要 2016;64:309-16

2. 前田彩香、高橋あかり、杉田克生、野村純、加藤徹也、高橋博代、藤井克則、喜多和子、小林芳枝、吉本一紀. 放射線生体リスクにおける学習プログラム開発 千葉大学教育学部研究紀要 2016;64:365-74
3. 吉田恭子、野村純、山野芳昭、大瀧竜午、サブト・アシャディアント、馬場智子、山田響子、飯塚正明、板倉嘉哉、加藤徹也、木下龍、小宮山伴与志、下永田修二、白川健、杉田克生、高木啓、辻耕治、鶴岡義彦、中澤潤、林英子、藤田剛志、ベヴァリー・ホーン、山下修一、大和政秀、米田千恵. 科学教育活動をベースとした海外教員インターンシップが学生にもたらす影響の分析 千葉大学教育学部研究紀要 2016;64:97-102
4. 清家かおる、中里道子. 摂食障害の児童生徒の早期発見と支援のための調査研究－養護教諭を対象とした質問紙調査より－ 教育保健研究 2016;19:1-9
5. 二瓶正登・大内世思也・堀内ゆかり. 学校場面での攻撃行動を主訴とした ADHD 男児に対する介入—子ども中心遊戯療法, 応用行動分析学, および自己効力感理論に基づく介入の検討— 北海道医療大学心理科学部心理臨床・発達支援センター研究 2016;12:27-37
6. 高木梨帆・二瓶正登・橋本拓・松田大輝・金澤潤一郎. 自閉スペクトラム症を有する中学生男児に対する会話スキルへの介入—作文指導の観点から— 北海道医療大学心理科学部心理臨床・発達支援センター研究 2016;12:15-26
7. 星野郁佳、杉田克生、粉川あずさ、杉田記代子、折原俊一、林徹、横田梓 第一言語と第二言語における“語彙 - 概念リンク”の発達 千葉大学教育学部研究紀要 2017;65:269-278

## 症例報告

1. 浦尾悠子、石川亮太郎、吉永尚紀、清水栄司. 赤面を恐れる社交不安障害に対する認知行動療法 Clark & Wells モデルを用いた実践報告, 認知療法研究 2016;9:66-74

## 総説

1. 清水栄司. 【DSM-5 によって、認知行動療法はどう変わるか】 不安症群への認知行動療法の適用はどう変わるか 特に児童の不安症について. 認知療法研究 2016;9:18-22

2. 清水栄司. 健常と強迫性障害との間の概念はある? subclinical な OCD として研究中. 日本医事新報 2016;4786:63-4
3. 杉田克生, 池田黎太郎. 医学用語語源対話 V 千葉医学雑誌 2016;92:1-6
4. 中里道子. ストレス症状としての過食—認知行動療法からのアプローチ— ストレス科学 2016;30:252-9
5. 伊藤絵美. スキーマ療法, 特別企画: パーソナリティ障害の現実 こころの科学, 2016;185:63-7
6. 伊藤絵美 「心理療法の統合」への違和感とスキーマ療法について. 精神療法 2016;42:224-5
7. 伊藤絵美 認知療法系 CBT の理論とモデル. 臨床心理学 2016;16:385-8
8. 伊藤絵美 ここが面白いアディクション臨床: ローズカフェの経験から. 臨床心理学 2016;増刊 8:10-14
9. 松澤大輔 不安とエピジェネティクス 心身医学 2016;56:333-9
10. 二瓶正登, 澤幸祐. 不安症および曝露療法を理解するための現代の学習理論からのアプローチ. 専修人間科学論集(心理学篇). 2016;7:45-53
11. 押山千秋. 海外文献紹介「Broca's Area Supports Enhanced Visuospatial Cognition in Orchestral Musicians オーケストラ奏者の視空間認知機能能力増強はブローカー野が基盤となっている」音楽心理学音楽療法研究年報 2016;44:91-4
12. 清水栄司. 【うつ病治療における「真のリカバリー」を考える】 難治性うつ病の記憶のイメージ書き換えを用いた認知行動療法の新しい発展. 臨床精神薬理 2017;20:283-90
13. 清水栄司. 学校での不安の認知行動療法の授業の有効性. 思春期学 2017;35:28-30

## 報告書

1. 平野好幸、小島隆行、中川彰子、吉永尚紀、須藤千尋、松澤大輔、シュデシナ チャクラボルティ、伊藤浩、辻比呂志、清水栄司. 社交不安障害の神経基盤と認知行動療法

の作用メカニズムの解明（第3報）. メンタルヘルス岡本記念財団研究助成報告集  
2016;27:95-100

2. 永岡紗和子、中川彰子、平野好幸、清水栄司. 子どもの強迫性障害に対する認知行動療法の有効性に関する研究. メンタルヘルス岡本記念財団研究助成報告集 2016;27:67-73
3. 大溪 俊幸, 須藤 千尋, 松澤 大輔, 浅野 憲一, 野口 玲美, 磯田 洋美, 加藤 文, 吉田 智子, 生稲 直美, 鍋田 満代, 岩倉 かおり, 千勝 浩美, 近藤 妙子, 土屋 美香, 今井 千恵, 横地 紀子, 内 玲往那, 太和田 暁之, 吉田 知彦, 藤本 浩司, 潤間 励子, 中川 彰子, 中里 道子, 清水 栄司, 今関 文夫 新しい学生健康診断システムにおけるメンタルヘルス問診の試み CAMPUS HEALTH. 2016;53:311-2
4. 生稲 直美, 吉田 智子, 岩倉 かおり, 土屋 美香, 鍋田 満代, 千勝 浩美, 近藤 妙子, 今井千恵, 横地 紀子, 藤本 浩司, 吉田 知彦, 潤間 励子, 大溪 俊幸, 今関 文夫 職員健康診断における健康支援システムの有用性 CAMPUS HEALTH. 2016;53:149-51
5. 潤間 励子, 生稲 直美, 今井 千恵, 岩倉 かおり, 吉田 智子, 鍋田 満代, 千勝 浩美, 近藤 妙子, 横地 紀子, 土屋 美香, 内 玲往那, 太和田 暁之, 大溪 俊幸, 今関 文夫 千葉大学における胸部 X 線検査省略の現状調査(第三報) CAMPUS HEALTH. 2016;53:129

#### 単行書

1. Nakagawa A, Kanazawa J, Oshima, F and Tsuchiyagaito A: Cognitive-behavior therapy for adults with obsessive-compulsive disorder and autism spectrum disorder: Influence of comorbidity and improvement of treatment outcomes. Chapter 35, Innovations and Future Directions in the Behavioural and Cognitive Therapies, edited by Menzies RJ, Kyros M and Kazanzis N. Australian Academic Press, 2016.6
2. 伊藤絵美 ケアする人も楽になるマインドフルネス&スキーマ療法 Book1&2 医学書院 2016年9月
3. 藤山直樹・伊藤絵美 認知行動療法と精神分析が出会ったら 岩崎学術出版社 2016年9月
4. 岡昌之・生田倫子・妙木浩之（編著）／田中康裕・伊藤絵美・若島孔文（著） 心理療法の交差点2：短期力動療法，ユング派心理療法，スキーマ療法，ブリーフセラピー 新曜社 2016年9月

5. 押山千秋（分担執筆）第4章 教育：特別支援学校の教育. V. 求められる高次脳機能障害のある児童・生徒への合理的配慮. 時の話題「特別支援学校における音楽療法の実践」 発達障害白書 2017,p81 .明石書店 2016年9月
6. 伊藤絵美 イラスト版子どものストレスマネジメント—自分で自分を上手に助ける 45の練習 合同出版 2016年10月
7. ジョアン・M・ファレル, イダ・A・ショー著／大島 郁葉 翻訳,伊藤 絵美監訳 (2016)『グループスキーマ療法：グループを家族に見立てる治療的再養育法実践ガイド』金剛出版 2016年11月
8. 伊藤絵美（監修） 折れない心がメモ1枚でできるコーピングのやさしい教科書 宝島社 2017年1月

#### 国際学会

1. Nakazato M. Cultural differences that influence care: The Partnership, Chapter and Affiliate Committee's View on Compulsory Treatment. Workshop session III. International Conference on Eating Disorders (ICED). San Francisco, USA. 2016/5/7
2. Tomiyasu M, Aida N, Shibasaki J, Murata K, Heberlein K, Brown MA, Shimizu E, Tsuji H, Obata T. Estimation of in vivo  $\gamma$ -aminobutyric acid (GABA) levels in the neonatal brain. ISMRM 24th Annual Meeting & Exhibition, Singapore, 2016/5/7-13.
3. Aida N, Shibasaki J, Tomiyasu M, Nishi Y, Morisaki N, Fujiwara T, Toyoshima K, and Obata T. Absolute metabolite concentration of Creatine in the deep gray matter measured using short echo 1H-MRS predict long-term prognosis of neonatal hypoxic-ischemic encephalopathy as excellent as NAA concentration. ISMRM 24th Annual Meeting & Exhibition, Singapore, 2016/5/7-13.
4. Nakagawa A: Long-term prognosis in OCD patients- comparison between with and without comorbid ASD. Symposium, The 8th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies, Melbourne, 2016/6/23-26
5. Oshima F. Understanding high-functioning autism spectrum disorder with obsessive compulsive disorder in adults: the differences between autism spectrum disorders with and without obsessive compulsive disorders. 8th world congress of behavioural and cognitive therapies, Merubourun, Australia. 2016/6/23-26
6. Tsuchiyagaito A, Oshima F, Asano K, Nagaoka S, Miyata H, Kunou M, Hirano Y, Shimizu E, Nakagawa A. Clinical Predictors of Response to Cognitive Behavioral Treatment for Obsessive-Compulsive Disorder with and without Autism Spectrum Disorder. The 8th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies, Melbourne, Australia, 2016/6/23-26

7. Tsuchiyagaito A. Cognitive Behavioral Treatment Outcome for Obsessive-Compulsive Disorder with and without Autism Spectrum Disorder. The 8th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies, Melbourne, Australia, 2016/6/23-26
8. Hirano Y, Obata T, Sutoh C, Matsuzawa D, Yoshinaga N, Ito H, Tsuji H, Shimizu E. fMRI responses to the facial expression images in amygdala after CBT in social anxiety disorder. 22nd annual meeting of the organization for human brain mapping (OHBM), Geneva 2016.6.26-30
9. Oshima F, Otani T, Nishinaka H, Nakagawa A, Matsuzawa D, Hirano Y, Araki M, Shimizu E. Schema Therapy applied to Adults with High-Functioning Autism Spectrum Disorder: Results of a multiple single-case series. International society of schema therapy conference, Vienna, Austria, 2016/6/30-7/2.
10. Oshiyama C, Okabayashi S, Hayashi Y, Shimizu E. Mental Rotation Training Contribute to the Stability of Mental Health: Review for Creating Mental Rotation Training Program. Health Research & Practice from Asia. Kanagawa. 2016/7/24
11. Oshiyama C, Aoyama I, Tanaka I, Niwa S, Okabayashi S. Connection among People Nurture a Child's Development and Growth: The Relation between Child Development and Social Capital. Health Research & Practice from Asia. Kanagawa. 2016/7/24
12. Tsuchiyagaito A. How Does Developmental Disorder Influence the Treatment Outcome of Cognitive Behavioral Therapy? Clinical Characteristics Associated with Comorbid Obsessive-Compulsive Disorder and Autism Spectrum Disorder. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016/7/25-29
13. Mio M, Matsumoto Y. The effectiveness trial of a universal preventive program "OKs Program" based on Cognitive Behavior Therapy in school setting. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016/7/25-29
14. Nihei M, Kuromiya K, Kaise Y, Ishihara T, Sakano Y. The renewal effect in fear conditioning with aversive facial expression and negative word as unconditioned stimuli. 31st International Congress of Psychology, Kanagawa, 2016/7
15. Aoki S, Nihei M, Ouchi Y, Shinkawa H, Sakano Y. The role of delay discounting on behavioral theory of depression. 31st International Congress of Psychology, Kanagawa 2016/7
16. Oshiyama C, Okabayashi S, Hayashi Y, Shimizu E. Consideration of the difficulty for creating mental rotation training program. 31st International Congress of Psychology. Kanagawa, Japan 2016/ 7/ 28
17. Hirose M, Hirano Y, Nemoto K, Sutoh C, Asano K, Miyata H, Matsumoto J, Nakazato M, Matsumoto K, Masuda Y, Iyo M, Shimizu E, Nakagawa A. Relationship between symptom dimensions and regional gray matter volumes in OCD. 124th Annual Convention of the American Psychological Association, Denver 2016.8.4-7

18. Matsumoto J, Nakazato M, Hirano Y, Iyo M, Yokote K, Hashimoto K. Decision-making abilities and serum levels of precursor BDNF in patients with eating disorder. 124th Annual Convention of the American Psychological Association (APA), Denver 2016.8.4-7
19. Hirano Y, Obata T, Sutoh C, Matsuzawa D, Yoshinaga N, Ito H, Tsuji H, Shimizu E. Decreased BOLD responses to the neutral faces after CBT in social anxiety disorder. 124th Annual Convention of the American Psychological Association (APA), Denver 2016.8.4-7
20. Miyata H, Hirano Y, Oshima F, Asano K, Matsumoto J, Nagaoka M, Koike H, Shimizu E, Nakagawa A. Do neuropsychological tests give a clue for ASD tendency in adult OCD patients? The 46th European Association of Behavioural and Cognitive Therapies Congress (EABCT 2016) at Stockholm, Sweden. 2016/8/31-9/3
21. Nakagawa A, Kuno M, Nagaoka S, et al : Clinical Characteristics and Treatment Outcome of Pediatric Obsessive-Compulsive Disorder with Comorbid Autism Spectrum Disorder. The 46th European Association of Behavioural Cognitive Therapies Congress, Stockholm, 2016/8/31-9/3
22. Kuge R, Yokota A, Numata N, Okuda T, Nakazato M. Evaluation of a Cognitive Remediation Therapy Group for Adolescents with Anorexia Nervosa: An Open Study. The 22<sup>nd</sup> International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied professions World Congress (IACAPAP). Calgary, Canada, 2016/9/21
23. Mio M. Preliminary Trial of the Universal Preventive Program in School Settings. 2016 International Symposium on Neurodegenerative Diseases & the 43<sup>rd</sup> Annual Conference of Japan Brain Science Society, Xi'an, China, 2016/11/11
24. Koike H, Oshima F, Asano K, Nishinaka H, Hirano Y, Shimizu E, Nakagawa A. Reliability and validity of the Japanese version of OCI-R. 2016 International Symposium on Neurodegenerative Diseases & the 43<sup>rd</sup> Annual Conference of Japan Brain Science Society (JBSS), Xi'an (2016.11.10-12)
25. Oshiyama C. Consideration on How to Fill the Missing Part of the Support System for Elderly in Japan: Can Artificial Intelligence Help? Healthy Aging Tech mashup service, data and people. (2016/11/14) Kanagawa, Japan.

## 国内学会

1. 坂野雄二 抑うつおよびアンヘドニアと遅延価値割引の関連性 日本行動分析学会第34回大会, 大阪, 2016/9
2. 清家かおる, 高宮静男, 作田亮一, 貫名英之, 中里道子. 政令指定都市における養護教諭の摂食障害の児童生徒の遭遇率に関する質問紙調査の分析・検討. 第20回日本摂食障害学会学術集会. 東京. 2016/9/3.

3. 富安もよこ、相田典子、柴崎淳、友滝清一、佐藤公彦、草切孝貴、村本安武、鈴木悠一、川崎裕香子、清水栄司、小島隆行. 早産児の新生児期における脳内代謝物濃度／脳容積とその予後との関連性. 第 44 回日本磁気共鳴医学会大会 埼玉 2016/9/9-11.
4. 熊谷将志, 大高洋平, 北村新, 坂田祥子, 清水栄司. 脳卒中片麻痺者の手指巧緻課題における両側手間転移効果: ランダム化比較試験. 第 50 回日本作業療法学会 札幌 2016/9/9-11
5. 粉川あずさ, 星野郁佳, 杉田克生 第一言語と第二言語における“語彙-概念リンク”の発達第 65 回 日本小児神経学会関東地方会 千葉大学医学部附属病院ガーネットホール 2016/9/24
6. 松田奈央子 石田茂誠 木川崇 野口靖 杉田克生. 急性リンパ性白血病の多剤併用化学療法中、静脈洞血栓症を発症した 1 例 第 65 回日本小児神経学会関東地方会 千葉大学医学部附属病院ガーネットホール 2016/9/24
7. 濱田裕幸、平野好幸、須藤千尋、松澤大輔、長井亮祐、清水栄司. 健常者の知覚課題を付与した他動運動の運動関連領域への影響 fMRI による検証. 第 23 回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会. 千葉 2016.4.24
8. 徳永美希、畔野佳央理、丹羽政美、平野好幸、神田知子、丸山智美、久保金哉、安細敏弘、小野塚實、高橋徹. 鰹だし揮発性成分とグルタミン酸ナトリウムの混合摂取によるうま味増強に関する脳内における機序. 第 70 回日本栄養・食糧学会大会. 神戸 2016.5.13-15
9. 永田忍. 強迫性障害の認知行動療法 —20 代 女性 不潔恐怖の一事例— 第 5 回千葉メンタルヘルスサミット 2016/5/27
10. 杉田克生. 小児神経診療における診断推論の必要性 第 58 回日本小児神経学会 実践教育セミナー 2 : 小児神経診療のための診断推論 京王プラザホテル 新宿 2016/6/2
11. 鈴木由香、杉田克生、宮島祐、中井昭夫. What can we, pediatric neurologists, do to enhance children's bright future?(子どもの心の診療のあり方:「子どもの心に寄り添い、輝く笑顔を増やすために我々ができることは!?) 第 58 回日本小児神経学会 京王プラザホテル 2016/6/3

12. 伊藤絵美. 産業保健で有効な認知行動療法の考え方と手法の基礎 第 112 回日本精神神経学会学術総会 千葉 2016/6/3
13. 吉田恭子、野村純、山野芳昭、大嶋竜午、サプト・アシャディアント、馬場智子、飯塚正明、板倉嘉哉、加藤徹也、木下龍、下永田修二、白川健、杉田克生、高木啓、辻耕治、鶴岡義彦、林英子、藤田剛志、ベヴァリー・ホーン、山下修一、大和政秀、米田千恵海外での教員インターンシップ参加前後での学生の授業に対する意識変化の分析 第 40 回日本科学教育学会 ホルトホール大分 2016/8/20
14. 二瓶正登【企画・話題提供】学校現場にソーシャルスキルトレーニングを効果的に導入するには一般化を促進する方略に焦点を当てて— 『日本カウンセリング学会第 49 回大会』, 山形, 2016/8
15. 二瓶正登・青木俊太郎・新川広樹・大内世思也・学医学部附属病院ガーネットホール 2016/9/24
16. 土屋垣内晶, 堀内聡, 川乗賀也, 平野好幸, 五十嵐透子, 中川彰子, 矢部博興. Hoarding Rating Scale 日本語版の信頼性と妥当性の検討—Web 調査を活用したためこみ行動の重症度評価—. 第 42 会日本認知・行動療法学会, 徳島, 2016/10/8-10
17. 浦尾悠子, 吉田理子, 小柴孝子, 清水栄司. 不安症の認知行動療法に基づく予防プログラムの効果-小学校における準実験的研究-, 日本認知・行動療法学会第 42 回大会, アスティとくしま. 2016/10/10
18. 久能勝, 永岡紗和子, Choque N, 加藤奈子, 大城恵子, 永岡麻貴, 大島郁葉, 中川彰子, 清水栄司. 自閉症スペクトラム障害を合併する児童強迫性障害に対する認知行動療法の効果と症例の考察 第 57 回児童青年精神医学会総会. 岡山. 2016/10/27-10/29
19. 伊藤絵美 (講演) スキーマ療法—グループにも応用できる CBT の新たな展開 集団認知行動療法研究会第 7 回学術総会 (東京) 2016/10/30
20. 大島郁葉, 中川彰子, 井上雅彦, 温泉美雪. 高機能自閉スペクトラム症に対する認知行動療法 ~環境的側面に対する介入に着目して考える~日本認知・行動療法学会 第 42 回大会, 2016/10

21. 松澤大輔 Anxiety related mental illness and epigenetics シンポジウム 3「精神疾患の病態研究～リズムと睡眠」第 23 回日本時間生物学会 名古屋大学豊田講堂 名古屋 2016/11/13
22. 押山千秋 視空間認知機能がメンタルヘルスに及ぼす影響 メンタルローテーション機能と不安との関連の検討 日本健康心理学会第 29 回大会 2016/11/20
23. 野澤孝司, 鈴木平, 押山千秋, 石井康智「共鳴・同調行動の観点からみた健康—呼吸、脳波、脈波の精神生理的指標による分析と検討—」日本健康心理学会第 29 回大会 2016/11/20
24. 伊藤絵美 (講師). スキーマ療法入門 第 16 回日本認知療法・認知行動療法学会ワークショップ (大阪) 2016/11/23
25. 浦尾悠子・清水栄司 第 16 回日本認知療法学会 (第 17 回認知療法研修会) ワークショップ 8「不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践」ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター グランフロント大阪 2016/11/23
26. 大島郁葉,望月直人,吉崎亜里香,大隅香苗,黒田美保,清水栄司. 自閉スペクトラム症に対する CBT を生かした支援,日本認知療法学会 2016/11
27. 松本一記, 浅野憲一, 浦尾悠子, 久能勝, 中川彰子, 清水栄司. Japanese Initiative for Diagnosis and Treatment Evaluation research in Telepsychiatry (J-INTEREST); 強迫・不安等に対する在宅遠隔認知行動療法のパイロット RCT の研究デザイン. 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス 2017、ASEAN-Japan Healthcare ICT Forum. 東京 2017/2/18
28. 平野好幸. 症状次元を考慮した強迫症の脳画像研究. シンポジウム 2「OCD の生物学と新規治療の可能性」座長、松永寿人、清水栄司. 第 9 回日本不安症学会学術大会. 福岡 2017.3.10-11
29. 小杉尚子, 押山千秋, 丹羽真一「音楽を取り入れた統合失調症の認知リハビリテーションプログラムの開発研究」第 12 回日本統合失調症学会. 鳥取 2017/3/24-25
30. 花澤寿 思春期神経性やせ症の精神療法 どう理解しどうかかわるか (特別講演) 第 24 回 千葉県児童思春期精神医学研究会 ハーモニープラザ(千葉市) 2017/1/21

31. 佐原佑治, 松澤大輔, 瀧田孝大, 須藤千尋, 清水栄司. 発達期メチルドナー欠乏は恐怖体験後の記憶消去を困難にする 第9回日本不安障害学会学術集会、九州大学医学部、福岡 2017/3/10
32. 小杉尚子, 押山千秋, 丹羽真一「音楽を取り入れた統合失調症の認知リハビリテーションプログラムの開発研究」 第12回日本統合失調症学会（鳥取米子コンベンションセンター）プログラム集 P1-4-8 2017/3/24-25.

### 社会活動

1. 伊藤絵美 東京認知行動療法アカデミー ワークショップ：ストレスマネジメントに活かす認知行動療法の理論と方法 2016/4/17
2. 伊藤絵美 千葉少年問題研究会 スキーマ療法入門 2016/5/19
3. 杉田克生 小児神経診療における診断推論の必要性 第58回日本小児神経学会 実践教育セミナー2 京王プラザホテル 2016/6/2
4. 松澤大輔 専門職研修 「4大認知症の診断とその問題行動（BPSD）」千葉県福祉ふれあいプラザ、我孫子市 2016/6/15
5. 松澤大輔 専門職研修 「認知症への薬物療法的アプローチ」千葉県福祉ふれあいプラザ、我孫子市 2016/6/29
6. 浦尾悠子. 平成28年度学校認知行動療法研修会, 千葉大学子どものこころの発達教育研究センター, 不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践, 千葉市文化センター 2016/7/3
7. 松澤大輔 専門職研修 「介護職や要介護者が精神疾患を持っている時の専門職としての関わり方を考える」、千葉県福祉ふれあいプラザ、我孫子市 2016/7/6
8. 杉田克生 病院経営管理士通信教育医学概論 日本病院会 ホスピタルプラザセミナー ルーム 2016/7/20
9. 伊藤絵美 矯正協会 認知行動療法連続ワークショップ 2016/8/30, 10/4, 10/18, 11/1

10. 浦尾悠子. 平成 28 年度不祥事防止研修会, ストレスとうまくつき合うコツを知ろう, 千葉県立市原特別支援学校 2016/9/1
11. 伊藤絵美 最高裁判所 セルフケアのためのコーピングと認知行動療法 2016/10/3
12. 伊藤絵美 NHK 放送総局 管理者自身のセルフケアと職場で行うラインケア 2016/10/17
13. 伊藤絵美 帝京大学医学部 認知行動療法のエッセンス 2016/10/25
14. 松澤大輔 NECST ワーキングフェスタ 2016 「発達障害について知っていただきたいこと」, ”働く”を考えるセミナー&パネルディスカッション・第 3 部メインシンポジウム、有楽町朝日スクエア、東京都中央区、2016/10/28
15. 伊藤絵美 集団認知行動療法研究会 スキーマ療法入門. 2016/10/30
16. 伊藤絵美 キャリアネットワーク 認知行動療法初級ワークショップ 2016/11/6
17. 伊藤絵美 医学書院 ケアする人も楽になるマインドフルネス&スキーマ療法入門ワークショップ 2016/11/13
18. 伊藤絵美 矯正協会 スキーマ療法ワークショップ 2016/11/29, 12/6
19. 伊藤絵美 オフィスインテグラル ワークブックによるスキーマ療法ワークショップ 2016/12/4
20. 大島郁葉 「子どもを気質と環境から理解する：スキーマ療法ワークショップ」福島大学 2016/12/3-5
21. 浦尾悠子. 第 2 回子どもみんなプロジェクト in 鳥取 (教員免許状更新講習) 「勇者の旅」不安予防プログラムの紹介」鳥取大学地域学部. 2016/12/10
22. 伊藤絵美 法務総合研究所第 9 回保護観察官専修科研修 セルフストレスマネジメントの理論と方法 2016/12/14
23. 伊藤絵美 ウィリング横浜 管理職のための職場のメンタルヘルス研修 2016/12/16

24. 浦尾悠子. 平成 28 年度生徒指導・教育相談研修会「認知行動療法を学校現場で活用するために」千葉県立長生高等学校. 2016/12/19
25. 浦尾悠子. 平成 28 年度教員免許状更新講習「不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践」千葉大学教育学部. 2016/12/23
26. 伊藤絵美 矯正協会 認知行動療法事例検討ワークショップ 2017/1/17
27. 大島郁葉「スキーマ療法研修会」神経・認知・行動・感情心理研究会 東京,2017/1/20-21
28. 伊藤絵美 関西カウンセリングセンター KSCC 統合的心理療法セミナー：スキーマ療法と対人関係精神分析 2017/1/29
29. 浦尾悠子. 平成 28 年度学校認知行動療法研修会「不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践」千葉県教育会館. 2017/1/29
30. 伊藤絵美 NHK 放送研修センター 管理職員対象メンタルヘルスケア研修 2017/2/9-10
31. 伊藤絵美 法務総合研究所第 52 回保護観察官高等科研修 ストレスマネジメントの理論と方法 2017/2/8
32. 伊藤絵美 医学書院 ケアする人も楽になるマインドフルネス&スキーマ療法入門ワークショップ 2017/2/19
33. 伊藤絵美 NHK 放送総局 自分の心をいつでも助ける「セルフケア」の極意 2017/2/21
34. 大島郁葉「成人の高機能自閉スペクトラム症に対するスキーマ療法：複数事例を通しての紹介」大阪大学子どものこころの分子統御機構研究センター, 2017/2/22
35. 浦尾悠子. 平成 28 年度スクラム教育研修会「不安予防と「勇者の旅」プログラム」鳥取県岩美町役場. 2017/ 3/6

36. 伊藤絵美 福井県総合福祉相談所 自殺予防に活かすストレスコーピングと認知行動療法 2017/3/8

37. 伊藤絵美 仁愛大学 認知行動療法の基礎と実践 2017/3/8

## メディア

### テレビ

1. 清水栄司.NHK Eテレ、ハートネット TV「視線の恐怖」.2017年2月2日再放送.社会不安障害の症状である視線恐怖に対する回復方法が紹介されました。

### 新聞・雑誌

1. 清水栄司、平野好幸. NHK ウイークリーSTERA (ステラ) 2016年4月15日号.  
(NHK サービスセンター刊) に社交不安障害の治療と脳機能画像が紹介されました。
2. 吉永尚紀、清水栄司.日本経済新聞 34面.2016年6月8日.薬効かない対人恐怖症 認知行動療法で改善 宮崎大・千葉大が紹介されました。
3. 吉永尚紀、清水栄司.東奥日報 22面.2016年6月8日.対人恐怖症に効果 認知療法半数で、症状消えるが紹介されました。
4. 吉永尚紀、清水栄司.静岡新聞 27面.2016年6月8日.対人恐怖症の治療 認知行動療法が有効 宮崎大などが紹介されました。
5. 吉永尚紀、清水栄司.中国新聞 11面.2016年6月12日.認知行動療法で対人恐怖症改善が紹介されました。
6. 吉永尚紀、清水栄司. 日刊工業新聞 12面.2016年6月16日. 人的交流に支障きたす社交不安症 認知行動療法で症状消失もが紹介されました。
7. 関陽一. 朝日新聞.2016年6月29日.検査では異常なし・・・でも消えない その痛み「考え方」変え改善が紹介されました。
8. 吉永尚紀、清水栄司. 宮崎日日新聞 1面.2016年7月8日.対人恐怖症に面接療法 世界初、有効性を実証 宮大・吉永講師と千葉大チームが紹介されました。

9. 清水栄司.千葉日報.2016年7月30日.不眠症ネットで治療 千葉大病院 認知行動療法を応用が紹介されました。
10. 清水栄司.日本経済新聞 29面.2016年8月2日.薬使わず不眠症改善 千葉大病院が臨床試験が紹介されました。
11. 清水栄司.夕刊フジ 13面.2016年8月3日.薬で改善しない社会不安症や不眠症のための認知行動療法が紹介されました。
12. 吉永尚紀、清水栄司. 読売新聞夕刊 10面.2016年8月3日.社交不安症、訓練で修正... 抗うつ薬効かない患者にも有効が紹介されました。
13. 清水栄司.共同通信.2016年12月22日.「認知行動療法の外来開設 千葉大、国立大病院で初」が紹介されました。
14. 中川彰子.日本経済新聞.2017年2月12日. 強迫症、あえて不安と対峙「認知行動療法」広がるが紹介されました。

#### **WEB 掲載**

1. 中里道子.Medical Note. 2016年7月14日. 子どもの心の病気にはどのような疾患があるのか—発達障害や摂食障害の発症の可能性は？が紹介されました。
2. 中里道子.Medical Note. 2016年7月15日. 子どもの心の病気に対する治療と支援—摂食障害と児童虐待が紹介されました。

## 平成29年度業績

### 英語文献

#### 原著論文

1. Doi R, Tsuchiya T, Mitsutake N, Nishimura S, Matsuu-Matsuyama M, Nakazawa Y, Ogi T, Akita S, Yukawa H, Baba Y, Yamasaki N, Matsumoto K, Miyazaki T, Kamohara R, Hatachi G, Sengyoku H, Watanabe H, Obata T, Niklason LE, Nagayasu T. Transplantation of bioengineered rat lungs recellularized with endothelial and adipose-derived stromal cells. *Sci Rep.* 2017;7:8447
2. Hirose M, Hirano Y, Nemoto K, Sutoh C, Asano K, Miyata H, Matsumoto J, Nakazato M, Matsumoto K, Masuda Y, Iyo M, Shimizu E, Nakagawa A. Relationship between symptom dimensions and brain morphology in obsessive-compulsive disorder. *Brain Imaging Behav.* 2017, 11:1326-1333
3. Ohtani T, Nestor PG, Bouix S, Newell D, Melonakos ED, McCarley RW, Shenton ME, Kubicki M. Exploring the neural substrates of attentional control and human intelligence: Diffusion tensor imaging of prefrontal white matter tractography in healthy cognition. *Neuroscience.* 2017; 341: 52-60
4. Matsumoto J, Hirano Y, Hashimoto K, Ishima T, Kanahara N, Niitsu T, Shiina A, Hashimoto T, Sato Y, Yokote K, Murano S, Kimura H, Hosoda Y, Shimizu E, Iyo M, Nakazato M. Altered serum level of matrix metalloproteinase-9 and its association with decision-making in eating disorders. *Psychiatry Clin Neurosci.* 2017;71:124-34
5. Tomiyasu M, Aida N, Shibasaki J, Umeda M, Murata K, Heberlein K, Brown MA, Shimizu E, Tsuji H, and Obata T. In vivo estimation of  $\gamma$ -aminobutyric acid (GABA) levels in the neonatal brain. *NMR Biomed.* 2017;30
6. Setsu R, Hirano Y, Tokunaga M, Takahashi T, Numata N, Matsumoto K, Masuda Y, Matsuzawa D, Iyo M, Shimizu E, Nakazato M. Increased subjective distaste and altered insula activity to umami tastants in patients with bulimia nervosa. *Front Psychiatry.* 2017;8:172
7. Tsuchiyagaito A, Hirano Y, Asano K, Oshima F, Nagaoka S, Takebayashi Y, Matsumoto K, Masuda Y, Iyo M, Shimizu E, Nakagawa A. Cognitive-Behavioral Therapy for Obsessive-Compulsive Disorder with and without Autism Spectrum Disorder: Gray Matter Differences Associated with Poor Outcome. *Front Psychiatry.* 2017;8:143
8. Asano K, Tsuchiya M, Ishimura I, Lin S, Matsumoto Y, Miyata H, Kotera Y, Shimizu E, Gilbert P. The development of fears of compassion scale Japanese version. *PLoS One.* 2017;12:e0185574
9. Maki S, Koda M, Kitamura M, Inada T, Kamiya K, Ota M, Iijima Y, Saito J, Masuda Y, Matsumoto K, Kojima M, Obata T, Takahashi K, Yamazaki M, Furuya T. Diffusion tensor imaging can predict surgical outcomes of patients with cervical compression myelopathy. *Eur Spine J.* 2017;26:2459-2466
10. Akram MSH, Obata T, Suga M, Nishikido F, Yoshida E, Saito K, Yamaya T. MRI compatibility study of an integrated PET/RF-coil prototype system at 3T. *J Magn Reson.* 2017;283:62-70
11. Noguchi R, Sekizawa Y, So M, Yamaguchi S, Shimizu E. Effects of five-minute internet-based cognitive behavioral therapy and simplified emotion-focused mindfulness on depressive symptoms: a randomized controlled trial. *BMC Psychiatry.* 2017;17:85
12. Kishimoto R, Suga M, Koyama A, Omatsu T, Tachibana Y, Ebner DK, Obata T. Measuring shear-

wave speed with point shear-wave elastography and MR elastography: a phantom study. *BMJ Open*. 2017;7:e013925

13. Yagi M, Hirano Y, Nakazato M, Nemoto K, Ishikawa K, Sutoh C, Miyata H, Matsumoto J, Matsumoto K, Masuda Y, Obata T, Iyo M, Shimizu E, Nakagawa A. Relationship between symptom dimensions and white matter alterations in obsessive-compulsive disorder. *Acta Neuropsychiatrica*. 2017;29:153-63
14. Tsuchiyagaito A, Horiuchi S, Igarashi T, Kawanori Y, Hirano Y, Yabe H, Nakagawa A. Factor structure, reliability, and validity of the Japanese version of the Hoarding Rating Scale Self-Report (HRS-SR-J) *Neuropsychiatr Dis Treat*. 2017;13:1235-43
15. Okuda T, Asano K, Numata N, Hirano Y, Yamamoto T, Tanaka M, Matsuzawa D, Shimizu E, Iyo M, Nakazato M. Feasibility of cognitive remediation therapy for adults with autism spectrum disorders: a single-group pilot study. *Neuropsychiatr Dis Treat*. 2017;13:2185–2191
16. Yamamoto T, Matsumoto Y, Bernard EM. Effects of the cognitive-behavioral You Can Do It! education program on the resilience of Japanese elementary school students: a preliminary investigation. *Int J Educ Res*. 2017;86:50-58
17. Kuge R, Lang K, Yokota A, Kodama S, Morino Y, Nakazato M, Shimizu E. Group cognitive remediation therapy for younger adolescents with anorexia nervosa: a feasibility study in a Japanese sample. *BMC Res Notes*. 2017;10:317
18. Asano K, Koike H, Shinohara Y, Kamimori H, Nakagawa A, Iyo M, Shimizu E. Group cognitive behavioural therapy with compassion training for depression in a Japanese community: a single-group feasibility study. *BMC Res Notes*. 2017;10:670
19. Shiohama T, Ando R, Fujii K, Mukai H, Naruke Y, Sugita K, Kato E, Shimojo N. An Acquired Form of Dandy-Walker Malformation with Enveloping Hemosiderin Deposits. *Case Rep Pediatr*. 2017;2017:3861608

## 日本語文献

### 原著論文

1. 花澤寿 多重迷走神経理論による神経性過食症理解の可能性について 千葉大学教育学部研究紀要 2017;65:349-54
2. 今泉良子, 野口 玲美, 清水 栄司. 職場におけるうつ病スクリーニング後のインターネット認知行動療法の実施可能性に関する予備的研究. 千葉医学雑誌 2017;93:143-50
3. 伊里綾子, 藤里紘子, 山田圭介, 大久保智紗, 宮前光宏, 寺島瞳. 青年における BPD 症状の重症度を捉える Japanese version of Quick Evaluation of Severity over Time (QuEST-J) の開発と信頼性・妥当性の検討 感情心理学研究 2018;25:1-11

4. 岡田加奈子、花澤寿 教育学部養護教諭養成課程における臨床実習の特徴と課題  
千葉大学教育学部研究紀要 2018;61:133-9
5. 花澤寿 ヒトの成長発達と性行動の特徴から見た思春期の性の問題の理解と性教育に  
おける指導について 千葉大学教育学部研究紀要 2018;61:379-84
6. 粉川あずさ、星野郁佳、杉田克生、杉田記代子、折原俊一 英語における読字障害ス  
クリーニングシステム開発について 千葉大学教育学部研究紀要 2018;66:17-21
7. 大島郁葉. 成人期の高機能自閉スペクトラム症に対するスキーマ療法 - 高機能自閉ス  
ペクトラム症者の複雑事例に対する治療可能性について. 心理臨床・発達支援センタ  
ー研究. 北海道医療大学心理科学部雑誌 2018;13:1-12

## 総説

1. 清水栄司. 【認知行動療法の現在とこれから-医療現場への普及と質の確保に向けて】  
社交不安症とパニック症の認知行動療法の普及と質の確保. 精神医学 2017;5:427-32
2. 清水栄司. 【精神医学症候群(第2版)-不安症から秩序破壊的・衝動制御・素行症まで  
-】 不安症群/不安障害群 社交不安症/社交不安障害(社交恐怖). 日本臨床 2017; 別  
冊精神医学症候群 II:28-32
3. 清水栄司. 【認知行動療法の現在とこれから-医療現場への普及と質の確保に向けて】  
社交不安症とパニック症の認知行動療法の普及と質の確保. 精神医学 2017;59:427-32
4. 伊藤絵美 マインドフルネスの認知行動療法への影響. 精神科治療学 2017;32:661-3
5. 伊藤絵美 「開かれた個人療法」のヒントとしてのオープンダイアログ. 精神療法  
2017;43:392-3
6. 伊藤絵美 スキーマ療法. 臨床心理学 2017;17:446-7.
7. 浦尾悠子 認知行動療法に基づく子どもの不安への対処力を養う予防教育プログラム  
「勇者の旅」, 子どものこころと脳の発達 2017;8:59-69

8. 関陽一, 清水栄司. 【精神疾患における社会機能-いかにして評価して、治すのか】 不安症群(不安障害)における社会機能障害 QALYs(質調整生存年)の観点から. 精神科 2017;31:18-22
9. 沼田法子, 清水栄司. 【認知行動療法をはじめとする精神療法の使い分け-症例から考える-】 認知療法からの診立てと治療方針. 精神科治療学 2017;32:875-82
10. 林三千恵, 清水栄司. 子どもの社交不安症とその治療について. 健康教室 2017;68(16):61-4
11. 石川亮太郎「強迫症に対する認知療法 —その方法と効果—」精神科治療学 2017;32:485-9
12. 田口佳代子, 清水栄治. 慢性疼痛の認知行動療法. 臨床麻酔 臨時創刊号 2018;42 臨増:361-68

## 報告書

1. 永岡紗和子、久能勝、中川彰子、平野好幸、清水栄司. 子どもの強迫性障害に対する認知行動療法の有効性に関する研究. メンタルヘルス岡本記念財団研究助成報告集 2017;28:97-101
2. 大溪俊幸、中里道子、大島郁葉、須藤千尋、平野好幸、潤間励子、吉田智子、生稲直美、岩倉かおり、土屋美香、鍋田満代、近藤妙子、千勝浩美、太和田暁之、松澤大輔、中川彰子、清水栄司、今関文夫 学生健康診断システムにおけるメンタルヘルス問診の試み(第2報) CAMPUS HEALTH 2017; 54: 151-152
3. 大溪俊幸、中里道子、大島郁葉、須藤千尋、平野好幸、吉田智子、生稲直美、岩倉かおり、土屋美香、鍋田満代、近藤妙子、千勝浩美、太和田暁之、潤間励子、中川彰子、松澤大輔、清水栄司、今関文夫 大学生の自閉症スペクトラム障害と摂食障害が学生生活に与える影響についての検討 CAMPUS HEALTH 2017; 54: 457-458

4. 大溪俊幸, 須藤 千尋, 平野 好幸, 大島 郁葉, 松尾 幸治, 清水 栄司, 若林 明雄, 今関 文夫. 学生の自閉スペクトラム症に見られる特徴と脳活動についての予備的研究.  
CAMPUS HEALTH 2018;55:282-4

### 単行書

1. 熊野宏昭 (監修), 伊藤絵美 (監修), NHK スペシャル特別版(監修) 「キラーストレス」から心と体を守る！ーマインドフルネス&コーピング実践 CD ブック. 主婦と生活社. 2017/5.
2. 清水栄司 大人の人見知り ワニブックス 2017/6
3. 清水栄司 自分でできる認知行動療法 うつ・パニック症・強迫症のやさしい治し方 翔泳社 2017/8
4. M. ヴァン・ヴリースウィジク, J. ブロアーゼン, M. ドナルト (編集), 伊藤絵美・吉村由未 (監訳) スキーマ療法最前線: 第三世代 CBT との統合から理論と実践の拡大まで 誠信書房 2017/7
5. 松本俊彦・伊藤絵美 (監修), 藤野京子・鷺野薫・藤掛友希・両全会薬物プログラム開発会 (著) 薬物離脱ワークブック 金剛出版 2017/9
6. 伊藤絵美 (著) つらいと言えない人がマインドフルネスとスキーマ療法をやってみた 医学書院 2017/10

### 国際学会

1. Matsumoto J, Hirano Y, Kitahara A, Tokuyama H, Yamaga M, Kitamoto T, Yokote K. Cognitive function in bariatric surgery versus non-surgical patients for obesity. 24th European Congress on Obesity (ECO), Porto, 2017/5/17-20
2. Hirano Y, Matsumoto J, Kitahara A, Tokuyama H, Yamaga M, Kitamoto T, Matsumoto K, Masuda Y, Yokote K. Reward processing alteration after bariatric surgery in obesity. 24th European Congress on Obesity (ECO), Porto, 2017/5/17-20

3. Tsuchiyagaito A, Hirano Y, Shimizu E, Nakagawa A. OCD with and without ASD: Do differential brain alternative predict CBT outcomes? 24th ANNUAL OCD Conference (IOCDF), San Francisco 2017/7/6-09. (2017 IOCDF OUTSTANDING POSTER TRAVEL AWARD)
4. Sahara Y, Matsuzawa D, Fuchida T, Goto T, Suto C, Shimizu E. Transgenerational effects of methyl donors deficient diets in mice during juvenile period, The 40th Annual Meeting of Japan Neuroscience Society, Makuhari Messe, Chiba 2017/7/20.
5. Takanashi R, Sento A, Araki S, Takahashi Y, Ino Y, Sasaki H, Shimizu E. Psychological symptoms and effectiveness of cognitive behavioral interventions associated with work-related stressful events in employees on sick leaves with depressive disorders in Japan. 47th Congress of the European Association for Behavioral and Cognitive Therapies. LJUBLJANA – SLOVENIA. 2017/9/13-16.
6. Goto T, Matsuzawa D, Sahara Y, Fuchida T, Sutoh C, Shimizu E. The effect of methyl donor deficient diet combined with stress exposure in juvenile period on behaviors and monoamine levels in C57BL/6J, The 90th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society, Kobe Port Island, Hyogo 2017/11/6-09
7. Oshiyama C, Niwa S, Kosugi N, Nakagome K. Development of a music NEAR therapy program for Schizophrenia. The 15th. World Congress of Music Therapy. Tukuba, Japan 2017/7/5.
8. Oshiyama C, Nuki M. Pain relieving effects of music therapy on elderly persons using sensory integrated theory. 15th. World Congress of Music Therapy. Tukuba, Japan 2017/7/6

#### 国内学会

1. 土屋賢治, 藤岡徹, 小坂浩隆, 齊藤まなぶ, 松尾宗明, 平野好幸, 岡東歩美, 佐々木剛, 前垣義弘, 菊知充, 首藤勝行, 小野寺雄一郎, 片山泰一. 視線検出装置 Gazefinder を用

いた 5~17 歳児における自閉スペクトラム症の診断補助. 精神神経学雑誌 2017 特別号 S509. 2017/6

2. 石本雄真,松本有貴,山本利枝. 心理教育をいかに届けるかプログラムの Feasibility を考える.教材研究を考える-負担軽減と積極的意義.日本教育心理学会第 59 回総会発表論文集.88-89、2017.
3. 大島郁葉. 成人の高機能自閉症者に対するスキーマ療法—2 事例を通しての検討—. 第 14 回日本うつ病学会総会/第 17 回日本認知療法・認知行動療法学会ケーススタディ 1, 認知療法学会, 東京 2017.
4. 大島郁葉,大隅香苗,岩佐和典,三上謙一.成人の発達障害者に対する認知行動療法: 内的不適応感に対するケアについて考える. 第 43 回日本認知・行動療法学会自主シンポジウム, 2017.
5. 伊藤絵美 (特別講演) 生活習慣病診療に役立つ「コーピング」と「マインドフルネス」の考え方 第 29 回日本内分泌糖尿病心理行動研究会 (東京) 2017/10/28
6. 花澤寿 思春期神経性やせ症の精神療法について (教育講演) 第 22 回千葉総合病院精神科研究会 2017/4/15
7. 高梨利恵子, 土門由紀, 山田繭子, 馬場洋子, 荒木章太郎, 高橋保子, 仙頭彩奈, 綾千晶, 満山宏人, 伊野ゆり子, 佐々木一, 山内直人 インテーク情報を利用したドロップアウトリスクの見立てについて 第 10 回うつ病リワーク研究会年次大会 ポスター発表 福岡. 2017/4/22-23.
8. 平野好幸、松本淳子、北原綾、徳山宏丈、山賀政弥、北本匠、松本浩史、榊田喜正、清水栄司、横手幸太郎. 肥満外科手術における報酬処理の変化, 第 35 回日本肥満症治療学会学術集会. 盛岡, 2017/6/23-24
9. 松本淳子、平野好幸、須藤千尋、清水栄司、横手幸太郎. 成人肥満と精神神経薬剤処方数は関連する—平成 25 年度レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) オープンデータから—, 第 35 回日本肥満症治療学会学術集会. 盛岡, 2017/6/23-24

10. 大島郁葉. 成人の高機能自閉症者に対するスキーマ療法—2 事例を通しての検討—  
第 14 回日本うつ病学会総会/第 17 回日本認知療法・認知行動療法学会 2017/7.
11. 永田忍, 高梨利恵子, 松木悟志, 中川彰子, 清水栄司. 過敏性腸症候群と嘔吐恐怖が併  
存した青年期男性患者への認知行動療法の一事例, 第 17 回 日本認知療法・認知行動  
療法学会大会, 京王プラザホテル 2017/7/21-23
12. 伊藤絵美 (シンポジスト) 慢性うつ病に対する認知行動療法&スキーマ療法 第 14  
回日本うつ病学会総会/第 17 回日本認知療法・認知行動療法学会 (合同開催) (東  
京) 2017/7/22
13. 伊藤絵美 (講師). スキーマ療法入門 第 14 回日本うつ病学会総会/第 17 回日本認知  
療法・認知行動療法学会 (合同開催) ワークショップ (東京) 2017/7/23
14. 清水栄司, 倉田由美子, 押山千秋, 浦尾悠子, 城月健太郎, 佐々木和義 「うつ・不安予  
防のための心と脳の健康づくりの試み〜環境人間科学/脳科学/認知行動科学の観点か  
ら〜」 日本健康心理学会第 30 大会シンポジウム 2017/9/2,明治大学
15. Ikoma Y, Obata T, Hirano Y, Tachibana A, Tachibana Y, Murata K, Higashi T.  
Evaluation of relationship between BOLD signal and cerebral blood flow in activated  
state by simultaneous ASL and BOLD measurement. 第 45 回日本磁気共鳴医学会大  
会. 宇都宮 2017/9/14-16
16. Tachibana A, Ikoma Y, Hirano Y, Tachibana Y, Higashi T, Obata T. Time-lag  
assessment of neuronal connectivity for default mode network by multi-band rsfMRI. 第  
45 回日本磁気共鳴医学会大会. 宇都宮 2017/9/14-16
17. 薛陸景, 浅野憲一, 伊吹英恵, 沼田法子, 田中麻里, 平野好幸, 清水栄司, 中里道  
子. 神経性過食症に対する個人認知行動療法の効果研究, 第 21 回日本摂食障害学会学  
術集会, 広島 2017/10/21-22

18. 土屋垣内晶、平野好幸、竹林由武、清水栄司、中川彰子. より良い治療効果を得るために—自閉スペクトラム症を併存する強迫症に対する認知行動療法の効果と関連する脳部位を用いたモデル検討—, 第 44 回日本脳科学学会. 弘前 2017/10/14-15
19. 大溪俊幸、若林明雄、吉田智子、生稲直美、岩倉かおり、太和田暁之、潤間励子、中里道子、清水栄司、今関文夫 大学生・大学院生における自閉症スペクトラム傾向と社会適応の関係についての調査 全国大学保健管理研究集会 沖縄コンベンションセンター 2017/11/29-30
20. 大溪俊幸、須藤千尋、平野好幸、大島郁葉、松尾幸治、清水栄司、若林明雄、今関文夫 大学生の自閉症スペクトラム障害に特徴的な脳活動についての検討 全国大学保健管理研究集会 沖縄コンベンションセンター 2017/11/29-30
21. 杉田克生、粉川あずさ、金育美、ホーン・ベヴァリー、松澤大輔、浅野由美、宮本清美、杉田記代子「英語読字障害児の療育支援システム樹立への取り組み」 第 209 回日本小児科学会千葉地方会 千葉大学医学部附属病院 3 階大講堂 2018/2/11
22. 坂口 純、吉田 麻里奈、石田 茂誠、五十嵐 俊次、杉田 克生、宮崎、中村 道夫第 68 回日本小児神経学会関東地方会「生来健康な 17 歳男性に突然発症した脳幹梗塞」 コンベンションホール AP 品川 2018/3/24
23. 大溪俊幸、今関文夫、須藤千尋、清水栄司、大島郁葉、平野好幸、若林明雄. 大学生の自閉スペクトラム症に特徴的な脳活動についての検討, 第 1378 回千葉医学会例会・総合安全衛生管理機構研究発表プログラム (第 6 回桜美会). 千葉 (2018.3.17)

## 社会活動

1. 伊藤絵美 三重県立こころの医療センター マインドフルネスの理論と実践：うつ病の再発予防に向けて. 2017/7/13
2. 伊藤絵美 第 12 回三重認知行動・薬物療法研究会 マインドフルネスの理論と実践：うつ病の再発予防に向けて. 2017/7/13

3. 伊藤絵美 第16回東信精神科治療研究会 ストレスケアに活かすコーピングと認知行動療法. 2017/8/6
4. 花澤寿 高大連携講座「ストレスとその対処について」 千葉女子高校 2017/5/13
5. 花澤寿 平成29年度ゲートキーパー養成研修 「思春期の摂食障害の理解と支援」 千葉市こころの健康センター 2017/7/21
6. 花澤寿 四街道市おやこの支援勉強会講師 「思春期のこころと疾病、その支援」 四街道市保健センター 2017/8/3
7. 花澤寿 柏市養護教諭研修会講師 「リラクセーションの理論と技法について」 柏市沼南庁舎 2017/8/25
8. 浦尾悠子 平成29年度小・中生徒指導推進研究協議会（生徒指導担当部門）、不安への対処力を養う『勇者の旅』プログラムとは、千葉県教育庁東上総教育事務所（睦沢ゆうあい館）、2017/5/23
9. 浦尾悠子 平成29年度第1回研修会、不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践、日本学校心理士会東京支部、東京成徳大学東京キャンパス、2017/6/17
10. 浦尾悠子 平成29年度不登校関係機関連絡協議会、子どもの不安への対処力を養う予防教育プログラム『勇者の旅』、青森県教育委員会、青森県総合社会教育センター、2017/6/22
11. 浦尾悠子、小柴孝子 子どもみんなプロジェクト in 千葉、不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践、旭市立富浦小学校、2017/7/27
12. 浦尾悠子、小柴孝子 子どもみんなプロジェクト in 千葉、不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践、山武市立成東小学校、2017/7/28
13. 浦尾悠子、小柴孝子 子どもみんなプロジェクト in 千葉、不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践、南房総教育研究所、2017/7/31

14. 浦尾悠子, 小柴孝子 子どもみんなプロジェクト in 千葉, 不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践, 千葉市立美浜打瀬小学校, 2017/8/1
15. 浦尾悠子, 小柴孝子 子どもみんなプロジェクト in 千葉, 不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践, 成田市立三里塚小学校, 2017/8/2
16. 浦尾悠子, 清水栄司 日本学校教育相談学会第 29 回総会・研究大会 (千葉大会) ワークショップ F, 不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践, 神田外語大学, 2017/8/4
17. 浦尾悠子 平成 29 年度夏期専門研修, 子どもの不安への対処力を育てるー不安の問題に自ら対処するための知識とスキルを授業で教えよう!ー, 千葉市教育センター, 2017/8/17
18. 浦尾悠子, 小柴孝子 子どもみんなプロジェクト in 千葉, 不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践, 市川市立行徳小学校, 2017/8/21
19. 浦尾悠子 平成 29 年度教員免許状更新講習, 不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践, 千葉敬愛短期大学, 2017/8/22
20. 浦尾悠子 子どもみんなプロジェクト in 千葉, 不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践, 鳥取県教育委員会事務局いじめ不登校総合対策センター, 2017/8/24
21. 浦尾悠子 平成 29 年度第 2 回気高中学校区小中合同研修会, 不安への対処力を養うための認知行動療法に基づく予防教育プログラムー『勇者の旅』プログラムのご紹介ー, 鳥取市気高中学校区小中一貫教育連絡協議会, 2017/8/25
22. 浦尾悠子, 小柴孝子 子どもみんなプロジェクト in 千葉, 不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践, 市原市ちはら台コミュニティーセンター, 2017/8/30
23. 大島郁葉, 北海道医療大学発達支援センター公開研修会「成人の自閉スペクトラム症に対するスキーマ療法研修会」(研修講師) 札幌 2017/8.

24. 大島郁葉. 栃木県臨床心理士会研修会「スキーマ療法ワークショップ」(研修講師)  
栃木 2017/7.
25. 大島郁葉. 千葉子どもの心教育医療研究会第3回講演会「思春期以降の自閉スペクトラム症者に対する家族支援の取り組みの紹介」(招待講演) 千葉 2017/7.
26. 大島郁葉. 神経・認知・行動・感情心理研究会(研修講師)「スキーマ療法継続研修会」 東京 2017/6.
27. 山本利枝:「折れない心を育む体験、レジリエンスを身につけよう」早稲田大学教養講座, 2017/5/27
28. 大島郁葉. 「スキーマ療法の理論と実践」 第43回 日本認知・行動療法学会研修会 講師 新潟 2017/9
29. 浦尾悠子 第10回市原市精神保健福祉フェスタ, 講演会「心の健康を保つ認知行動療法のエッセンス」, 市原市市民会館大ホール. 2017/11/11
30. 浦尾悠子 子どもみんなシンポジウム 2017 in 金沢, 講演会「子どもの不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践」, 金沢大学十全講堂. 2017/12/2
31. 浦尾悠子 千葉県高等学校教育研究会養護部会7ブロック研修会「認知行動療法の保健室での活用について」, 千葉県立我孫子高等学校. 2017/12/19
32. 伊藤絵美 所沢市教育研究会全員研修会講演会 教職員の生きがいとメンタルヘルスの向上—ストレスコーピングによるセルフケア. 2017/8/23
33. 伊藤絵美 NHK 放送研修センター 管理職対象メンタルヘルスケア研修. 2017/9/4-05.
34. 伊藤絵美 ウィリング横浜主催 管理職のための職場のメンタルヘルス研修. 2017/9/10.

35. 伊藤絵美 矯正協会 カウンセリング研修会：認知行動療法ワークショップ.  
2017/9/19,10/3,10/17,10/31.
36. 伊藤絵美 横浜保護観察所 性犯罪再犯防止プログラム. 2017/9/29.
37. 伊藤絵美 NHK 出版 セルフケアのためのマインドフルネス. 2017/10/12.
38. 伊藤絵美 町田市職員研修 ストレスマネジメント. 2017/10/26.
39. 伊藤絵美 矯正協会 スキーマ療法ワークショップ. 2017/11/7,11/21
40. 伊藤絵美 横浜保護観察所 性犯罪再犯防止プログラム. 2017/12/8
41. 伊藤絵美 法務総合研究所保護観察官高等科研修 ストレスマネジメント.  
2017/12/13
42. 伊藤絵美 矯正研修所 CBT におけるケースフォーミュレーションの実際.  
2017/12/18
43. 花澤寿 東京都板橋区養護教諭会 講演 心の育ちの危機と支援-こころを支える関わりとは- 板橋区教育支援センター 2017/9/19
44. 平野好幸 認知行動療法と脳画像. 教育講演 2. 座長、堀内聡. 第 34 回日本行動科学会ウィンターカンファレンスプログラム・抄録集, 10 (教育講演). 岩手. 2018/3/9-11.
45. 大島郁葉. 「児童思春期の自閉スペクトラム症に対するスキーマ療法ワークショップ」  
福島大学子どものメンタルヘルス推進事業室 (福島, 2018/1)
46. 伊藤絵美 矯正協会 認知行動療法事例検討ワークショップ. 2018/1/16
47. 花澤寿 第 63 回千葉県養護教諭研究発表会 講演「愛着」を考える -ヒトの子育ての難しさという視点から- 千葉県養護教諭研究発表会 千葉県文化会館 2018/1/19

48. 伊藤絵美 横浜上大岡臨床心理センター 認知行動療法ワークショップ. 2018/1/25, 2018/2/1, 2018/2/22
49. 浦尾悠子 日本学校教育相談学会千葉県支部第 74 回研修会（学校心理士会千葉支部共催）子どもみんなプロジェクト 2018 in 千葉「勇者の旅」実践報告会「平成 29 年度の取り組みについて」, 千葉大学亥鼻キャンパス. 2018/1/27
50. 松澤大輔 「自閉症スペクトラム症 ASD と注意欠陥多動性障害 ADHD について」 「医師から親に伝えたいこと」全日警ホール 市川市八幡市民会館 2018/1/31
51. 伊藤絵美 大宮医師会 コーピングと認知行動療法によるセルフケア. 2018/2/2
52. 伊藤絵美 NHK 放送研修センター 管理職対象メンタルヘルスケア研修. 2018/2/8-9
53. 浦尾悠子 鳥取県岩美町立岩美中学校校内研修会「脳科学の知見から、小中連携において不安予防をするメリットについて」, 岩美町立岩美中学校. 2018/2/14
54. 浦尾悠子 鳥取県教育委員会事務局いじめ・不登校総合対策センター 平成 29 年度第 2 回安心・安全な学校づくりプロジェクト事業連絡協議会, 「勇者の旅」プログラムの効果的な活用による学校不適応対策について, 中部総合事務所. 2018/2/15
55. 高梨利恵子 第 10 回日本不安症学会学術大会研修会「認知行動療法の研修会」(研修講師) 東京 2018/3/17-18
56. 伊藤絵美 青森少年鑑別所 子どもの支援に活かす認知行動療法. 2018/3/5

## メディア

### テレビ

1. 清水栄司. テレビ朝日系列、人生で大事なことは〇〇から学んだ（テーマ：人見知り）2017 年 8 月 13 日放送 VTR 出演

## 受賞

1. Tsuchiyagaito A, Hirano Y, Shimizu E, Nakagawa A “OCD with and without ASD: Do differential brain alternative predict CBT outcomes?” 24th ANNUAL OCD Conference (IOCDF), 2017 IOCDF Outstanding Poster Travel Award
2. 平野好幸、松本淳子、北原綾、徳山宏丈、山賀政弥、北本匠、松本浩史、榊田喜正、清水栄司、横手幸太郎「肥満外科手術における報酬処理の変化」、第35回日本肥満症治療学会学術集会。優秀演題賞。
3. 石川亮太郎、小林茂、石垣琢磨、向谷地生良「当事者研究による心理社会的認知の変化: 浦河べてるの家における5年間の縦断調査」 認知療法研究 第9巻1号, 66-74. 2017. 日本認知療法学会最優秀論文賞受賞
4. 松澤大輔. 第三回千葉大学医学部スカラーシップ指導者賞 2018/2

## 平成30年度業績

### 英語文献

#### 原著論文

1. Shibasaki J, Aida N, Morisaki N, Tomiyasu M, Nishi Y, Toyoshima K. Changes in brain metabolite concentrations after neonatal hypoxic-ischemic encephalopathy. *Radiology* 2018;288:840-848
2. Calmels N, Botta E, Jia N, Fawcett H, Nardo T, Nakazawa Y, Lanzafame M, Moriwaki S, Sugita K, Kubota M, Obringer C, Spitz MA, Stefanini M, Laugel V, Orioli D, Ogi T, Lehmann AR. Functional and clinical relevance of novel mutations in a large cohort of patients with Cockayne syndrome. *J Med Genet*. 2018;55:329-343
3. Matsumoto K, Sutoh C, Asano K, Seki Y, Urao Y, Yokoo M, Takanashi R, Yoshida T, Tanaka M, Noguchi R, Nagata S, Oshiro K, Numata N, Hirose M, Yoshimura K, Nagai K, Sato Y, Kishimoto T, Nakagawa A, Shimizu E. Internet-Based Cognitive Behavioral Therapy With Real-Time Therapist Support via Videoconference for Patients With Obsessive-Compulsive Disorder, Panic Disorder, and Social Anxiety Disorder: Pilot Single-Arm Trial. *J Med Internet Res*. 2018;20:e12091.
4. Oshiyama C, Sutoh C, Miwa H, Okabayashi S, Hamada H, Matsuzawa D, Hirano Y, Takahashi T, Niwa SI, Honda M, Sakatsume K, Nishimura T, Shimizu E. Gender-specific associations of depression and anxiety symptoms with mental rotation. *J Affect Disord*. 2018;235:277-284
5. Takahashi M, Urushihata T, Takuwa H, Sakata K, Takado Y, Shimizu E, Suhara T, Higuchi M, and Ito H. Imaging of Neuronal Activity in Awake Mice by Measurements of Flavoprotein Autofluorescence Corrected for Cerebral Blood Flow. *Front Neurosci*. 2018;11:723
6. Ohtani T, Del Re E, Levitt JJ, Niznikiewicz M, Konishi J, Asami T, Kawashima T, Roppongi T, Nestor PG, Shenton ME, Salisbury DF, McCarley RW. Progressive symptom-associated prefrontal volume loss occurs in first-episode schizophrenia but not in affective psychosis. *Brain Struct Funct*. 2018;223:2879-2892
7. Hamada H, Matsuzawa D, Sutoh C, Hirano Y, Chakraborty S, Ito H, Tsuji H, Obata T, Shimizu E. Comparison of brain activity between motor imagery and mental rotation of the hand tasks: a functional magnetic resonance imaging study. *Brain Imaging Behav*. 2018;12:1596-1606
8. Hirano Y, Yen CC, Liu JV, Mackel JB, Merkle H, Nascimento GC, Stefanovic B, Silva AC. Investigation of the BOLD and CBV fMRI responses to somatosensory stimulation in awake marmosets (*Callithrix jacchus*). *NMR Biomed*, 2018;31:e3864
9. Kuno M, Hirano Y, Nakagawa A, Asano K, Oshima F, Nagaoka S, Matsumoto K, Masuda Y, Iyo M, Shimizu E. White matter features associated with autistic traits in obsessive-compulsive disorder. *Front Psychiatry*. 2018;9:216
10. Matsuda S, Matsuzawa D, Ishii D, Tomizawa H, Shimizu E. Development of the fear regulation system from early adolescence to young adulthood in female mice. *Neurobiol Learn Mem*. 2018;150:93-98
11. Maki S, Koda M, Ota M, Oikawa Y, Kamiya K, Inada T, Furuya T, Takahashi K, Masuda Y, Matsumoto K, Kojima M, Obata T, Yamazaki M. Reduced field-of-view diffusion tensor imaging of the spinal cord shows motor dysfunction of the lower extremities in patients with cervical compression myelopathy. *Spine (Phila Pa 1976)*. 2018;43:89-96

12. Numata N, Hirano Y, Sutoh C, Matsuzawa D, Takeda K, Setsu R, Shimizu E, Nakazato M. Hemodynamic responses in prefrontal cortex and personality characteristics in patients with bulimic disorders: a near-infrared spectroscopy study. *Eat Weight Disord*, in press
13. Sato D, Yoshinaga D, Nagai E, Hanaoka H, Sato Y, Shimizu E, Randomised controlled trial on the effect of internet-delivered computerised cognitive-behavioural therapy on patients with insomnia who remain symptomatic following hypnotics: a study protocol, *BMJ Open*. 2018;8:e018220
14. Yamada F, Hiramatsu Y, Murata T, Seki Y, Yokoo M, Noguchi R, Shimizu E. Exploratory study of imagery rescripting without focusing on early traumatic memories for major depressive disorder. *Psychol Psychother*. 2018;91:345-362
15. Naka M, Matsuzawa D, Ishii D, Hamada H, Uchida T, Sugita K, Sutoh C, Shimizu E. Differential effects of high-definition transcranial direct current stimulation on verbal working memory performance according to sensory modality. *Neurosci Lett*. 2018;687:131-136
16. Urao Y, Yoshida M, Koshihara T, Sato Y, Ishikawa S, Shimizu E. Effectiveness of a cognitive behavioural therapy-based anxiety prevention programme at an elementary school in Japan: a quasi-experimental study. *Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health*. 2018;12:33
17. Koike H, Tsuchiyagaito A, Hirano Y, Oshima F, Asano K, Sugiura Y, Kobori O, Ishikawa R, Nishinaka H, Shimizu E, Nakagawa A. Reliability and validity of the Japanese version of the Obsessive-Compulsive Inventory-Revised (OCI-R). *Curr Psychol*. in press
18. Nakagawa A, Olsson N C, Hiraoka Y, Nishinaka H, Miyazaki T, Kato N, Nakatani E, Tomita M, Yoshioka K, Murakami S, Aoki S. Long-term outcome of CBT in adults with OCD and comorbid ASD: Anaturalistic follow-up study. *Curr Psychol*. in press
19. Noda Y, Asano K, Shimizu E, Hirano Y. Assessing Subgroup Differences in Posttraumatic Stress Disorder Among Rescue Workers in Japan With the Impact of Event Scale-Revised. *Disaster Med Public Health Prep*. in press
20. Nagata S, Seki Y, Shibuya T, Yokoo M, Murata T, Hiramatsu Y, Yamada F, Ibuki H, Minamitani N, Yoshinaga N, Kusunoki M, Inada Y, Kawasoe N, Adachi S, Oshiro K, Matsuzawa D, Hirano Y, Yoshimura K, Nakazato M, Iyo M, Nakagawa A, Shimizu E. Does Cognitive Behavioral Therapy Alter Mental Defeat and Cognitive Flexibility in Patients with Panic Disorder? *BMC Res Notes* 2018;11:23
21. Setsu R, Asano K, Numata N, Tanaka M, Ibuki H, Yamamoto T, Uragami R, Matsumoto J, Hirano Y, Iyo M, Shimizu E, Nakazato M. A single-arm pilot study of guided self-help treatment based cognitive behavioral therapy for bulimia nervosa in Japanese clinical settings. *BMC Res Notes*. 2018;11:257.
22. Takeda T, Nakataki M, Ohta M, Hamatani S, Matsuura K, Ohmori T. Effect of cognitive function on jumping to conclusion in patients with schizophrenia. *Schizophr Res Cogn*. 2018;12:50-55
23. Tomita S, Suzuki H, Kajiwara I, Nakamura G, Jiang Y, Suga M, Obata T, Tadano S. Numerical simulations of magnetic resonance elastography using finite element analysis with a linear heterogeneous viscoelastic model. *J Vis (Tokyo)*. 2018;21:133-145

24. Oshima F, Iwasa K, Nishinaka H, Suzuki T, Umehara S, Fukui I, Shimizu E. Factor structure and reliability of the Japanese Version of the Young Schema Questionnaire Short Form. *International Journal of Psychology and Psychological Therapy*, 2018;18:99-109
25. Tanaka Y, Hirano Y, Shimizu E. Mental imagery in social anxiety disorder: the development and clinical utility of a Japanese version of the Spontaneous Use of Imagery Scale (SUIS-J). *Asia Pac J Couns Psychother*. 2018;9:171-185
26. Ishii D, Matsuzawa D, Matsuda S, Tomizawa-Shinohara H, Sutoh C, Kohno Y, Shimizu E. Cued and contextual fear memories are erased by a long passage of time after fear conditioning. *Chiba Medical J*. 2018;94E:45-50
27. Shibuya T, Seki Y, Nagata S, Murata T, Hiramatsu Y, Yamada F, Yokoo M, Ibuki H, Minamitani N, Tanaka M, and Shimizu E. Imagery rescripting of traumatic memories for panic disorder: An exploratory study. *Cogn Behav Therap*. 2018;11:e4
28. Yokoo M, Wakuta M, Shimizu E. Educational Effectiveness of a Video Lesson for Bullying Prevention. *Child Sch*, 2018;40:71-79
29. Oshima F, Shaw I, Iwasa K, Nishinaka H, Shimizu E. Individual Schema Therapy for high-functioning autism spectrum disorder with comorbid psychiatric conditions in Young Adults: Results of a Naturalistic Multiple Case Study. *J Brain Sci*. 2018;48:43-69
30. Takeda T, Nakataki M, Ohta M, Hamatani S, Matsuura K, Yoshida R, Kameoka N, Tominaga T, Umehara H, Kinoshita M, Watanabe S, Numata S, Sumitani S, Ohmori T. Negative and positive self-thought predict subjective QOL in people with schizophrenia. *Neuropsychiatr Dis Treat*, 2019;15:293-301
31. Goto Y, Otake Y, Suzuki K, Inoue S, Kondo K, Shimizu E. Incidence and circumstances of falls among community-dwelling ambulatory stroke survivors: A prospective study. *Geriatr Gerontol Int*. 2019;3:240-244
32. Sahara Y, Matsuzawa D, Ishii D, Fuchida T, Goto T, Sutoh C, Shimizu E. Paternal methyl donor deficient diets during development affect male offspring behavior and memory-related gene expression in mice. *Dev Psychobiol* 2019;61:17-28
33. Ishii D, Matsuzawa D, Matsuda S, Tomizawa-Shinohara H, Sutoh C, Shimizu E. Spontaneous recovery of fear differs among early - late adolescent and adult male mice. *Int J Neurosci*. 2019;1:1-9
34. Kurayama T, Matsuzawa D, Hirano Y, Shimizu E. Insensitivity of the auditory mismatch negativity (MMN) in human classical fear conditioning and extinction. *Neuroreport*. in press

## 日本語文献

### 原著論文

1. 松本淳子、平野好幸、須藤千尋、清水栄司、横手幸太郎. 成人肥満と精神神経薬剤処方数は関連する－レセプト情報・特定検診等情報データベース（第1回 NDB オープンデータ）から－. 調査研究ジャーナル 2018;7:14-20
2. 岩本里美、杉田克生、金育美、加藤徹也、杉田記代子、吉本一紀. 中学・高校の放射線教育における現状調査－大学生を対象とした放射線リスク認知調査より. 千葉大学教育学部研究紀要 2019;67:369-377
3. 金育美、杉田克生. 日本人児童向け英語読字障害のスクリーニング開発 千葉大学教育学部研究紀要 2019;67:153-156

### 総説

1. 荒井穂菜美, 石川信一, 清水栄司. 特別企画：認知行動療法を用いた治療. こころの科学 2018;201:57-61
2. 清水栄司, 吉村健佑. 特集：エビデンスに基づいた診療ガイドライン使用のための診療報酬化案とビッグデータ化. 月刊精神科 vol.33,No.1, P33-44. 2018/07/28.
3. 杉田克生. 行動療法 特集：注意欠陥・多動症(AD/HD) 日本臨牀 76(4), P637-642, 2018/04/01.
4. 松本一記、清水栄司. 強迫症・社交不安症・パニック症に対する在宅での遠隔認知行動療法. 精神科治療学 2019 第34巻02号 165-170. 2019/02.
5. 中川彰子. 「行動療法における薬物療法」. こころの科学. 203.2019/1,27-32. 査読無. 2019/01.
6. 松本一記、清水栄司、「【精神科における遠隔診療の可能性】強迫症・社交不安症・パニック症に対する在宅での遠隔認知行動療法(解説/特集)」.精神科治療学 (0912-1862) 34巻2号.165-170.2019/2.
7. 平野好幸、中川彰子、松澤大輔、浦尾悠子、高岡昂太、富安もよこ、清水栄司. 千葉大学子どもこころの発達教育研究センターの取組. 子どもこころと脳の発達. 印刷

中.

8. 平野好幸 認知行動療法と脳科学 行動科学 印刷中.
9. 花澤寿. ポリヴェーガル理論から見た精神療法について. 千葉大学教育学部研究紀要 2019;67:329-337

### 報告書

1. 大溪俊幸、須藤千尋、平野好幸、大島郁葉、松尾幸治、清水栄司、若林明雄、今関文夫 学生の自閉スペクトラム症に見られる特徴と脳活動についての予備的研究 CAMPUS HEALTH 2018; 55, 282-284
2. 久能勝、小池春菜、中川彰子、大島郁葉、平野好幸、清水栄司. 「自閉症スペクトラム障害を併存する児童・思春期強迫性障害の特徴についての研究」.メンタルヘルス岡本記念財団研究助成報告集 2019;30:27-30.

### 単行書

1. 浦尾悠子, 清水栄司 (共著). 学校保健の動向 (平成 29 年度版) 第 1 章 健康管理の動向, 児童生徒のメンタルヘルス, p93-98, 日本学校保健会. 2018/11/10.
2. 清水栄司 (著) マンガでわかる「アンダーコントロールガイド」 法研. 2018/11/08.
3. 伊藤絵美・吉村由未 (監訳)、ウェンディ・ビヘイリー (著). あなたを困らせるナルシストとの付き合い方: 病的な自己愛者を身近にもつ人のために、誠信書房. 2018/07/25.
4. 伊藤絵美 (監修). 心の体質改善「スキーマ療法」自習ガイド、アスクヒューマンケア. 2018/06/20.
5. 杉田克生編. 英語読字障害支援ガイドブック (Guidebook for English-dyslexia support) 千葉大学教育学部養護教諭養成課程. 杉田研究室出版. 2019/03/31.

### 国際学会

1. Hirano Y, Matsumoto J, Kitahara A, Tokuyama H, Ono H, Matsumoto K, Masuda Y, Shimizu E, Yokote K. Longitudinal reward processing alteration at 18-month follow-up after bariatric surgery in obesity. International Federation for The Surgery of Obesity and Metabolic Disorders (IFSO) 23rd World Congress. Dubai. 2018/09/26-29.
2. Matsumoto J, Hirano Y, Kitahara A, Ono H, Tokuyama H, Yokote K. A longitudinal follow-up study of cognitive functions in obesity after bariatric surgery. International Federation for The Surgery of Obesity and Metabolic Disorders (IFSO) 23rd World Congress. Dubai. 2018/09/26-29.
3. Matsuda S, Tomizawa H, Tohyama S, Furuya Y, Sahara Y, Ichinohe N Suto F, Matsuzawa D, Shimizu E, Mizutani A. Sex differences in immune system and fear extinction., The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Kobe Convention Center, Japan. 2018/07/28.
4. Sahara Y, Matsuzawa D, Fuchida T, Goto T, Sutoh C, Shimizu E., Positive effect of environmental enrichment on fear extinction is affected by presence or absence of methyl donor in mice. The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Kobe Convention Center, Japan. 2018/07/27.
6. Hamatani S, Hirano Y, Numata N, Shimizu E. Successful cognitive behavioral therapy for obsessive compulsive disorder in an adolescent combined with generalized anxiety disorder: a case report. 2nd Regional Meeting of International Society for Adolescent Psychiatry and Psychology (ISAPP). Osaka, Japan. 2018/06/29-07/01.
7. Matsumoto K, Hamatani S. Effectiveness of Cognitive behavior therapy for specific phobia of vomiting with "catastrophic misunderstanding of body sensation": a case report. ISAPP joint with 31st Annual Meeting of JSAP. Osaka, Japan. Senri Life Science Center, Osaka, Japan. 2018/06/29-30.
8. Aida N, Tomiyasu, M. "Using MRI/S to study metabolic signatures of early brain development & disease." International Society for Magnetic Resonance in Medicine, 26th annual meeting & exhibition. Paris. 2018/06/16-21.

9. Tachibana A, Ikoma Y, Tachibana Y, Kershaw J, Hirano Y, Murata K, Higashi T, Obata T. Estimating the time-lag of neuronal activity for the default mode network using multi-band EPI acquisitions in resting-state fMRI. 2018 Joint Annual Meeting of the International Society for Magnetic Resonance in Medicine and the European Society for Magnetic Resonance in Medicine and Biology (ISMRM-ESMRMB). Paris, France. 2018/06/16-21.
10. Oshima F. Schema Therapy for high-functioning autism spectrum disorder with comorbid psychiatric disorder in Adults. International society of schema therapy conference. Amsteldan, Netherlands. 2018/05/23-25.
11. Fujioka T, Tsuchiya KJ, Saito M, Sakamoto Y, Nakamura K, Choi D, Mizuno Y, Takiguchi S, Fujisawa TX, Jung M, Matsuzaki H, Tomoda A, Okato A, Hirano Y, Sasaki T, Yoshida T, Matsuo M, Saito DN, Kikuchi M, Maegaki Y, Katayama T, Kosaka H. Developmental changes of attention to social information in Autistic Spectrum Disorder from childhood to adolescence. 7th World Congress of Asian Psychiatry (AFPA), Sydney 2019/2/21-24

#### 国内学会

1. 花澤寿 思春期におけるダイエットと拒食について 第 20 回日本子ども健康科学会. 千葉. 2018/12.
2. 永田忍 高梨利恵子 松木悟志 清水栄司. テレビ電話による遠隔認知行動療法を実施したパニック症の一事例、第 18 回 日本認知療法・認知行動療法学会. 岡山コンベンションセンター, 岡山. 2018/11/23/-25.
3. 山本利枝, 平野好幸. レジリエンスを育成する授業と児童のメンタルヘルスの関係. 第 45 回日本脳科学会. 千葉. 2018/11/10-11.
4. 野田義和, 浅野憲一, 清水栄司, 平野好幸. The Impact of Events Scale-Revised を用いた日本の災害救援者の PTSD に関するサブグループの差に関する検討. 第 45 回日本脳科学会. 千葉. 2018/11/10-11. 濱谷沙世、平野好幸、林佑太、二瓶正登、高橋純平、清水栄司. 社交不安症における認知行動療法の治療反応性への予測：中枢性統合の観点から. 第 45 回日本脳科学会. 千葉. 2018/11/10-11.

5. 松本一記, 須藤千尋, 関陽一, 沼田法子, 高梨利恵子, 横尾瑞恵, 吉田斎子, 中川彰子, 清水栄司. 強迫症・社交不安症・パニック症の患者への在宅 WEB 会議による遠隔認知行動療法のシングルアーム試験. 第 22 回日本遠隔医療学会学術大会. 九州大学医学部百年講堂・同窓会館, 福岡. 2018/11/10.
6. 濱谷沙世, 沼田法子, 大城恵子, 伊吹英恵, 田中麻里, 薛陸景, 松本一記, 平野好幸, 清水栄司. 過食症へのテレビ電話による認知行動療法の単群試験. 第 22 回摂食障害学会学術集会. 沖縄. 2018/11/08-09.
7. 大平育世, 濱田伊沙名, 浦尾悠子, 清水栄司. 「不安の認知行動療法に基づく予防教育プログラム—これまでの研究成果と今後の展開—」. 第 3 回千葉大学グローバルプロミネット研究基幹シンポジウム, 千葉. 2018/11/06.
8. 松本一記, 清水栄司, 濱谷沙世, 吉野晃平, 白山幸彦, 佐藤康一. 「産後パニック症への認知行動療法の効果: 2 症例報告」. 第 15 回日本周産期メンタルヘルス学会. 神戸女子大学ポートアイランドキャンパス, 兵庫. 2018/10/28.
9. 平野好幸. 認知行動療法の治療効果予測に向けて: 脳画像研究からの検討. 大会企画シンポジウム 1 「不安の認知神経科学的研究: 認知行動療法の発展につなげる」. 日本認知・行動療法学会第 44 回大会. 東京. 2018/10/26-28.
10. 高橋真奈美, 漆畑拓弥, 田桑弘之, 高堂祐平, 松浦哲也, 清水栄司, 佐原成彦, 樋口真人, 伊藤浩. フラビン蛋白蛍光を利用した脳機能イメージングにおける脳血流の影響の補正法の開発. 第 61 回日本脳循環代謝学会学術集会. 岩手. 2018/10/19-20.
11. 大溪俊幸, 大島郁葉, 若林明雄, 羽田野明子, 須藤千尋, 平野好幸, 生稻直美, 潤間励子, 清水栄司, 今関文夫. 自閉スペクトラム症における適応改善の予測指標についての予備的研究. 第 56 回全国大学保健管理研究集会. 東京. 2018/10/03-04.
12. 廣瀬素久, 八木三千代, 中川彰子, 清水栄司. 調剤薬局にて認知行動療法的服薬指導を行った一症例気分障害・不安障害患者へのアプローチ～服薬拒否から減薬まで～. 大原学園金沢校, 石川. 2018/09/23.

13. 富安もよこ、相田典子、柴崎淳、榎園美香子、立花泰彦、川口拓之、佐藤公彦、草切孝貴、村本安武、北川藍、清水栄司、小島隆行、東達也. 早産児の新生児期における脳内代謝物濃度／脳容積／DKI 解析値の発達の予後予測性の検討. 第 46 回日本磁気共鳴医学会大会. 金澤, 石川. 2018/09/07-09.
14. 大島郁葉, 高橋尚子, 桑原斉. 児童思春期の高機能自閉スペクトラム者の社会適応とは何かを考えるー当事者と家族に対する認知行動療法を用いた心理教育プログラム「ASD に気づいてケアするプログラム (ACAT)」を通してー. 第 37 回日本心理臨床学会自主シンポジウム. 神戸, 兵庫. 2018/08/30-09/02
15. 大島郁葉, 新井雅, 岩壁茂, 松見淳子, 桑原知子. 臨床心理的支援における効果研究のあり方ーその課題と展望ー. 第 37 回日本心理臨床学会大会企画シンポジウム. 神戸, 兵庫. 2018/08/30-09/02.
16. 松本一記, 葛西真記子. 自己概念の発達と対人行動に対するニックネームの影響力. 第 40 回国際学校心理学会 (ISPA) 東京大会・日本語プログラム. 東京成徳大学, 東京. 2018/07/25-28.
17. 大島郁葉. 「思春期以降の合併精神症状のある高機能自閉スペクトラム症者に対するスキーマ療法の適応可能性」第 7 回自閉症学研究会. 東京大学, 東京. 2018/07/14.
18. 荒木謙太郎、小園真知子、浅田一彦、清水栄司：言語障害スクリーニングテスト (STAD) のカットオフポイントの検討. 第 19 回日本言語聴覚学会. 富山. 2018/06/22-23.
19. 松本一記, 佐藤康一, 濱谷沙世, 田口佳代子, 吉野晃平, 白山幸彦. 「加害恐怖から音楽プレーヤーを手放せない強迫性障害の男性 松本一記(帝京大学ちは 総合医療センター メンタルヘルス科. 第 23 回千葉総合病院精神科研究会「嗜癖とその周辺」. ホテルグリーンタワー幕張, 千葉. 2018/04/14.
20. 富安もよこ. 「ヒト脳の糖の観測：1H MRS の臨床への可能性」. 第 30 回臨床 MR 脳機能研究会・シンポジウム. 東京. 2018/04/07.

21. 大溪俊幸、吉田智子、生稲直美、岩倉かおり、太和田暁之、潤間励子、今関文夫、細田豊、橋本佐、中里道子、伊豫雅臣、清水栄司、若林明雄.「大学生・大学院生における自閉症スペクトラム傾向と社会適応の関係についての調査」.千葉医学雑誌 (0303-5476) 94 巻 6 号.219-220.2018.12
22. 大溪俊幸、今関文夫、須藤千尋、清水栄司、大島郁葉、平野好幸、若林明雄.「大学生の自閉スペクトラム症に特徴的な脳活動についての検討」.千葉医学雑誌 (0303-5476) 94 巻 6 号.219.2018.12
23. 伊吹英恵、薛陸景、沼田法子、田中麻里、清水栄司.「摂食障害の認知行動療法における治療者の心構えに関する質的研究 他の精神疾患への認知行動療法との比較によるモデル化」.日本認知療法・認知行動療法学会プログラム・抄録集 18 回.212.2018.10
24. 南谷則子、清水栄司.「職業的アイデンティティに埋もれた自己との対話 アサーションを中核にして」.日本認知療法・認知行動療法学会プログラム・抄録集 18 回.207.2018.10
25. 花澤寿. 発達トラウマと愛着について ポリヴェーガル理論による臨床的理解. 第 27 回千葉県臨床精神病理研究会. 千葉市. 2019/03/27.
26. 大島郁葉、服巻智子、桑原斉、本田秀夫. 思春期以降の高機能自閉スペクトラム者に対する「診断」と「特性理解」について：医療・心理・教育的立場からの検討. 日本発達心理学会自主シンポジウム. 早稲田大学. 2019/03/17-19.
27. 松本一記、濱谷沙世、佐藤康一、清水栄司、中川彰子. 強迫症の認知行動療法マニュアルに基づくデジタル教材の有用性：3 症例報告. 第 11 回日本不安症学会学術大会. じゅろくプラザ. 2019/03/01.
28. 本郷美奈子、大島郁葉、岩間由衣、瀬戸美紅子、高橋紀子、佐藤則行、中村志寿佳、清水栄司、稲田尚子、黒田美保. 児童思春期の高機能自閉スペクトラム症者および家族に対する認知行動療法を用いた心理教育プログラム「ASD に気づいてケアするプログ

- ラム (ACAT)」の開発と効果についての検証ー通常診療群を対照とし、併用群の有効性に関するランダム化比較試験ー.ポスター発表. 発達心理学会. 早稲田大学. 2019/03.
29. 大島郁葉. 成人期の高機能自閉スペクトラム症者に対するスキーマ療法：ASD の心理教育と自己理解、トラウマへの対処、自閉症スペクトラム特性に対する機能的な対処方略の構築までの統合的な治療を行った一事例. 認知行動療法学会コロキウム事例発表. 小樽市. 2019/02/22-24.
30. 本郷美奈子, 大島郁葉, 岩間由衣, 瀬戸美紅子, 平野好幸, 須藤千尋, 久能勝, 高橋純平, 中川彰子, 清水栄司. 児童思春期の高機能自閉スペクトラム症者および家族に対する認知行動療法を用いた心理教育プログラム「ASD に気づいてケアするプログラム (ACAT)」の開発と効果についての検証：研究紹介および症例報告. 第 26 回千葉県児童思春期精神医学研究会. 千葉. 2019/01/19.
31. 花澤寿. ストレス論再考 「生きやすさ」を育てるために 第 64 回千葉県養護教諭研究発表会. 千葉市. 2019/01/09.
32. 本郷美奈子, 大島郁葉, 岩間由衣, 瀬戸美紅子, 高橋紀子, 佐藤則行, 中村志寿佳, 清水栄司, 稲田尚子, 黒田美保. 児童思春期の高機能自閉スペクトラム症者および家族に対する認知行動療法を用いた心理教育プログラム「ASD に気づいてケアするプログラム (ACAT)」の開発と効果についての検証ー通常を対照とし、併用群の有効性に関するランダム化比較試験ー. 千葉精神医学会. ミラマーレ千葉. 2019/01.

## 社会活動

1. 浦尾悠子. 第 4 回子どもみんなプロジェクト in 鳥取, 児童・思春期における不安の予防とコントロール. 鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センター, 鳥取. 2018/12/09.
2. 浦尾悠子. 君津地方校長会 生徒指導部, 子どものこころの変化について. 君津教育会館, 千葉. 2018/11/15.

3. 浦尾悠子. 平成 30 年度カウンセラー教員養成研修講座・不登校教育相談研修講座, 子どもの不安の解消法～認知行動療法の視点から～. 石川県教育総合研修センター, 石川. 2018/10/30.
4. 花澤寿. 「生きやすさを育てるために」 千葉市小児科医師会 子育て応援フォーラム 講演. 千葉. 2018/09.
5. 花澤寿. 「ストレス反応の理解とリラクゼーションの実践」 養護教諭志望学生・若手養護教諭のための研修会. 千葉. 2018/09.
6. 杉田克生. 「発達障害・知的障害児の医学的知見」. 平成 30 年度千葉大学教育学部附属特別支援学校夏季研修講座. 千葉. 2018/8/27.
7. 松本一記. 「周産期パニック症の認知行動療法」. 認知行動療法サポーター養成講座. ウェルネス柏 4 階研修室, 千葉. 2018/08/26.
8. 浦尾悠子. 千葉敬愛短期大学 平成 30 年度教員免許状更新講習 不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践」. 千葉敬愛短期大学国際学部棟, 千葉. 2018/08/22.
9. 浦尾悠子. 平成 30 年度安心・安全な学級づくりプロジェクト事業「勇者の旅」プログラム実施に係る小中合同指導者養成研修. 鳥取県教育委員会事務局いじめ・不登校総合対策センター, 鳥取. 2018/08/20.
10. 浦尾悠子・小柴孝子. 子どもみんなプロジェクト in 千葉 不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践. 千葉大学柏の葉キャンパス, 千葉. 2018/08/08.
11. 浦尾悠子. 八女市教育委員会 「勇者の旅」指導者養成研修会. 八女市立福島小学校, 福岡. 2018/08/04.
12. 花澤寿. 「生きやすさを育むために」 就学時健診等における子育て学習講師. 船橋市立薬園台小学校, 千葉. 2018/08.

13. 浦尾悠子・小柴孝子. 子どもみんなプロジェクト in 千葉 不安への対処力を養う認知行動療法の授業実践. 千葉大学亥鼻キャンパス, 千葉. 2018/07/30.
14. 浦尾悠子. 千葉市教育センター 平成 30 年度夏期専門研修「子どもの不安への対処力を育てる」. 千葉市教育会館, 千葉. 2018/7/26.
15. 浦尾悠子. 平成 30 年度カウンセラー教員養成研修講座・不登校教育相談研修講座「子どもの不安の解消法～認知行動療法の視点から～」. 石川賢教育総合研修センター, 石川. 2018/07/18.
16. 大島郁葉. スキーマ療法を学ぶ. 平成 30 年栃木県臨床心理士会医療保健領域研修会. 作新学院大学, 栃木. 2018/07/15-16.
17. 大島郁葉. 「思春期以降の自閉スペクトラム症者に対する理解と支援」. 早稲田大学心理学会. 早稲田大学, 東京. 2018/05/19.

## 受賞

1. 大平育世. 第三回千葉大学グローバルプロミネント研究基幹シンポジウム・優秀発表賞. 2018/11/06.
2. 杉田克生. ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞. 2018/07/20.

## メディア

1. 浦尾悠子. 「認知行動療法 学校現場で広がる 不登校, いじめを防げ」. 毎日新聞. 2018/09/09 (夕刊) 記事
2. 浦尾悠子. 共同通信社より「勇者の旅」プログラムの取り組みの取材を受け、産経新聞、東京新聞、山梨日日新聞、信濃毎日新聞、静岡新聞、徳島新聞、伊勢新聞、日本海新聞、山陽新聞、佐賀新聞、大分合同新聞、長崎新聞、京都新聞、新潟日報、室蘭民報、Japan times の各新聞に掲載されました。「不安な気持ち, ゲーム感覚で不安攻略、しよう 小中学校で広がる心理療法」. 2018/12.

## 千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター 第3回外部評価委員会スケジュール

1. 開催日時 令和元年 12月6日(金) 15:00~16:55
2. 開催場所 千葉大学 亥鼻キャンパス 医薬系総合研究棟Ⅱ 7F セミナー室
3. 出席者  
＜外部評価委員＞  
加我 牧子 先生 東京都立東部療育センター 院長  
丹野 義彦 先生 東京大学 大学院総合文化研究科 教授  
※五十音順  
  
＜千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター＞  
清水 栄司 センター長  
平野 好幸 認知行動脳科学部門 教授  
松澤 大輔 認知行動脳科学部門 特任准教授  
大島 郁葉 メンタルヘルス支援学部門 講師
4. 外部評価委員会タイムスケジュール 司会進行 大島 郁葉  

15:00~15:05	開会ご挨拶 清水 栄司 センター長
15:05~15:10	委員のご紹介と委員長選出 清水 栄司 センター長 外部評価委員長：丹野 義彦先生
15:10~15:15	評価方法とセンター概要について 清水 栄司 センター長
15:15~15:25	心理学的治療部門 清水 栄司 センター長 発表・質疑応答
15:25~15:35	行動医科学部門、Age2 企画室 松澤 大輔 特任准教授 発表・質疑応答
15:35~15:45	こころの地域ネットワーク支援室、こころの発達支援教育部門 大島 郁葉 講師 発表・質疑応答
15:45~15:55	認知情報技術部門、連合小児発達学研究科 平野 好幸 教授 発表・質疑応答
15:55~16:10	文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム(精神関連領域) メンタル・サポート医療人とプロの連携養成 清水 栄司 教授(大学院医学研究院) 発表・質疑応答
16:10~16:25	総合討議
16:25~16:40	評価リスト記入
16:40~16:50	総合評価
16:50~16:55	清水 栄司センター長 閉会のご挨拶

**【評価】**

1～4の各項目に対し、該当する記号に、○をお付けください。

S：極めて適切である

A：適切である。

B：必ずしも適切であるとはいえないため、今後、大幅な再検討を加える必要があ  
る

F：適切ではない

**1) 設立理念・目的**

○ S・A・B・F      a) 設立理念・目的が、構成部門と教員によって共有されているとともに社会に対して公  
表されているか。

○ S・A・B・F      b) 理念・目的に適う、ふさわしい体制が構築されているか。

コメント： センターの設立理念・目的について、自由なコメントの記載をお願いします。

設立理念、目的ともに極めて適切であると評価します。

## 2) 活動内容

### a) 研究

① S・A・B・F

i) 設置目的にかなう内容の研究が、質・量ともに十分な水準で実施されているか。

### b) 教育

① S・A・B・F

i) 目的に沿った履修指導、研究指導が適切に行われ、必要な教員が適切に配置されているか。

① S・A・B・F

ii) 学生の自主的学習等を支援する環境が整備され、社会人学生に対する配慮、遠隔地での履修への配慮がなされているか。

① S・A・B・F

iii) 学生の満足度が高い教育がなされているか。

① S・A・B・F

iv) 相談・助言体制等の支援環境は整えられているか。

① S・A・B・F

v) 教育目標・理念に適う人材が育成されているか。

### c) 社会貢献

① S・A・B・F

i) 重点をおく社会貢献活動が、十分な水準に達しているか。

### d) 管理運営・財務

① S・A・B・F

i) 適切な管理運営体制を構築し、それが適切に機能しているか。

① S・A・B・F

ii) 財務状況は、十分な水準を保っているか。外部資金獲得の努力が適切になされているか。

コメント： センターの活動内容について、自由なコメントの記載をお願いします。

いずれについても、極めて適切であると判断いたします。

### 3) 独創性・革新性

⑤・A・B・F a) 教育研究事業は、独創的あるいは革新的であるか。

コメント： センターの独創性・革新性について、自由なコメントの記載をお願いします。

毎年、新しい事業を立ち上げておられて、それぞれ独創的であり、素晴らしいと思います。今後も期待しています。

### 4) 総合評価

⑤・A・B・F a) 教育研究事業は、設置理念・目的、活動内容、独創性および革新性において、総合的にどのような段階か。

コメント： センターの総合評価について、自由なコメントの記載をお願いします。

センターの総合評価も極めて適切と判断いたします。

認知行動療法をベースとして、毎年のように新たな事業を開拓しておられ、獲得した外部資金も順調に伸びており、総合的に極めて適切と判断できます。

今後のセンターのご発展を期待いたします。

**【評価】**

1～4の各項目に対し、該当する記号に、○をお付けください。

S：極めて適切である

A：適切である。

B：必ずしも適切であるとはいえないため、今後、大幅な再検討を加える必要がある

F：適切ではない

**1) 設立理念・目的**

S・**(A)** B・F

a) 設立理念・目的が、構成部門と教員によって共有されているとともに社会に対して公表されているか。

S・**(A)** B・F

b) 理念・目的に合う、ふさわしい体制が構築されているか。

コメント： センターの設立理念・目的について、自由なコメントの記載をお願いします。

こどものこころの発達への適切な評価介入についての研究と実践の（こどもおよび大人たちも含めて）意義を各部門で理解し共同していると考えます。さらなる発展を期待致します。

## 2) 活動内容

### a) 研究

S (A) B・F            i) 設置目的にかなう内容の研究が、質・量ともに十分な水準で実施されているか。

### b) 教育

S (A) B・F            vi) 目的に沿った履修指導、研究指導が適切に行われ、必要な教員が適切に配置されているか。

S (A) B・F            vii) 学生の自主的学習等を支援する環境が整備され、社会人学生に対する配慮、遠隔地での履修への配慮がなされているか。

S (A) B・F            viii) 学生の満足度が高い教育がなされているか。

S (A) B・F            ix) 相談・助言体制等の支援環境は整えられているか。

S (A) B・F            x) 教育目標・理念に適う人材が育成されているか。

### c) 社会貢献

S (A) B・F            ii) 重点をおく社会貢献活動が、十分な水準に達しているか。

### d) 管理運営・財務

S (A) B・F            iii) 適切な管理運営体制を構築し、それが適切に機能しているか。

S (A) B・F            iv) 財務状況は、十分な水準を保っているか。外部資金獲得の努力が適切になされているか。

コメント： センターの活動内容について、自由なコメントの記載をお願いします。

b)iv) 先生方の御負担がどのくらいか心配致します。先生方も学生さんもいろいろな専門性を背景にしていると思いますので、情報共有や相互の協力をお願いしたいと思います。

v) プロ向け、セミプロ向けを分けて考えておられることは評価できます。

d) 外部研究費も比較的潤沢なようですので今後も御尽力御活躍下さい。人材育成と人材採用が継続できますように。

### 3) 独創性・革新性

S・**A**・B・F a) 教育研究事業は、独創的あるいは革新的であるか。

コメント： センターの独創性・革新性について、自由なコメントの記載をお願いします。

連合大学院の共通の課題と独自の課題を共に進められるとよいと思います。

C B Tを強調できることは強みであると思います。

biological な研究はどれも興味ある分野ですが、臨床観察からえられる研究の視点から独創的なアイデアのさらに生まれることを期待したいと思います。

### 4) 総合評価

S・**A**・B・F a) 教育研究事業は、設置理念・目的、活動内容、独創性および革新性において、総合的にどのような段階か。

コメント： センターの総合評価について、自由なコメントの記載をお願いします。

連合大学院結成から10年、このような形式ができたことの意味は大きいと思います。教育研究体制の多様性からむずかしい面も多いと思いますが世界に貢献する革新的独創的成果（患者さんや子どもたちに還元できる）がもっとできたらよりうれしいことだと思います。

御健闘の継続を期待しております。



平成26～30年度  
千葉大学子どもこころの発達教育研究センター  
自己点検・評価報告書

発行 : 令和2年1月31日  
発行者 : 千葉大学子どもこころの発達教育研究センター  
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1  
TEL : 043-226-2975  
FAX : 043-226-8588  
E-mail : chibarccmd@ML.chiba-u.jp  
HP : <https://www.cocoro.chiba-u.jp>

形のないものだからこそ、  
こころの声は聞こえにくい。

子どものこころの療育・教育のために

